

2025

TBGU シラバス

Faculty of Engineering/
Faculty of Science and Technology

Department of Architectural Environment

工学部 /
科学技術学部

建
築
環
境
学
科

2025 年度入学者用カリキュラム (建築環境学科)

科目名	輝ける者		担当者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	110011251			常勤
D P	1,4		教員研究室	3108
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・通年
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位
				選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする</p> <p>① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。</p> <p>② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。</p> <p>【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ</p> <p>【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する</p>				
授 業 計 画				
<p>----- 導入編 -----</p> <p>1. ガイダンス、グループワーク (アイスブレイク) 2～4. キャリア形成</p> <p>----- 地元を支える活動の実践 -----</p> <p>5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る (働くとは何か) ・企業と地域 (ゲストスピーカー) ・グループワーク (企業へのインタビュー準備) ・多様な働き方 (アシスタ仙台)、企業担当者へのインタビュー</p> <p>----- 地元の産業活動を知る -----</p> <p>13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営</p> <p>----- まとめ -----</p> <p>27、28. グループ発表</p>				
教科書	特に指定しない			
参考書	必要に応じて指示する			
備考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する			

科目名	生命を考える			担当者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏
科目ナンバリング	110011252				常勤
D P	1,4			教員研究室	1427
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期/後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】
21世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会(多様性のある社会)の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。

【学習の到達目標】
健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。

【成績評価方法】
①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの3点から総合的に評価する。
課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。

【課題等のフィードバック方法】
ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。

【履修上の注意・予習・復習について】
原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。

【受講して得られる効果・メリット、その他】
より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。

【実務家教員担当科目】
看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習: シラバスを読む 復習: 指定された資料を確認する	4時間
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習: クラスルームの症例資料を読んでくる 復習: リアクションペーパー、資料を調べる	4時間
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習: 資料を調べる 復習: リアクションペーパー、発表準備	4時間
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習: 発表準備 復習: レポート課題	4時間
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート課題	4時間
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート課題	4時間
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える —生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなど—	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える —生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなど—	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート・リアクションペーパー	4時間
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える —生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなど—	予習: 指定された資料を読む 復習: レポート課題	4時間
教科書	指定なし			
参考書	玉井真理子・大谷いづみ(編)(2011). はじめて出会う生命倫理, 有斐閣アルマ 鯨島浩二(著)植野ゆかり(絵)(2003). わたしがあなたを選びました, 主婦の友社 深澤友紀(著)(2018). 産声のない天使たち, 朝日新聞出版			
備考	講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。			

科目名	現代社会を視る			担当者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜
科目ナンバリング	110011253				常勤
D P	1,4			教員研究室	3304
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期/後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。</p>		<p>Google クラウドルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。</p>		<p>私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>講義を大きく4つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を10点、「3つ課す課題」をそれぞれ5点として5×3=15点の総点25点とする。4つのパートを合わせて100点満点で評価する。</p>		<p>受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。</p>			
【実務家教員担当科目】		該当なし。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4時間
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る(1)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4時間
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る(2)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4時間
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る(3)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4時間
5	豊田・鑑	現代の地域を視る(1)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4時間
6	豊田・鑑	現代の地域を視る(2)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4時間
7	豊田・鑑	現代の地域を視る(3)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4時間
8	野崎・黒沢	現代の仕事を視る(1)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4時間
9	野崎・黒沢	現代の仕事を視る(2)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4時間
10	野崎・黒沢	現代の仕事を視る(3)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4時間
11	田中・山尾	現代の生(ライフ)を視る(1)	受講生自らが自分自身の人生(ライフ)をふり返し、自分の姿を見つめ直してみる。		4時間
12	田中・山尾	現代の生(ライフ)を視る(2)	受講生自らが自分自身の人生(ライフ)をふり返し、自分の姿を見つめ直してみる。		4時間
13	田中・山尾	現代の生(ライフ)を視る(3)	受講生自らが自分自身の人生(ライフ)をふり返し、自分の姿を見つめ直してみる。		4時間
14	山尾	ふり返しー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4時間
教科書	指定無し。				
参考書	講義内で適宜紹介する。				
備考					

科目名	生活の中の科学		担当者	○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧
科目ナンバリング	110011254			常勤
D P	1,4		教員研究室	1403
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・前期/後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位 選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
<p>生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。</p> <p>具体的には、生活の中の電気、命を守る AED(自動体外式除細動器)、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。</p>		<p>授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。</p>		
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】		
<p>科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようになる。</p>		<p>授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。</p> <p>全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。</p>		
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】		
<p>毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。</p>		<p>科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。</p>		
		【実務家教員担当科目】		
		<p>科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の実務家教員も担当し具体的な指導を行う。</p>		

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	鈴木(陽)・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法	4時間
2	浅井 仁	生活の中の電気(100V、200V、直流?)	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。<ミニレポート>	4時間
3	家名田敏昭	生活の中の電気(発電所から送電、家庭までの経路)	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。<ミニレポート>	4時間
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気(人体へ作用する電気)	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。<ミニレポート>	4時間
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。<ミニレポート>	4時間
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの事例を調べる。<ミニレポート>	4時間
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。<ミニレポート>	4時間
8	臨床教員・建築教員	AED正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>	4時間
9	臨床教員・建築教員	AED正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>	4時間
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ: 概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。<ミニレポート>	4時間
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1: 提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>	4時間
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2: アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>	4時間
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ: 成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。<投票、ミニレポート>	4時間
14	鈴木(陽)・長田・八十川・相澤	表彰課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰課題をテーマにレポート作成	4時間
教科書		特に指定しない。		
参考書		その都度必要に応じて紹介する		
備考		なし		

科目名	経済・法律・世界を視る			担当者	○馬内 里美・田邊 文彦 ウォルグレイヴ イーライ
科目ナンバリング	110011255				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1229
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期/後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>In this class, students will explore a number of concepts based around modern society and their place within it. 現代社会の中で自分と社会の関わりを学ぶ科目 As this is a bilingual class, students will utilize English in order to think and talk about their ideas in a new way. 英語を用いたバイリンガル・クラス</p> <p>【学習の到達目標】 1. Form and share own opinions 意見を形成・他者と共有できる / 2. Research and present about an issue of personal interest and impact to them 内容を調べ発表できる / 3. Develop English reading skills in a bilingual class. 英語で伝えられる</p> <p>【成績評価方法】 1. Reflections 40% 授業中の課題実施 / 2. Video Responses (Flip) 40% 課題文章を作成しビデオ投稿 / 3. Personal Presentation 20% 期末プレゼンテーション</p>		<p>Students are expected to prepare a short presentation each week based on the theme, and create a video expressing their ideas. 宿題は Flip で動画投稿をすること</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 This class is discussion-based. Students should attend 2/3 of classes. 2/3 (9回) 以上の課題提出とプレゼンが必要。よって5回以上欠席・課題未提出者はF評価となるので注意</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 Proactive attitude, Communication skills and Logical thinking skills. 「主体的な態度」「コミュニケーション力」「論理的思考力」が身につく</p> <p>【実務家教員担当科目】 実務経験あり</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Syllabus, Class Flow, Self-Introduction シラバス、授業計画、自己紹介	授業時間の2.5倍準備学修(予習・復習等) ※書籍を購読し課題提出、討論振り返り課題提出が9回以上必要なため		1時間
2	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	River Crossing 「川渡りゲーム体験」で「協力」を学ぶ	同上		1時間
3	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Teamwork 「チームワーク」を深く学ぶ	同上		1時間
4	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Chase the Dragon's Tail 「竜の尻尾ゲーム体験」で「状況変化と協力」を学ぶ	同上		1時間
5	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Cooperation & Competition 「協力と競争」の両立可能性を学ぶ	同上		1時間
6	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Change To create a change in your life. 人生に「変化」をもたらすことを学ぶ	同上		1時間
7	田邊文彦・ウォルグレイブ イーライ・馬内 里美	Recap 復習	同上		1時間
8	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Slime Tag 「スライム・タグ・ゲーム体験」でグループ規模毎の対応策を学ぶ	同上		1時間
9	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Risk (Group Work) グループワークで「リスク対処」を学ぶ	同上		1時間
10	田邊文彦・ウォルグレイブ イーライ・馬内 里美	Narrative (Group Work) グループワークで「ストーリー展開」を学ぶ	同上		1時間
11	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Complexity (Group Work) グループワークで「複雑性」を学ぶ	同上		1時間
12	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation 個人プレゼン準備「私の最も印象的な出来事」	同上		1時間
13	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Recap and Preparation まとめとプレゼンテーション	同上		1時間
14	馬内 里美・ウォルグレイブ イーライ・田邊 文彦	Presentation and Feedback プレゼンテーションと振り返り	同上		1時間
教科書	なし。教材は授業ごとに配布する				
参考書	授業中に提示				
備考	1年次配当。探求理解プロジェクト6科目の中で1つを選択する科目 / 英語によるコミュニケーション演習(グループ・ワーク、プレゼンテーション)がある / 5回以上欠席・課題未提出者は単位取得できないので注意				

科目名	社会活動入門			担当者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他
科目ナンバリング	110011256				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1301
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期/後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

<p>【授業内容】 この科目では社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業のCSR (Corporate Social Responsibility) 活動など多様で広範な諸活動を扱う。各学科専攻の教員及び外部講師がそれぞれの切り口で捉えた社会活動について講義する。授業ではグループワーク、プレゼンテーション等を通じて履修生の主体的な学びを促す。</p> <p>【学習の到達目標】 ①社会活動の今日的意義を理解している ②自身の考えを適切に表現することができる ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる</p> <p>【成績評価方法】 授業毎に到達目標①②③の達成度を評価し(小テスト、小レポート、コメントなど授業によって評価方法は異なる)、それらの平均点を以て科目の成績評価とする。 到達目標の達成度評価の配点は次のとおり。 ①社会活動の今日的意義を理解している (40点) ②自身の考えを適切に表現することができる (30点) ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる (30点)</p>	<p>【課題等のフィードバック方法】 授業毎に担当教員が説明する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を厳守すること(原則として期限後の提出は不受理)</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会活動の今日的意義を理解し、自分らしい社会参画の形を見出す一助となる。 グループワーク等を通して、他者と協同して物事に取り組む力が育まれる。 自身の考えを適切に表現する力が涵養される。</p> <p>【実務家教員担当科目】 NPO 法人 COO・経営者・行政・医療福祉系免許所有者など幅広い実務家が、それぞれの立場で社会活動の今日的意義を講義する。</p>
---	--

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	加藤 由美 (地域連携センター長)	科目オリエンテーション	予習: シラバスを熟読し、科目概要を理解する。 復習: オリエンテーション内容に即した学修をスタートさせる	4時間
2	石垣 亨 (NPO 法人 H × Imagine)	地域を活性化させる住民主体の社会活動 ～ NPO 法人 H × Imagine の取り組み	予習: 住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる事例を調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
3	三木 千栄 (医療福祉学部リハビリ科学療法学専攻)	地域の介護予防・健康増進活動をデザインする	予習: 地域の介護予防や健康増進の取り組み事例を調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
4	香山 明美 (医療福祉学部リハビリ科学療法学専攻)	認知症サポーター養成活動 ～誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられることを皆で支える	予習: 認知症サポーターについて調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
5	高卓 輝、他 (医療福祉学部リハビリ科学言語聴覚学専攻)	事例に基づき、自分たちが取り組みたい社会活動を考える	予習: 日本の技術が他国の発展に貢献した事例を調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
6	石川奈津美 (医療福祉学部リハビリ科学視覚機能学専攻)	社会の伸びしろとは? ～ゆるスポーツの取り組み	予習: ゆるスポーツについて調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
7	佐藤 大輔 (医療福祉学部看護学科)	臓器提供に関する諸活動を考える	予習: 臓器提供の種類を調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
8	石橋 千賀 (株式会社 KMSI 代表取締役)	誰もがよりよく生きぬける社会への挑戦	予習: 自分にとって「よりよく生きぬく」とはどのようなことかを具体的に考える。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
9	鈴木 陽一 (工学部知能情報システム学科)	レジリエントな情報通信技術 (ICT) ～災害に強い ICT の社会実装	予習: レジリエンスについて、特に ICT との関連を含めて調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深め、小レポートに取り組む。	4時間
10	岡 恵介 (現代社会学部社会学専攻)	災害救助犬と地域の安心安全 ～災害救助犬の活動	予習: 災害救助犬について調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
11	徳田 律子 (現代社会学部社会学専攻)	視覚に障害のある方とアートを楽しむ ～アートミーツケア活動	予習: 障害者とアート活動について調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
12	大野 朝子 (経営法学部経営法学専攻)	学生によるボランティア活動 ～社会にどうコミットするかを考える	予習: 興味関心のあるボランティア活動を挙げ、その理由を考える。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
13	梅岡 恒治 (工学部建築環境学科)	建築・都市の分野に関わるまちづくり実践 ～街の将来ビジョンに関わる社会参加のありかた	予習: 自身が魅力的だと考える公共空間事例を調べ、魅力的だと考える理由を考察する。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
14	相澤 康弘 (工学部臨床工学科)	臓器移植の現状と課題を考える	予習: 我が国の臓器移植の現況を調べる。 復習: 授業内容を振り返り、理解を深める。	4時間
	教科書	なし		
	参考書	必要に応じて適宜指示する		
	備考	なし		

科目名	英語コミュニケーション I			担当者	○馬内 里美・玉田 千恵 半田 幸子
科目ナンバリング	110021257				常勤・非常勤
D P	4			教員研究室	1221
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	演習	授業時間	30時間	単位	必修 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ダイベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
この授業では、英語を用いた円滑なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、英会話での受け答えの練習に加え、トピックを深く理解するための読解力やボキャブラリーの習得、リスニングスキルの向上を図る。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見を交換する。		毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
様々な文化的背景を持つ海外の人と意見を交換し、互いの文化に対する相互理解を深めるための英語力を身につける。 ・日常的な簡単な質問や応答を、口頭でスムーズに行えるようになる。 ・他者の発話を聞いて理解し、自らの考えを適切な表現で積極的に伝えることができる。		・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全14回の授業のうち10回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%		基本的な英会話力、教材を読んで内容を詳しく理解するための語彙力、外国人と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。			
		【実務家教員担当科目】 該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	玉田 千恵・半田 幸子	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。自己紹介を兼ねた簡単な英会話アクティビティを行う。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。	-	
2	玉田 千恵・半田 幸子	日常会話の基礎(1)：簡単な挨拶や自己紹介の表現を練習し、ペアワークでロールプレイを行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
3	玉田 千恵・半田 幸子	日常会話の基礎(2)：質問と応答のパターン練習(例：趣味、家族など)を行い、ディスカッション形式で意見交換をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
4	玉田 千恵・半田 幸子	リスニングスキル向上(1)：日常生活をテーマにした短い英会話音声聞き、内容理解を問うクイズを実施する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
5	玉田 千恵・半田 幸子	リスニングスキル向上(2)：会話音声聞いて詳細な内容を理解し、ペアで要約して相手に説明する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
6	玉田 千恵・半田 幸子	トピックディスカッション(1)：「私の街の紹介」をテーマに短いスピーチを準備し、ペアまたはグループで共有する。質疑応答の練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
7	玉田 千恵・半田 幸子	トピックディスカッション(2)：「好きな映画や本」をテーマに短いスピーチを準備し、クラス全体でディスカッションと意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
8	玉田 千恵・半田 幸子	読解スキル向上(1)：短い英語の記事を読み、重要な単語やフレーズを確認した後、内容を簡単に要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
9	玉田 千恵・半田 幸子	読解スキル向上(2)：意見を問う記事(例：テクノロジーや環境問題)を読み、要約し、自分の意見を書く練習をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
10	玉田 千恵・半田 幸子	ボキャブラリー強化(1)：日常会話で役立つ英単語や表現を学び、内容理解を問うクイズを実施する。関連する会話練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
11	玉田 千恵・半田 幸子	ボキャブラリー強化(2)：より高度な単語や表現(例：感情表現や意見の述べ方)を学び、短い会話の中で活用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
12	玉田 千恵・半田 幸子	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
13	玉田 千恵・半田 幸子	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	-	
14	玉田 千恵・半田 幸子	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。	-	
教科書	担当教員の指示に従ってください。				
参考書	適宜、授業で指示する。				
備考	特になし				

科目名	英語コミュニケーションⅡ			担当者	○馬内 里美・半田 幸子 玉田 千恵
科目ナンバリング	110021258				常勤・非常勤
D P	4			教員研究室	1229
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	30時間	単位	必修 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】

この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加え、より円滑なコミュニケーション能力を養うために、英会話、読解力、ポキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。

【学習の到達目標】

異なる文化的背景を持つ外国人と、円滑かつ継続的にコミュニケーションを図るための英語力を身につける。
 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通を図ることができる。
 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用し、自分の理解を相手に確認しながら会話を続けることができる。

【成績評価方法】

成績評価は以下を総合的に判断する。
 ・授業中のディスカッションにおける積極的発言 50%
 ・各授業で学んだポキャブラリーの修得実績 30%
 ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%

【課題等のフィードバック方法】

毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。

【履修上の注意・予習・復習について】

・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。
 ・全14回の授業のうち10回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。

【受講して得られる効果・メリット、その他】

ある程度の詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。

【実務家教員担当科目】

該当なし

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	半田 幸子・玉田 千恵	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ内容を振り返り、自己紹介アクティビティを実施する。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。	4時間
2	半田 幸子・玉田 千恵	コミュニケーションストラテジー(1)：聞き返し、言い換え、確認の方法を学び、ロールプレイを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
3	半田 幸子・玉田 千恵	コミュニケーションストラテジー(2)：意見の対立や誤解が生じた際の対応スキルを学び、ディスカッションを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
4	半田 幸子・玉田 千恵	リスニング応用スキル(1)：ニュースやインタビューの音声を使い、主旨と詳細を聞き取る練習を行う。重要なフレーズを抜き出して要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
5	半田 幸子・玉田 千恵	リスニング応用スキル(2)：長めの英語音声聞き取り、要点とスピーカーの意見を整理する。ペアで音声の内容について議論する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
6	半田 幸子・玉田 千恵	トピックディスカッション(1)：「旅行と異文化体験」をテーマに、各自の経験や考えについてディスカッションを行い、文化的な違いへの気づきを共有する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
7	半田 幸子・玉田 千恵	トピックディスカッション(2)：「グローバルな課題(例：気候変動や国際支援)」をテーマに議論し、自分の立場を明確に示しながら意見を述べる。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
8	半田 幸子・玉田 千恵	読解応用スキル(1)：英語の記事を読み、文脈から単語の意味を推測する練習を行う。内容を要約し、自分の意見を短い文章で表現する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
9	半田 幸子・玉田 千恵	読解応用スキル(2)：社会問題に関する記事(例：環境問題やAIの影響)を読み、グループで意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
10	半田 幸子・玉田 千恵	ポキャブラリー応用(1)：複雑な感情表現や意見を述べる際に使える語彙を学び、実際の会話で活用する練習を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
11	半田 幸子・玉田 千恵	ポキャブラリー応用(2)：アカデミックなトピックに関連する英単語や表現を学び、リスニングやスピーキングに応用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
12	半田 幸子・玉田 千恵	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
13	半田 幸子・玉田 千恵	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	4時間
14	半田 幸子・玉田 千恵	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。	4時間
教科書	担当教員の指示に従ってください。			
参考書	適宜、授業で指示する。			
備考	特になし			

科目名	海外研修		担当者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉
科目ナンバリング	1100212513			常勤
D P	4		教員研究室	1328
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・通年
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位
				選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外(英語圏、中国、韓国)へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム(必須条件: 所定の計画書の提出、5日以上での渡航、研究テーマの設定)</p> <p>【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。</p> <p>【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25%</p>				
<p>【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることにつながる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当なし</p>				
授 業 計 画				
<p>【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習1日目 8～12 実習2日目 13～17 実習3日目 17～21 実習4日目 22～26 実習5日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会</p>				
教科書	資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。			
備考	各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project (GEP) の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容(2)の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq			

科目名	スポーツ実技		担当者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定
科目ナンバリング	1100212514			常勤・非常勤
D P	4		教員研究室	1304
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・前期
授業形式	実習	授業時間	45時間	単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。			【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。	
【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。			【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出る。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。	
【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する70%、実技内評価・課題レポート30%			【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。	
			【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。	
授 業 計 画				
(実施種目) 屋内種目「球技系(バスケットボール・バレーボール),ラケット系(バドミントン・卓球&レクリエーション),フィットネス系(トレーニングなど)」屋外種目「サッカー(フットサル),ソフトテニス(テニス)」以上の実技種目の中から原則1種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2: オリエンテーション(種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて) 3~22: 各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。				
教科書	特になし。			
参考書	「ビジュアルスポーツ小百科」大修館書店(980円)			
備考	※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員: 犬塚 剛、森田清美			

科目名	心理学概論			担当者	北川 公路
科目ナンバリング	1100212515				常勤
D P	2			教員研究室	3204
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。</p> <p>本講義では、心理学の成り立ち、ひとのこころの基本的な仕組み及びはたらき、その概観を説明していく。心理学の基礎知識を学び、人間の行動を科学的に研究する方法や研究領域ごとの特色を理解した上で、こころのとらえ方、メカニズム、こころの問題へのアプローチ方法まで学習する。心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。心理学の各領域についての講義を通じ、学問としての裾野の広さを理解できるようにする。</p> <p>担当教員の公認心理師としての経験をもとに、講義を通して紹介する。</p>			
【学習の到達目標】		<p>(1) 心理学の様々な領域の用語の意味について記述できる。</p> <p>(2) 心理学の知識をもとに、人間行動を解釈することができる。</p> <p>(3) 人間を科学的に考える立場から現実社会の問題についての議論に参加できる。</p>			
【成績評価方法】		<p>定期試験(60%)と講義内課題・参加(40%)による総合評価。</p>			
【課題等のフィードバック方法】		<p>講義ごとにリアクションペーパーの提出を求めている。その提出物は次の講義で返却をする。質問については授業で紹介していく。</p>			
【履修上の注意・予習・復習について】		<p>事前に配布されている資料を読んでくることを予習とする、講義中の議論の際は積極的に参加すること。</p>			
【受講して得られる効果・メリット、その他】		<p>人間をより理解することができるようになると考えられる。</p>			
【実務家教員担当科目】		<p>公認心理師が当該科目を担当する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	ガイダンス、心理学とは	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
2	北川 公路	心理学の歴史	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
3	北川 公路	学習と記憶	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
4	北川 公路	感情と動機づけ	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
5	北川 公路	知覚と注意	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
6	北川 公路	認知機能の障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
7	北川 公路	人格の理論と測定	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
8	北川 公路	発達と発達障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
9	北川 公路	言語と思考	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
10	北川 公路	心の健康と適応	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
11	北川 公路	心の病態 アセスメント	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
12	北川 公路	個人と集団	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
13	北川 公路	心理学の応用 心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
14	北川 公路	心理学の応用 心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4時間
教科書	指定なし。				
参考書	講義が進む中で適宜、紹介する。				
備考	特記事項無し。				

科目名	健康科学			担当者	古林 俊晃
科目ナンバリング	1100212517				常勤
D P	2			教員研究室	1203
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	15時間	単位	必修 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える		講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroomでの説明など）			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる		・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
授業後確認テスト（各回10点×全7回⇒70点）と最終授業終了後のレポート課題（30点）にて成績判定を行う		疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	古林 俊晃	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
2	古林 俊晃	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
3	古林 俊晃	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
4	古林 俊晃	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
5	古林 俊晃	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
6	古林 俊晃	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
7	古林 俊晃	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること	4時間
教科書	授業資料を Google classroom にて配布する			
参考書	必要に応じて、各授業時に紹介する			
備考	不明な点は授業担当者に問い合わせること			

科目名	生活の中の生物学			担当者	小田切孝人
科目ナンバリング	1100212520				常勤
D P	3			教員研究室	1319
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ		レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる		予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
レポート 60% ミニレポート(小テストに変えることもある) 40% 詳しいことは授業に置いて説明します		私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ることで、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる			
		【実務家教員担当科目】 該当せず			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小田切孝人	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れられないか	予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認	4時間
2	小田切孝人	細胞1：細胞の種類と細胞膜の構造	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
3	小田切孝人	細胞2：核と細胞小器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
4	小田切孝人	細胞3：栄養と代謝とエネルギー	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
5	小田切孝人	遺伝情報1：遺伝のメカニズム	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
6	小田切孝人	遺伝情報2：遺伝病	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
7	小田切孝人	細胞分裂1：分裂の仕方	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
8	小田切孝人	細胞分裂2：減数分裂	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
9	小田切孝人	人体の階層構造1：組織と器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
10	小田切孝人	人体の階層構造2：器官系	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
11	小田切孝人	ホメオスタシス1：生体の維持のしくみ	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
12	小田切孝人	生体防御機構と免疫	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
13	小田切孝人	成長と老化	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
14	小田切孝人	生命倫理	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4時間
教科書	講義時に指示する			
参考書	講義時に指示する			
備考	連絡事項があれば講義時に指示する			

科目名	生活と地球科学			担当者	千葉 一
科目ナンバリング	1100212521				非常勤
D P	3			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
人類は経済活動(利潤追求)を優先するあまり、環境や気候変動の問題を半ば放置して来た。しかしその人類の生態は、大きなパラダイムシフトを迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。		提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。		私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退席は禁止する。授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックスを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
定期試験による評価と提出物(講義中)で総合評価とする。評価比率：定期試験 70%・提出物 30%。詳しくは、初回講義の際に説明する。		人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。			
		【実務家教員担当科目】			
		3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	千葉 一	教科に関する説明と授業の進め方を説明する。	次回学習内容を予習。		4時間
2	千葉 一	人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。		4時間
3	千葉 一	経済活動と地球温暖化	経済活動の過剰性についてまとめる。次回学習内容を予習。		4時間
4	千葉 一	地球温暖化のメカニズム	温室効果ガスの削減についてまとめる。次回学習内容を予習。		4時間
5	千葉 一	地球温暖化に伴う環境の激変	気候変動枠組み条約についてまとめる。次回学習内容を予習。		4時間
6	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。		4時間
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	前半6回の講義内容を理解・整理する。次回学習内容を予習。		4時間
8	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。		4時間
9	千葉 一	経済成長と自然海岸の破壊	海浜の重要性を認識する。次回学習内容を予習。		4時間
10	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。		4時間
11	千葉 一	森林破壊と生態系サービス	急速な森林破壊の現状を理解する。次回学習内容を予習。		4時間
12	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。		4時間
13	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。		4時間
14	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	後半6回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。		4時間
教科書	特になし。資料を適宜配布する。				
参考書	清水美香(編著)2023『レジリエンス—よみがえる力—森・風景・地域・人の交差の中で』, 日本評論社. 原慶太郎ほか(編著)2021『自然と歴史を活かした震災復興—持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』, 東京大学出版会.				
備考	特になし。				

科目名	データサイエンス入門			担当者	○須藤 諭・佐藤 一 福井 啓太
科目ナンバリング	1100212522				常勤・非常勤
D P	2			教員研究室	1318 (須藤)・非常勤講師室 (佐藤・福井)
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ダイベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。</p> <p>授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p>		<p>Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分 (1～7) と後半 7 回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業では BYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するので必ず持参すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 なし</p>			
【学習の到達目標】		【成績評価方法】			
<p>1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。</p>		<p>全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。		4時間
2	佐藤 一	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。		4時間
3	佐藤 一	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。		4時間
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。		4時間
5	佐藤 一	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。		4時間
6	佐藤 一	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。		4時間
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。		4時間
8	須藤 諭・福井 啓太	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。		4時間
9	須藤 諭・福井 啓太	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。		4時間
10	須藤 諭・福井 啓太	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。		4時間
11	須藤 諭・福井 啓太	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。		4時間
12	須藤 諭・福井 啓太	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。		4時間
13	須藤 諭・福井 啓太	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。		4時間
14	須藤 諭・福井 啓太	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。		4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	現代史			担当者	星野 修
科目ナンバリング	1100212525				非常勤
D P	2			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>冷戦後の日本と国際社会の変化と現状について、次の2つの問題を考察するという講義をします。</p> <p>一つ目は、「なぜ、日本の政治は、こんなにも面白くないのか」という問題です。近年の国政選挙の投票率は、50%台前半です。日本の有権者の4,300万から5,000万人以上が棄権しており、20代の若者のおよそ3人に1人しか投票に行きません。日本の投票率の低さ、また若者の政治的関心の低さは、国際的にも群を抜いています。いつから、なぜ、日本の有権者は、政治に関心も期待も持たなくなったのでしょうか。</p> <p>二つ目の問いは、「国際社会において、民主主義は、なぜ、人気をなくし、専制化する国々が増えているのでしょうか」です。世界の人口の70%は、現在、専制体制の下で、自由も権利も奪われて生きています。「専制化の第3の波」といわれるこの状況は、いつ頃から、またなぜ、生じたのでしょうか。</p> <p>この2つの問いに答えるかたちで、現代史の最も重大な問題を考察していきます。</p>		<p>講義の終わりに質問時間を設けて、それに回答すると共に、重要な質問については、受講者全員で討議します。また、講義中の質問も随時受けつけます。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の飲食、また遅刻を厳禁します。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代史の動向・変化を理解することによって、有権者としての基礎知識と判断力とを身につけることができますようになります。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当しない。</p>			
【学習の到達目標】		【成績評価方法】			
<p>日本社会と国際社会の、ここ30年間ぐらいの動向・変化を理解するための、基礎的知識と社会・政治理論とを習得することです。</p>		<p>中間試験(30点)と期末試験(70点)の合計で評価します。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	星野 修	1. 現代日本社会と国際社会の現状——講義の概要について——	講義録/配付資料を復習/予習し、また次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
2	星野 修	2. 日本の有権者の投票行動とその変化——国際比較——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
3	星野 修	3. 選挙制度——中選挙区制から小選挙区・比例代表並立制への転換——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
4	星野 修	4. 政党システムの変遷——選挙制度との関連——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
5	星野 修	5. 統治システム——議院内閣制、大統領制、半大統領制——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
6	星野 修	6. 政治体制の分類——民主制と専制——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
7	星野 修	7. ドイツと韓国との比較考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
8	星野 修	8. 国際社会の現状と変化——「民主化の第3の波」とその終焉——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
9	星野 修	9. 「専制化の第3の波」について	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
10	星野 修	10. 専制化の事例①——東欧諸国——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
11	星野 修	11. 専制化の事例②——南アジア——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
12	星野 修	12. 専制化の歴史的考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
13	星野 修	13. 専制化の現状の考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。	4時間	
14	星野 修	14. 専制化と再民主化の展望	講義録/配付資料を復習し、疑問点をまとめておく。期末試験まえに回答する。	4時間	
教科書	用いない。毎回、講義のレジュメと資料を配付します。				
参考書	用いない。(ただし、講義中に、参考文献は、随時、紹介します。)				
備考	自由な参加・討論型の講義にしたいと思っていますので、学生諸君の活発な発言を期待します。また、しばしば教員からも質問します。				

科目名	東北の歴史			担当者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1100212526				常勤
D P	2			教員研究室	1124
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>歴史学の基礎講座(3回程度)に始まり、近世の統治機構と都市構造について学びその地方史観から見た中央政権との関係史について学ぶ。また、人文科学系の学問の基礎となる史(資)料の読み方・使い方についても解説する</p> <p>【学習の到達目標】 従来の中央史観からではなく東北から見た地域史観のもと、人文科学的な検証を行うことで、広い視野と新たな切り口で現代の社会を見直す目を養う</p> <p>【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出(3回程度)を求め、その内容で評価する</p>		<p>講義に関する史資料等の把握及び博物館等へも赴くことで歴史学への意識を高めることを希望する</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 テキストは授業毎のレジュメとPP資料により行う。なお、エクスカージョンを実施(必須)するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域の歴史・文化等を学ぶことで、近年叫ばれている地域創生の一翼を担う感性を養う</p> <p>【実務家教員担当科目】 なし</p>			
授 業 計 画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要と基礎講座Ⅰ(歴史区分と) 2. 基礎講座Ⅱ(貨幣の歴史と度量衡) 3. 基礎講座Ⅲ(暦の歴史と元号・時間) 4. 近世の統治機構(幕藩体制における大名統治) 5. 近世の都市構造Ⅰ(江戸と江戸城) 6. 近世の都市構造Ⅱ(仙台と仙台城) 7. 近世の都市構造Ⅲ(米沢城下の構築) 8. 近世の都市構造Ⅳ(会津と若松城下) 9. 奥州抗争史の群像Ⅰ(蝦夷征伐と多賀城) 10. 奥州抗争史の群像Ⅱ(奥州藤原氏と奥州合戦) 11. 奥州抗争史の群像Ⅲ(戊辰戦争の真実) 12. 自治体史(誌)の編纂について 13. 史学概論(歴史史料の読み方・使い方) 14. エクスカージョン(仙台城址と仙台市博物館) 					
教科書	エクスカージョンを除き、毎回レジュメとPP資料を使用				
参考書	東北各県・市町村の自治体史(誌)の他、授業中に参考文献を指示				
備考	エクスカージョンの実施については、授業時間外の土曜等を予定するので、予め承知すること				

科目名	憲法と法律			担当者	淡路 智典
科目ナンバリング	1100212529				常勤
D P	2			教員研究室	1224
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】
 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。

【学習の到達目標】
 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。

【成績評価方法】
 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。
 内訳：期末試験 80%、毎回の小テスト 20%

【課題等のフィードバック方法】
 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。

【履修上の注意・予習・復習について】
 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。

【受講して得られる効果・メリット、その他】
 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。

【実務家教員担当科目】
 該当しない。

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書(判例集)の読み方を理解する	4時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む	4時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する	4時間
4	淡路 智典	精神的自由権(内心の自由)	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する	4時間
5	淡路 智典	精神的自由権(表現の自由)	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する	4時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する	4時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する	4時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	4時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	4時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	4時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する	4時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	4時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	4時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	4時間
教科書	岡田順太/淡路智典/今井健太郎編『判例キープポイント憲法』(成文堂、2020年、ISBN: 978-4-7923-0666-3)			
参考書	芦部信喜『憲法(第8版)』(岩波書店、2023年、ISBN: 9784000616072)			
備考	特になし。			

科目名	生活と経済			担当者	奥山 忠裕
科目ナンバリング	1100212530				非常勤
D P	2			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本講義では、生活を取り巻く様々な問題について経済活動を中心に学んでいきます。内容としては、経済の基礎、環境・資源問題、労働、公共政策、まちづくりの思考について学びます。</p> <p>【学習の到達目標】</p> <p>到達目標は以下のとおりです。</p> <p>①各テーマでの基礎的な知識を身につける</p> <p>②各テーマでの社会の課題を理解する</p> <p>③各テーマの内容を説明できるようになる。</p> <p>【成績評価方法】</p> <p>初回講義の課題を2点、2回目以降の課題が6点×13回＝78点、レポート2回×10点の計100点で評価します。公欠等を除き5回以上の欠席者は単位の取得を認めないことがあります。</p>		<p>適宜質問に応じます。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>Google Classroomで毎回配布する講義資料を必ず印刷してもってくる。ニュースや新聞を読み、生活を取り巻く問題に関心をもってください。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>経済や環境、労働、公共政策といった日々の暮らしに近い社会課題の基礎を身につけることができます。関連する専門分野の理解が容易になると思います。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>特になし</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	奥山 忠裕	ガイダンス、経済の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習①を行う	4時間
2	奥山 忠裕	市場の考え方と需要	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習②を行う	4時間
3	奥山 忠裕	供給と均衡の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習③を行う	4時間
4	奥山 忠裕	外部性と環境問題	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習④を行う	4時間
5	奥山 忠裕	環境問題の分類	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑤を行う	4時間
6	奥山 忠裕	循環型社会とは	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑥を行う	4時間
7	奥山 忠裕	公共政策の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑦を行う	4時間
8	奥山 忠裕	公共政策の手段	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑧を行う	4時間
9	奥山 忠裕	公共と協働の取り組み	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑨を行う	4時間
10	奥山 忠裕	労働市場をみる①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑩を行う	4時間
11	奥山 忠裕	労働市場をみる②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑪を行う	4時間
12	奥山 忠裕	景気と労働	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑫を行う	4時間
13	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑬を行う	4時間
14	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑭を行う	4時間
教科書	特になし			
参考書	適宜講義中に指示する			
備考	特になし			

科目名	建築史			担当者	○山本 和恵・梅岡 恒治
科目ナンバリング	1100312532				常勤
D P	1,2			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
近代建築史、日本建築史、西洋建築史を概説する。特に近代建築の成立過程には時間を割き、建築技術と産業構造の変革の中で建築の形態と設計思想が大きく変革し現代建築につながる過程を解説する。		・確認テストの答え合わせと解説 ・講義中の質疑等			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
建築構造と建築意匠に対する歴史観を身につける。現在にいたる建築の歴史を知ること、思考の基礎と思考の幅を広げる。二級建築士・一級建築士受験レベルの最低限の知識を身につける。		教科書を熟読し、授業で薦められた参考図書については通読すること。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
時間中の演習の提出等により出席を管理する。基本的には期末試験によって評価する(2/3以上の出席が受験条件)。優良な日常摘出物については加点対象とする。梅岡 5/14、山本 9/14 の比率で最終成績とする。		歴史認識なしに新たな環境創造は成立しない。最低限の基礎知識を身につける意味で重要である。			
		【実務家教員担当科目】			
		梅岡恒治：梅岡設計事務所主宰の実務家教員			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	梅岡 恒治	講義ガイダンス／西洋建築史 1	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
2	梅岡 恒治	西洋建築史 2	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
3	梅岡 恒治	西洋建築史 3	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
4	山本 和恵	近代建築史 1：産業革命以降のS造の建築技術史	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
5	山本 和恵	近代建築史 2：RC造建築技術史／近代都市の形成近	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
6	山本 和恵	近代建築史 3：近代芸術運動 1	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
7	山本 和恵	近代建築史 4：近代芸術運動 2	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
8	山本 和恵	近代建築史 5：近代芸術運動 3	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
9	山本 和恵	近代建築史 6：近代建築家の活躍 1	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
10	山本 和恵	近代建築史 7：近代建築家の活躍 2	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
11	山本 和恵	近代建築史 8：近代建築家の活躍 3	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
12	山本 和恵	近代建築史 9：日本近代建築史	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
13	梅岡 恒治	日本建築史 1	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
14	梅岡 恒治	日本建築史 2	予習：教科書の通読 復習：講義内容の復習と興味関心を持った事項についての情報収集	4時間
教科書	「カラー版 図説 建築の歴史」西田雅嗣他 学芸出版			
参考書	必要に応じて指示する			
備考	問い合わせは山本まで			

科目名	建築計画 I			担当者	梅岡 恒治
科目ナンバリング	1100312533				常勤
D P	1,2			教員研究室	1315
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>建築を学ぶ学生にとって、建築設計の技術を習得することは、大きな目標である。そのために建築計画学があり、設計技術に直結する重要な分野として位置づけられている。しかし、その内容は多岐にわたるため膨大かつ難解である。そこでこの授業では、各種建築物が実際にどのような考えに基づいて設計されているのか、それらの設計ノウハウを解説しながら、建築計画学の概要を総体的に理解していく。</p>		<p>演習・レポート課題や小テストを実施し、評価・解説を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>人間工学・環境工学等、建築学の導入的知識に触れ、専門教育を受ける素養を培う。建築物(空間)がどのような計画論に基づいて成立しているのか、建築設計者にとって常識とも言える建築計画・設計方法を理解する。</p>		<p>毎講義、演習やビデオ視聴のレポート課題を実施する。未提出者は欠席扱いとする。授業計画を参考に、テキストを一読する等予習・復習を行い、授業に臨む。私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退席は禁止する。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>演習・レポート等の提出状況が30%、試験結果を70%程度とし、総合的に評価する。</p>		<p>これから建築学の各専門分野を学んでいく上で、何が建築設計に必要な基礎技術であるのか、その重要度を判断できる素養を得られる。</p>			
【実務家教員担当科目】		<p>建築設計事務所において公共建築等の設計・監理業務経験のある教員が、各種建築物の設計手法等を、主に建物の機能的側面から講義する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	梅岡	建築計画の位置づけ・建築設計事例紹介・空間構成・設計手法	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
2	梅岡	壁・天井・床・屋根・外構・階段・建具・開口部	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
3	梅岡	図面記号	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
4	梅岡	建物寸法・家具寸法・身体寸法	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
5	梅岡	生活動線・部屋のゾーニング	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
6	梅岡	敷地の構成、部屋の構成、各種設備、単位空間	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
7	梅岡	木構造・鉄骨造・RC造・バリアフリー・日射・断熱・採光・照明・通風	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
8	梅岡	用途地域・建蔽率・容積率・高さ制限	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
9	梅岡	住宅建築史	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
10	梅岡	集合住宅建築史	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
11	梅岡	敷地・既存住戸の分析	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
12	梅岡	平面計画	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
13	梅岡	断面計画	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
14	梅岡	住宅の提案発表	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		4時間
教科書	「住まいの建築計画」 今村仁美 他著 学芸出版社				
参考書	適宜、紹介する。				
備考	適宜、教材資料を配布する。				

科目名	建築環境工学 I			担当者	○二科 妃里・野崎 淳夫
科目ナンバリング	1100312534				常勤
D P	1,2			教員研究室	1317 教員研究室 / 1311 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1 年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30 時間	単位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT 活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築環境を物理的に捉え、考える能力は建築物を設計施工する上で欠かせない。 まず、建築物は居住者を外界刺激から守る性能を有している必要があり、次に建築物内部において、居住者是不快ではなく快適と感ずる建築環境の要件を知る必要がある。 本講義では、温熱、空気、光、音、都市の熱環境などについて、これらの要素が、建築環境を如何にして構成するかを学び、また建築士試験に対応できる能力を身に付ける。		小テスト等の解説は、次の授業や classroom でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 建築環境を豊かにする建築環境工学の所掌内容を理解し、建築士試験に必要な基礎知識を習得できる。 【実務家教員担当科目】 建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、建築物を設計・建設するために必要な環境工学の基礎を講義する。			
【学習の到達目標】		【成績評価方法】			
温熱、空気、換気、通風、採光、遮熱・・・などについて、建築物との関わりを理解する。建築環境工学で取り扱うその他の要素については、建築環境工学 II で履修する。		小テスト：20 [%]、中間試験：30 [%]、定期試験：50 [%] の結果を総合的に判断して評価する			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	二科 妃里・野崎 淳夫	建築環境工学のしくみ	ガイダンス 建築環境工学の仕組みについて事前調査、予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
2	二科 妃里・野崎 淳夫	屋外気候	教科書、配布資料で「屋外気候（太陽位置と影）」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
3	二科 妃里・野崎 淳夫	日射・日照	教科書、配布資料で「日射・日照」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
4	二科 妃里・野崎 淳夫	熱環境	教科書、配布資料で「熱環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
5	二科 妃里・野崎 淳夫	湿度・湿気	教科書、配布資料で「湿り空気と温度」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
6	二科 妃里・野崎 淳夫	湿度・湿気	教科書、配布資料で「湿気と結露」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
7	二科 妃里・野崎 淳夫	温熱環境	教科書、配布資料で「温熱」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
8	二科 妃里・野崎 淳夫	空気環境	教科書、配布資料で「空気汚染」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
9	二科 妃里・野崎 淳夫	空気環境	教科書、配布資料で「換気」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
10	二科 妃里・野崎 淳夫	光環境	教科書、配布資料で「視覚、照明」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
11	二科 妃里・野崎 淳夫	光環境	教科書、配布資料で「色彩計画」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
12	二科 妃里・野崎 淳夫	音環境	教科書、配布資料で「建築と音環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
13	二科 妃里・野崎 淳夫	都市の熱環境	教科書、配布資料で「ヒートアイランド現象」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1 時間
14	二科 妃里・野崎 淳夫	建築環境工学のまとめ	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する		1 時間
教科書	はじめての建築環境工学：小林茂雄・中島裕輔・西村直也・古屋浩・吉永美香 著、彰国社				
参考書	指定しない				
備考	問い合わせ先：二科 妃里（1317 教員研究室） / 野崎淳夫（1311 教員研究室）				

科目名	構造力学 I			担当者	一條 佑介
科目ナンバリング	1100312535				常勤
D P	1,4			教員研究室	1313
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築構造力学の導入として、構造物の力のつり合いの計算と応力図の表現が身につくように、繰り返しトレーニングするための講義である。 水平・同一素材の単純梁と片持ち梁に限定して、反力とモーメントならびにせん断を求める方法を学ぶ。あわせてトラスを題材にして、軸力を求める方法を学ぶ。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
構造物の力学モデルを理解し、単純梁、片持ち梁、トラス構造における力のつり合いと各応力を算出する方法を身につける。		毎回小テストを行うので、復習をして講義に臨むこと。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
小テスト 50%、定期試験 50%。		構造力学を習得するための基礎的知識と力学的センスを身につけることができる。			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし。			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	一條 佑介	力のつり合い	教科書、配布資料で「力の基礎、力の釣り合い」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
2	一條 佑介	構造物の力学モデルの理解	教科書、配布資料で「構造物のモデル化」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
3	一條 佑介	片持ち梁・単純梁の反力 1	教科書、配布資料で「構造物の反力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
4	一條 佑介	片持ち梁・単純梁の反力 2	教科書、配布資料で「構造物の反力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
5	一條 佑介	曲げモーメントの理解	教科書、配布資料で「曲げモーメント」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
6	一條 佑介	曲げモーメント図	教科書、配布資料で「曲げモーメント」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
7	一條 佑介	せん断応力・軸力の理解	教科書、配布資料で「せん断応力・軸力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
8	一條 佑介	せん断応力図・軸力図	教科書、配布資料で「せん断応力・軸力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
9	一條 佑介	応力計算演習	教科書、配布資料で「応力計算」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
10	一條 佑介	トラスの理解	教科書、配布資料で「トラスの考え方」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
11	一條 佑介	トラスの解法 1	教科書、配布資料で「トラスの図解法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
12	一條 佑介	トラスの解法 2	教科書、配布資料で「トラスの切断法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
13	一條 佑介	トラス計算演習	教科書、配布資料で「トラス計算」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
14	一條 佑介	総合演習	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	1時間	
教科書	「図説やさしい構造力学」 浅野清昭 学芸出版社				
参考書	特に指定しない。				
備考	適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：一條佑介 (1313 教員研究室)				

科目名	建築数学基礎			担当者	二科 妃里
科目ナンバリング	1100312549				常勤
D P	1,3			教員研究室	1317 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本講義では、建築学・環境工学等の基礎的な素養である数理的センスを単位換算および物理学の初歩を学ぶことで身につける。</p> <p>なお、毎回、高校程度の基礎的な数学力をもっている学生が、わずかな努力で習熟できるように演習と併行させながら教授する。また、下記のスケジュールでは一般的な表現をとったが建築、設備、環境の事例を引きながら進めていく。</p>		<p>・演習課題の解説は、次回の講義にて行うものとする。</p> <p>・演習課題等の提出状況については、適宜周知する。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>環境工学・建築学・建築設備学等を学ぶ上で必要となる数理の基礎的知識を修得する。</p>		<p>講義に対する姿勢も重要視する。</p> <p>使用教科書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。</p> <p>講義終了時に講義の内容の復習として、演習課題を課すことがある。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>小テスト：20%、演習課題：30%、定期考査：50%等を総合して評価する。</p>		<p>基礎知識を修得することにより、後の専門教育の学習効率が向上する</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	二科	ガイダンス・量と単位	教科書の量・単位について予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
2	二科	単位換算(1)	教科書の時間・長さ・面積・重さなどに関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
3	二科	単位換算(2)	教科書の体積・速度・流量などに関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
4	二科	工学における基本的な物理学と演習(1)	教科書の速さ・加速度・力・仕事・仕事率などに関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
5	二科	工学における基本的な物理学と演習(2)	教科書のエネルギー・圧力・応力などに関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
6	二科	相似則・縮尺の表し方・縮尺変換	教科書の相似則・縮尺の表し方・縮尺変換に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
7	二科	建築の面積に関する基礎知識(1)(建物の床面積の求め方、延べ面積と容積率)	教科書の建物の床面積の求め方、延べ面積と容積率に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
8	二科	建築の面積に関する基礎知識(2)(建築面積と建ぺい率)	教科書の建築面積と建ぺい率に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
9	二科	不等式と大小関係	教科書の不等式と大小関係に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
10	二科	数式の基礎知識(1)(基本的な数式、比と比例式)	教科書の数式、比と比例式に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
11	二科	数式の基礎知識(2)(平方根、連立方程式、二次方程式)	教科書の平方根・連立方程式・二次方程式に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
12	二科	三角形の角度と辺の長さの関係	教科書の三角形の角度・辺の長さの関係に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
13	二科	三角形の面積	教科書の三角形の面積に関する部分を読んで予習する。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、復習する。		1時間
14	二科	総合演習	演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し、予習・復習する。		1時間
教科書	やさしい建築数学(今村仁美、大谷一翔)、学芸出版社				
参考書	特に指定しない				
備考	適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：二科(1317教員研究室)				

科目名	建築情報リテラシー			担当者	○川村 広則・大泉 浩一
科目ナンバリング	1100312550				常勤・非常勤
D P	1,3			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>コンピュータやネットワークの活用は社会人や学生にとって必須アイテムとなっている。そこで本講義では、本学科の専門科目を学ぶに必要な情報リテラシーの基礎教育として、ワープロソフトによるレポート作成・表計算ソフトによるデータ分析・更にはネットワークによる情報収集や電子メールの使用方法などについて基礎的理論を理解する。</p> <p>【学習の到達目標】 コンピュータを活用するための基礎知識の理解と操作技能の習得し、本学科で研究発表に用いるレジюме、プレゼンテーション用パワーポイント等が作成できること。</p> <p>【成績評価方法】 課題提出(70%)を主体に、授業に取り組む姿勢や発表会(30%)を総合して評価する。</p>		<p>演習課題の質問は授業中に回答し、課題作成が速やかに行われるようにする。提出された課題の講評を定期的に行う。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 授業の最初に課題の解説を行うため遅刻しないこと。毎週の課題を速やかに進めるため予習・復習を行うことが重要である。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 本学科でこれから受講するさまざま科目における課題を行うために必要な表現方法について、特にコンピュータ利用の知識と技術の基礎を実践的に学ぶことができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当なし</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	川村	ガイダンス、パソコンの起動と設定、電子メールアドレスの設定他	今回の講義内容を予習する。シラバスや配布プリント等で講義概要を復習する。	1時間
2	大泉	ワード1(基本操作/文書の作成/データ保存)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でワードの基本操作・文書の作成・データ保存方法を復習する。	1時間
3	大泉	ワード2(文書の編集/印刷)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でワード文書の編集・印刷方法を復習する。	1時間
4	大泉	ワード3(表現機能1)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でワードの表現機能1を復習する。	1時間
5	大泉	ワード4(表現機能2)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でワードの表現機能2を復習する。	1時間
6	大泉	エクセル1(基本操作/表の作成)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でエクセルの基本操作・表の作成方法を復習する。	1時間
7	大泉	エクセル2(データ・関数機能/印刷)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でエクセルのデータ・関数機能・印刷方法を復習する。	1時間
8	大泉	エクセル3(表現機能1)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でエクセルの表現機能1を復習する。	1時間
9	大泉	エクセル4(表現機能2)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でエクセルの表現機能2を復習する。	1時間
10	大泉	パワーポイント1(基本操作/スライドの作成)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でパワーポイントの基本操作・スライドの作成方法を復習する。	1時間
11	大泉	パワーポイント2(スライドの編集/印刷)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でパワーポイントのスライド編集・印刷方法を復習する。	1時間
12	大泉	パワーポイント3(表現機能)	今回の講義内容を予習する。配布プリント等でパワーポイントの表現機能を復習する。	1時間
13	大泉	総合課題	今回の提出及び成果発表会に向けて予習をする。総合課題の内容を復習する。	1時間
14	大泉	総合課題の提出及び成果発表会	これまでの学習内容をまとめて予習する。提出課題及び成果発表会の内容を復習する。	1時間
教科書	必要な教材資料・データは教員側で用意し、配布する。			
参考書	必要な教材資料・データは教員側で用意し、配布する。			
備考	問合せ先：川村広則 課題作成データを保存するために、USBメモリストティックを持参すること。			

科目名	表現技法 A			担当者	○川村 広則・大泉 浩一
科目ナンバリング	1100312551				常勤・非常勤
D P	2,3			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>文章によって自らの考えや意見を的確に表現する能力は、様々な分野において求められている。これらの能力を身につけるためには、言葉の知識や文章表現をする上でのルールやマナー、表現方法などを習得し、それらを応用して文章を作成することが必要となる。本講義は、大学や社会において必要となる国語基礎力及び文章表現能力を身につけることを目的として、様々な情報を収集する手段と整理・分析するための方法を学ぶ。</p>			
【学習の到達目標】		<p>大学や社会において必要となる国語基礎力及び文章表現能力を身につける。</p>			
【成績評価方法】		<p>課題作成等に取り組む姿勢 10%、各テーマの課題提出状況 70%、口頭報告 20% などを総合的に判断して評価する。</p>			
【課題等のフィードバック方法】		<p>提出課題は直ちに確認して不備があれば再提出を求める。授業中に質問を受け付け適宜回答する。提出された課題の講評を次の授業で行う。</p>			
【履修上の注意・予習・復習について】		<p>授業の最初に課題の説明を行うので遅刻はしないこと。各課題は講義と演習を繰り返し行うので予習・復習が重要になる。</p>			
【受講して得られる効果・メリット、その他】		<p>自らの考えを表現し、正確に伝えることによって、思考力・分析及び表現力等が向上する。</p>			
【実務家教員担当科目】		<p>該当なし</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大泉	ガイダンス【授業内容と進め方】 文書表現法1(自己紹介)	今回の講義(文書表現法2)の予習をして理解を深める。シラバスで講義概要を、また文書表現法1の内容を復習する。		1時間
2	大泉	文書表現法2(新聞記事その1)	今回の講義(文書表現法3)の予習をして理解を深める。文書表現法2の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
3	大泉	文書表現法3(新聞記事その2)	今回の講義(文書表現法4)の予習をして理解を深める。文書表現法3の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
4	大泉	文書表現法4(新聞記事その3)	今回の講義(文書表現法5)の予習をして理解を深める。文書表現法4の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
5	大泉	文書表現法5(新聞記事その4)	今回の講義(文書表現法6)の予習をして理解を深める。文書表現法5の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
6	大泉	文書表現法6(私の高校生活)	今回の講義(文書表現法7)の予習をして理解を深める。文書表現法6の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
7	大泉	文書表現法7(私が出会った言葉)	今回の講義(文書表現法8)の予習をして理解を深める。文書表現法7の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
8	大泉	文書表現法8(読解と要約その1)	今回の講義(文書表現法9)の予習をして理解を深める。文書表現法8の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
9	大泉	文書表現法9(読解と要約その2)	今回の講義(文書表現法10)の予習をして理解を深める。文書表現法9内容を配布プリント等で復習する。		1時間
10	大泉	文書表現法10(論文の要約)	今回の講義(社説の読解と要約1)の予習をして理解を深める。文書表現法10の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
11	川村	社説の読解と要約1(課題作成作業①)	今回の講義(社説の読解と要約2)の予習をして理解を深める。社説の読解と要約1の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
12	川村	社説の読解と要約2(課題作成作業②)	今回の講義(専門書の読解と要約1)の予習をして理解を深める。社説の読解と要約2の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
13	川村	専門書の読解と要約1(課題作成作業)	今回の成果発表(専門書の要約)に関して内容を予習する。専門書の読解と要約1の内容を配布プリント等で復習する。		1時間
14	川村	専門書の読解と要約2(課題作成作業及び提出)	これまでの講義内容や関連キーワードをまとめて予習する。今回の成果発表の内容を復習する。		1時間
教科書	適宜資料を配布する。				
参考書	特になし				
備考	問合せ先: 川村広則 課題作成データを保存するためにUSBメモリースティックを用意すること。				

科目名	建築インテリア製図Ⅰ			担当者	○山本 和恵・一條 佑介 二科 妃里
科目ナンバリング	1100312552				常勤
D P	3,4			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>学科で扱う諸分野への基礎力を養成する。主に建築設計の基礎力を養成する実習・設計科目である。生活空間を3次元的にとらえ、光や風といった環境要素、生活上の利便性、立体造形の美的センス等を養い、建築設計図面を描く基礎力を滋養する。</p> <p>【学習の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活と空間に対する洞察力を身につけ、スケール感覚をもって立体造形を行えること 模型制作の基礎を習得すること 平面図、断面図制作の基礎を習得すること 設計意図を設計作品と併せて言語でも表現できること <p>【成績評価方法】</p> <p>提出物の成果と発表内容を総合的に評価する。設計のただし設計製図の提出物は一式全てそろっていること、作品の発表を行うことが単位取得の前提条件である。</p>		<p>エスキスはその都度、学生1人対教員1人で対話しながら作品を修正していく過程である。設計はオリジナルを求められるため、その過程では幾度となく個別指導が行われる。最終的には講評会を行い、全員が1人1人発表し、質疑応答や指導教員のコメントでフィードバックがなされる</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>指定の予習・復習は不要であるが、授業で紹介する参考図書や専門誌を通読すること。また好きな作品などは意識的に見聞することを勧める。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>造形の楽しさに触れ、立体・空間に対する認知力、構想力が向上する。模型制作、設計製図制作や模型撮影の技術の習得。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>一條佑介・二科妃里：建設会社に半年勤務（サバティカル利用）</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山本・一條・二科	講義のガイダンス／模型制作基礎	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
2	山本・一條・二科	名作住宅の模型制作 1	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
3	大泉浩一	基礎演習 1	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
4	山本・一條・二科	名作住宅の模型制作 2	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
5	大泉浩一	基礎演習 2	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
6	山本・一條・二科	名作住宅の研究・プレゼンテーション	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
7	大泉浩一	基礎演習 3	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
8	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／エスキス模型 1	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
9	大泉浩一	基礎演習 4	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
10	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／エスキス模型 2	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
11	大泉浩一	基礎演習 5	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
12	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／平面図・エスキス	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
13	大泉浩一	基礎演習 6	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
14	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／プレゼンテーション模型 1	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
15	大泉浩一	基礎演習 7	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
16	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／プレゼンテーション模型 2	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
17	大泉浩一	基礎演習 8	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
18	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／プレゼンテーション模型 3	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
19	大泉浩一	基礎演習 9	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
20	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／平面図・断面図制作・模型撮影	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
21	大泉浩一	基礎演習 10	予定される演習内容並びに実施した演習内容を確認しておく。		1時間
22	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／プレゼンテーション図面制作 1	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
23	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／プレゼンテーション図面制作 2	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
24	山本・一條・二科	5m立法空間のインテリア設計／講評会	講義内に収まらない思考や作業の継続		1時間
教科書	「新しい建築の製図」学芸出版社 「コンパクト版建築設計資料集成」丸善株式会社				
参考書	適宜紹介する				
備考	問い合わせは山本・一條・二科のいずれかまで				

科目名	環境数理基礎 A			担当者	○一條 佑介・熊谷 陽介
科目ナンバリング	1100312553				常勤・非常勤
D P	1,2			教員研究室	1313
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 専門科目を学ぶ上で必要となる数学的要素を建築的なワードを用いながら効率的に学ぶ。 また、簡易な平板測量や数理実験を踏まえたアクティブラーニングにも取り組む。 建築設計に出現する様々なスケール感について理解すること。単位の組み立てから、建築構造力学や建築環境工学に出現する物理現象を理解する基礎を身につけること。			【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業における演習課題については解答を提出させ、次回授業において解説を行う。TBGU ポータルサイトの課題管理を活用して、課題の提出・フィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 環境技術に関わる数理的基礎知識を、基礎セミナー、卒研セミナー、卒業研修等に役立つ実践技術として修得する。			【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻は2回で欠席1回として扱う。		
【成績評価方法】 授業内演習(40%)、達成度確認テスト(20%)、定期試験(40%)等の結果を総合評価する。			【実務家教員担当科目】 該当		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一條 佑介・熊谷 陽介	オリエンテーション、環境数理基礎確認テスト	シラバスを読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
2	熊谷 陽介	基礎数理1: 展開・因数分解	配布資料等で「展開・因数分解」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
3	熊谷 陽介	基礎数理2: 平方根	配布資料等で「平方根」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
4	熊谷 陽介	基礎数理3: 方程式	配布資料等で「方程式」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
5	熊谷 陽介	基礎数理4: 平面図形・空間図形	配布資料等で「平面図形・空間図形」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
6	熊谷 陽介	基礎数理5: 三角比	配布資料等で「三角比」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
7	熊谷 陽介	基礎数理6: 場合の数・確率	配布資料等で「場合の数・確率」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
8	熊谷 陽介	基礎数理7: 1次関数・2次関数	配布資料等で「1次関数・2次関数」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
9	熊谷 陽介	基礎数理8: 集合・推論	配布資料等で「集合・推論」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
10	熊谷 陽介	基礎数理9: 達成度確認テスト	予習: これまでの授業内容を確認して、確認テストに臨む。 復習: 達成度を各自確認する。		
11	一條 佑介	建築設計と数理	配布資料等で「建築設計と数理」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
12	一條 佑介	単位の組み立て	配布資料等で「単位の組み立て」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
13	一條 佑介	比率と縮尺	配布資料等で「比率と縮尺」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
14	一條 佑介	スケールを変換する ウェーパー・フェヒナーの法則	配布資料等で「スケールを変換する」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
教科書	担当教員作成の独自の指導用資料を配布する。				
参考書	特に指定しない。指導の過程で紹介する。				
備考	問合せ先: 一條				

科目名	建築インテリア製図Ⅱ			担当者	○八十川 淳・一條 佑介
科目ナンバリング	1100312554				常勤
D P	3,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本講義は「ものづくり」に関わりが深く、物体の3次元的な解析能力を養う図学とその表現能力を習得する製図の基礎を学ぶ。また、本講義では立体製作の実践体験プログラムを用意しており、これら体験を通じて、「つくること」を前提とした設計や作図の意味・意図の理解を図るものである。</p>		<p>本講義は「ものづくり」に関わりが深く、物体の3次元的な解析能力を養う図学とその表現能力を習得する製図の基礎が習得できる。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>1) 立体の図示方法についての概略を理解する。 2) 小規模建築の配置図と平面図、立面図、断面図を理解する。</p>		<p>時間割時間以外に集中的な授業実施を、適宜、行なうこともある。なお、講義時間だけで成果物の作成が間に合わない場合は、自習により進行に合わせていくことが求められる。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>授業での課題提出状況を100%、として判断する。</p>		<p>建築の構成、平面図、断面図、立面図などの基本を理解する。また、模型制作技術を修得するさらに、図面の美的な魅力や、図面を見る人を意識した理解しやすい表現の工夫などに気を配る姿勢を身に付ける。建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、設計製図に必要な基礎的な製図法についての講義を行う。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一條 佑介、八十川 淳	ガイダンス アイソメとアキソメ	教科書、配布資料で「アイソメとアキソメ」に関する部分を読んで作成手順を予習する。アイソメとアキソメの描き方を復習する。		1時間
2	一條 佑介、八十川 淳	1 消失点透視図法作図	教科書、配布資料で「一点透視図法」に関する部分を読んで作成手順を予習する。一点透視図法の描き方を復習する。		1時間
3	一條 佑介、八十川 淳	インテリア・建物外観スケッチ	教科書、配布資料で「パース」に関する部分を読んで作成手順を予習する。一点透視図法の描き方を復習する。		1時間
4	一條 佑介、八十川 淳	線の練習 1	教科書、配布資料で「線の引き方」に関する部分を読んで作成手順を予習する。線の引き方等を復習する。		1時間
5	一條 佑介、八十川 淳	線の練習 2	教科書、配布資料で「線の引き方」に関する部分を読んで作成手順を予習する。線の引き方等を復習する。		1時間
6	一條 佑介、八十川 淳	配置図	教科書、配布資料で「配置図」に関する部分を読んで作成手順を予習する。配置図の描き方を復習する。		1時間
7	一條 佑介、八十川 淳	平面図	教科書、配布資料で「平面図」に関する部分を読んで作成手順を予習する。平面図の描き方を復習する。		1時間
8	一條 佑介、八十川 淳	断面図	教科書、配布資料で「断面図」に関する部分を読んで作成手順を予習する。断面図の描き方を復習する。		1時間
9	一條 佑介、八十川 淳	立面図	教科書、配布資料で「立面図」に関する部分を読んで作成手順を予習する。立面図の描き方を復習する。		1時間
10	一條 佑介、八十川 淳	建築製図 - 図面完成提出	教科書、配布資料で「配置図」「平面図」「断面図」「立面図」の各種詳細内容を予習する。建築製図で描く図面の種類と各図で示さなければならない情報を復習する。		1時間
11	一條 佑介、八十川 淳	デザインワーク	配布資料を事前に読んで「灯り」に関する部分を予習する。灯りのデザインやコンセプトをあらためて確認し復習する。		1時間
12	一條 佑介、八十川 淳	製作作業	予習は次週の完成・提出のための作業を行う。復習はデザインやコンセプトでの指摘を踏まえて次週に向けての作業を行う。		1時間
13	一條 佑介、八十川 淳	完成・提出(灯り+A4プレゼンテーション)	予習として前回指導された内容を基に「灯り」のプレゼンテーションを検討する。指導された内容を復習する。		1時間
14	一條 佑介、八十川 淳	総合発表会	「灯り」に関するデザインの基本を予習し、成果物の不確実な部分を復習する。		1時間
教科書	「新しい建築の製図」学芸出版社				
参考書	特に指定しない。				
備考	製図用具の準備が必要である。適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：一條佑介、二科妃里、野崎淳夫(1313、1315、1311 教員研究室)				

科目名	建築探究			担当者	○八十川 淳・梅岡 恒治 富山 正幸
科目ナンバリング	1100412561				常勤
D P	3,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】

本講義は、建築環境学科の学生としての基礎力を養成し、当学科での専門分野への興味関心・向学心・自発性を涵養する科目である。具体的には、建物などの見学を通じて、学習対象物への観察眼を養い、レポート作成やプレゼンテーション能力を向上させる。

基礎演習は国語基礎力を養成する座学である。基礎力を養成する基礎演習10回については、それ以外の演習とは異なる曜日に実施する予定である。

【学習の到達目標】

自分の得た情報をレジメ・レポートとしてまとめて、論理的な話ができるようになること。

【成績評価方法】

毎回授業の提出課題等の評価を根拠に、総合的に評価する。提出課題の評価は、課題提出状況50%、成果物の内容やプレゼンテーション50%としている。

【課題等のフィードバック方法】

提出されたレポートやプレゼンテーションについて、適宜、ディスカッションを行う。

【履修上の注意・予習・復習について】

適宜、担当SA教員との個別面談を行う。
見学や発表に際して、適切なマナーや態度にて実践すること。
全ての基礎演習に参加し、全ての課題を提出する必要がある。

【受講して得られる効果・メリット、その他】

当学科専門分野科目への興味関心・向学心・自発性を涵養することができる。

【実務家教員担当科目】

八十川淳、高松市の戸建て木造軸組み伝統構法の住宅を設計。

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川 淳、 富山 正幸	ガイダンス・立体構造制作ワークショップ1	身近な構造体について調べ学習を進める（高さと積層の構成）	4時間
2	八十川 淳、 富山 正幸	立体構造制作ワークショップ2	身近な構造体について調べ学習を進める（空間を包む覆いの構成）	4時間
3	八十川 淳、 富山 正幸	公共建築の考察1「学校建築」	出身の学校建築の機能空間を振り返る。	4時間
4	八十川 淳、 富山 正幸	公共建築の考察2「図書館建築」	身近な図書館の空間と機能を取材する。	4時間
5	八十川 淳、 富山 正幸	公共建築の考察3「劇場ホール」	身近な劇場ホールの空間と機能を取材する。	4時間
6	八十川 淳、 富山 正幸	公共建築の考察4「美術博物館」	身近な美術博物館の空間と機能を取材する。	4時間
7	八十川 淳、 富山 正幸	建物の見学1「劇場ホール」など	スタッフ専用空間も含めて観察する。見学で得た知見をレポートする。	4時間
8	八十川 淳、 富山 正幸	建物の見学2「美術館」など	スタッフ専用空間も含めて観察する。見学で得た知見をレポートする。	4時間
9	梅岡 恒治、 富山 正幸	オリジナルマップの作成	身近な空間についてリサーチをし、行動マップを作成する	4時間
10	梅岡 恒治、 富山 正幸	オリジナルマップの発表	作成したマップについて発表を行う	4時間
11	梅岡 恒治、 富山 正幸	身近な空間の改善提案1	作成したマップを活用して、身近な空間の改善提案を検討する	4時間
12	梅岡 恒治、 富山 正幸	身近な空間の改善提案2	作成したマップを活用して、身近な空間の改善提案を検討する	4時間
13	梅岡 恒治、 富山 正幸	身近な空間の改善提案3	作成したマップを活用して、身近な空間の改善提案を検討する	4時間
14	梅岡 恒治、 富山 正幸	身近な空間の改善提案発表	身近な空間の改善提案について発表を行う	4時間
教科書	指定しない			
参考書	指定しない			
備考	指定しない			

科目名	建築環境学 A			担当者	○山本 和恵・梅岡 恒治 富山 正幸・上野真祐子 渋谷 達郎
科目ナンバリング	1100412562			常勤・非常勤	
D P	1,4			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 建築の企画・計画・設計の流れを把握し、どのような観点で建築設計を行っていくかについて概観することを目的とする。寸法体系や図面の読み方など建築設計や建築計画の専門科目を履修するにあたって必要な基礎的知識の習得を図る。</p> <p>【学習の到達目標】 ・建築設計・デザイン系の仕事について理解し、興味対象を上げ、自学への意識づけを行う。 ・建築の企画・計画・設計の流れを理解し、今後学ぶべき知識体系を俯瞰的にとらえることができる ・基礎知識としてスケール感覚や図面の読み方、書き方、初歩的な設計の手順等を習得する</p> <p>【成績評価方法】 各担当教員ごとにレポートが課される。演習提出物 60%、最終レポート 40%</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 ・講義内での質疑応答 ・リアクションペーパーや演習課題への講評や質疑 ・成果発表等に対するコメントや質疑</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 インテリア、建築、街並みといった建築空間に関心を寄せたり、建築雑誌や書籍を手にとるなど、日常的に建築への興味関心を自ら育てること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 初学者が無理なく、建築設計系や建築計画系の講義の対応するための導入科目として位置づけられている</p> <p>【実務家教員担当科目】 上野真祐子：積算業務、BMI 業務等多岐に渡る建築業務を経験 富山正幸：トミ設計室主宰（実務家教員）</p>					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	上野・梅岡・富山・山本	本講義の狙いと進め方／建築実務について1	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
2	上野・梅岡・富山・山本	建築実務について2	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
3	上野・梅岡・富山・山本	建築実務について3(企画)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
4	上野・梅岡・富山・山本	建築実務について4	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
5	上野・梅岡・富山・山本	建築実務について5	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
6	梅岡・富山・山本	建築環境学科の3コースの理解(シンポジウム)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
7	上野・梅岡・富山・山本	建築家研究1	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
8	上野・梅岡・富山・山本	建築家研究2	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
9	梅岡・富山・山本	建築環境学科での学びの理解(シンポジウム)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
10	山本・梅岡・富山	デザインプロセスについて	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
11	山本・梅岡・富山	建築設計・企画の進め方	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
12	山本・梅岡・富山	空間提案1(グループワーク)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
13	山本・梅岡・富山	空間提案2(グループワーク)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
14	山本・梅岡・富山	空間提案3(発表・講評会)	建築雑誌やデザイン誌などに目を通す。関連図書の読書や建築見学等		4時間
教科書	「20代で身につけたいプロ建築家になる勉強法」日本実業出版社				
参考書	「建築学生のハローワーク(建築文化シナジー)」彰国社				
備考	問い合わせ等は山本か一條まで				

科目名	建築環境学 B		担当者	○山本 和恵・梅岡 恒治 富山 正幸
科目ナンバリング	1100412563			常勤
D P	3,4		教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位 必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】

実寸大の立体構造、建築模型としての立体構造を制作し建設の楽しさ建築設計の概要をつかむ。設計の前提となる前例の検察・分析の大切さをデザインハンティング演習を行う。製図の基本機能として三面図、スケッチ、側面図を実測を踏まえて制作する。

【学習の到達目標】

建築を見る力、建築を表現する作図力、建築を設計する創造力、建築をつくる協働力等、専門家として身につけたい力を作品制作を通して対面的に知ることを目標とする。自身の興味関心を知り、各自の自主学修の動機をつかみ、自学の起点とする。

【成績評価方法】

グループワークは完成品と制作過程を総合的に評価する。個人制作の作品はその作品に求める重要視する評価ポイントを提示する。グループワーク 5 / 14、1 週課題ならびに発表 1 / 14 × 6 回、立体造形課題 3 / 14 とかけた時間で重みづけして成績を積算する。すべての提出物を提出すること。

【課題等のフィードバック方法】

制作過程で毎週、教員からのコーチングやアドバイスを受けながら制作を進めること。最終週には全員に講評の機会がある。

【履修上の注意・予習・復習について】

特にグループワークではメンバーに迷惑がかかるので欠席しない事。すべての作品を提出しなければならない。手を動かすことが大切です。手が止まったら質問して、早期に課題解決して先に進めること。大切に間に合わせる時間管理も重視します。

【受講して得られる効果・メリット、その他】

制作を通して、建築設計する過程で必要な考え方やスキルを体験的に知る。自身の興味関心や得意不得意についても確認する手がかりとなる。今後の建築設計科目の土台となる重要な科目である。

【実務家教員担当科目】

梅岡恒治・富山正幸：実務家教員（建築設計事務所主宰）

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	山本・梅岡・富山	科目オリエンテーション／大型立体造形1ーエスキス(グループワーク)	復習：グループ案を決める前に個人を複数出せるように準備	4時間
2	山本・梅岡・富山	大型立体造形2ーデザインの決定と制作図面と工程の検討(グループワーク)	予習：作品案を複数用意する 復習：制作のために必要な寸法等を等を検討しておく	4時間
3	山本・梅岡・富山	大型立体造形3ー制作1(グループワーク)	予習：役割分担 b 復習：作成過程の遅れ等を調整する	4時間
4	山本・梅岡・富山	大型立体造形4ー制作2(グループワーク)	予習：制作完了に必要な作業の確認 復習：展示の際の安全保全方法や管理手順の確認	4時間
5	山本・梅岡・富山	大型立体造形5ー展示、プレゼンテーション(グループワーク)	予習：来訪者への解説準備 復習：来訪者アンケートと記録写真のまとめ	4時間
6	山本・梅岡・富山	デザインハンティング1ーピクトグラム	予習：必要な取材素材(写真)を揃える 復習：手を入れて作品の完成度を上げる	4時間
7	山本・梅岡・富山	デザインハンティング2ー各自のテーマによる	予習：必要な取材素材(写真)を揃える 復習：手を入れて作品の完成度を上げる	4時間
8	山本・梅岡・富山	デザインハンティング3ーカラージュ	予習：必要な取材素材(写真)を揃える 復習：手を入れて作品の完成度を上げる	4時間
9	山本・梅岡・富山	三面図・スケッチの制作ーモダンチェア	復習：手を入れて作品の完成度を上げる	4時間
10	山本・梅岡・富山	起こし絵ー実測から平面図・側面図を制作	予習：実測 復習：手を入れて作品の完成度を上げる	4時間
11	山本・梅岡・富山	立体造形1ーエスキス	予習：エスキス 復習：エスキス	4時間
12	山本・梅岡・富山	立体造形2ー模型制作	予習：エスキス 復習：模型の完成／プレゼンテーションボードのレイアウト案	4時間
13	山本・梅岡・富山	立体造形3ープレゼンテーションボード制作	予習：プレゼンテーションボードのレイアウト案 復習：発表準備	4時間
14	山本・梅岡・富山	講評会	予習：発表準備 復習：振り返り	4時間
教科書	特に指定しない。			
参考書	別途指示します。			
備考	質問や問い合わせは山本・梅岡・富山まで。			

科目名	特定実習 A		担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸・熊谷 陽介 須藤 秀晴
科目ナンバリング	1100712583			常勤・非常勤
D P	4		教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・後期
授業形式	実習	授業時間	45時間	単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域や社会と連携して、「住」環境または「人間」環境にかかわる体験的な学習を通じて、実践的な知識と技能を自発的・自主的に修得する。 例えば ・関連資格の取得活動「シックハウス診断士・健康住宅アドバイザー」(ならびにその成果) ・論文募集や設計競技などへの応募(ならびにその成果) ・インターンシップ活動(オープンデスクを含む) などをはじめ、社会との接点をもった自発的・自主的な活動が期待される。 学科で随時開講される資格講座などを当授業として位置づけることもある。		【課題等のフィードバック方法】 随時実施。 【履修上の注意・予習・復習について】 ガイダンスや単位申請のための説明会などで、単位申請に必要な情報を逃さず収集すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 課外活動の活性化とその評価 【実務家教員担当科目】 一部該当。		
【学習の到達目標】 多様な活動を自主的に展開することによって、専門的経験及び技能を高める。				
【成績評価方法】 学科内に設置される「特定実習委員会」が単位認定の審査にあたる。年度始めに、あらかじめ履修登録を行なうこと。受講生は、 Semester 終盤に資格取得状況、成果品などの実習活動の成果報告を委員会に対して行う。				
授 業 計 画				
本科目に関する授業計画等については、Semester 開始時の学科会ガイダンスおよび掲示により周知する。				
教科書	プログラムにより指定する場合がある			
参考書	プログラムにより指定する場合がある			
備考	なし			

科目名	特定実習 B			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸・佐竹 正行
科目ナンバリング	1100712584				常勤・非常勤
D P	4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	実習	授業時間	45時間	単位	選択 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 地域や社会と連携して、「住」環境または「人間」環境にかかわる体験的な学習を通じて、実践的な知識と技能を自発的・自主的に修得する。 例えば ・関連資格の取得活動「インテリア設計士」(ならびにその成果) ・論文募集や設計競技などへの応募(ならびにその成果) ・インターンシップ活動(オープンデスクを含む) などをはじめ、社会との接点をもった自発的・自主的な活動が期待される。 学科で随時開講される資格講座などを当授業として位置づけることもある。</p> <p>【学習の到達目標】 多様な活動を自主的に展開することによって、専門的経験及び技能を高める。</p> <p>【成績評価方法】 学科内に設置される「特定実習委員会」が単位認定の審査にあたる。年度始めに、あらかじめ履修登録を行なうこと。受講生は、セメスター終盤に資格取得状況、成果品などの実習活動の成果報告を委員会に対して行う。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 随時実施。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 ガイダンスや単位申請のための説明会などで、単位申請に必要な情報を逃さず収集すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 課外活動の活性化とその評価</p> <p>【実務家教員担当科目】 一部該当。</p>					
授 業 計 画					
本科目に関する授業計画等については、セメスター開始時の学科会ガイダンスおよび掲示により周知する。					
教科書	プログラムにより指定する場合がある				
参考書	プログラムにより指定する場合がある				
備考	なし				

科目名	特定実習 C			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸・土屋 秀敏 吉川 彩
科目ナンバリング	1100712585				常勤・非常勤
D P	4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	実習	授業時間	45時間	単位	選択 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域や社会と連携して、「住」環境または「人間」環境にかかわる体験的な学習を通じて、実践的な知識と技能を自発的・自主的に修得する。 例えば ・関連資格の取得活動（ならびにその成果） ・論文募集や設計競技などへの応募（ならびにその成果） ・インターンシップ活動（オープンデスクを含む） などをはじめ、社会との接点をもった自発的・自主的な活動が期待される。 学科で随時開講される資格講座などを当授業として位置づけることもある。		【課題等のフィードバック方法】 随時実施。 【履修上の注意・予習・復習について】 ガイダンスや単位申請のための説明会などで、単位申請に必要な情報を逃さず収集すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 課外活動の活性化とその評価 【実務家教員担当科目】 一部該当。			
【学習の到達目標】 多様な活動を自主的に展開することによって、専門的経験及び技能を高める。					
【成績評価方法】 学科内に設置される「特定実習委員会」が単位認定の審査にあたる。年度始めに、あらかじめ履修登録を行なうこと。受講生は、 Semester 終盤に資格取得状況、成果品などの実習活動の成果報告を委員会に対して行う。					
授 業 計 画					
本科目に関する授業計画等については、Semester 開始時の学科会ガイダンスおよび掲示により周知する。					
教科書	プログラムにより指定する場合がある				
参考書	プログラムにより指定する場合がある				
備考	なし				

2020~2024 年度入学者用カリキュラム (建築環境学科)

科目名	ボランティア探求			担当者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	110011207				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・通年
授業形式	実習	授業時間	90時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する		実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティア指導者及びNPO・NGO実践者・指導者等を目指すことを目的とする		事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員(単位認定者)へ届出すること			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
実践実習活動報告(レポート)及び最終報告会のプレゼンにより評価し、認定される単位は認(2単位)とする		社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる			
		【実務家教員担当科目】			
		系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う			
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座(一年次の講座の確認) 講師: 本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー(講義・演習等) 講師: 外部講師 環境系・福祉系(高齢・障害者・母子・児童福祉)・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから1・2箇所選択し、都合10時間程度の実習を行い、実習活動報告書(レポート)を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ(連講2コマ) ・実践活動の報告会(1コマ)					
教科書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参考書	講義時に必要に応じて紹介				
備考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科目名	人体の構造と機能			担当者	沼崎 宗夫
科目ナンバリング	110011209				常勤
D P	2			教員研究室	3207
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人体の構造(解剖)と機能(生理機能)を学ぶ			【課題等のフィードバック方法】 質問があれば随時対応する		
【学習の到達目標】 人体の構造(解剖)と機能(生理機能)を理解して、健康の維持に役立てる			【履修上の注意・予習・復習について】 授業内容に関連のある高校の教科書を参照することが望ましい		
【成績評価方法】 試験 100%			【受講して得られる効果・メリット、その他】 人体の構造と機能を理解することは、健康の維持および疾患の予防に役立つ		
			【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	沼崎 宗夫	授業内容に関するガイダンス	なし		4時間
2	沼崎 宗夫	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能に関して		4時間
3	沼崎 宗夫	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能に関して		4時間
4	沼崎 宗夫	遺伝子の構造と機能	遺伝子の構造と機能に関して		4時間
5	沼崎 宗夫	遺伝子の構造と機能	遺伝子の構造と機能に関して		4時間
6	沼崎 宗夫	遺伝子の構造と機能	遺伝子の構造と機能に関して		4時間
7	沼崎 宗夫	循環器系	心臓と血管の構造と機能に関して		4時間
8	沼崎 宗夫	循環器系	心臓と血管の構造と機能に関して		4時間
9	沼崎 宗夫	先天性の疾患	ダウン症などの先天性疾患に関して		4時間
10	沼崎 宗夫	筋肉組織や脂肪組織	筋肉や脂肪組織の構造と機能に関して		4時間
11	沼崎 宗夫	筋肉組織や脂肪組織	筋肉や脂肪組織の構造と機能に関して		4時間
12	沼崎 宗夫	中枢神経系	中枢神経系の働きに関して		4時間
13	沼崎 宗夫	試験	なし		4時間
14	沼崎 宗夫	試験問題の解答と解説	試験問題の復習		4時間
教科書	プリントを使用				
参考書	指定なし				
備考	なし				

科目名	健康科学概論			担当者	犬塚 剛
科目ナンバリング	1100112011				常勤
D P	2			教員研究室	1304
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>人間にとって心身の健康を確保することは大変重要な課題といえる。健康で充実した人生を送るためには身体活動を無視することはできない。世間ではフィットネスクラブの流行、雑誌の健康特集、健康グッズ、健康食品ブームなど国民の健康に対する関心の高さがうかがえる。</p> <p>本講義では、現代社会や我々の日常生活と密接に結びついている健康諸問題についての基礎的知識を学習する。</p>			
【学習の到達目標】		<p>自分の健康状態を観察し管理する能力を学び健康なライフスタイルを身につけること。</p>			
【成績評価方法】		<p>成績評価については、毎回の授業時に課す確認小テスト・小レポート・課題レポート等の点数を合計した総合評価とする。確認小テスト(70%)、各種レポート(30%)により評価する。</p>			
		<p>【課題等のフィードバック方法】 講義内容の疑問点等の振り返りを次週の講義冒頭で行う。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 規定の出席日数に到達しない者は評価対象外とする。講義時にミニトーパーを課す予定としている。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分自身の心身の健康に対する意識を高め、行動変容を図ること。特に、生活習慣の健康への影響(病気や心身の不調)を学習し理解することで生涯にわたる健康づくりへの意識改革や実践方法を身につけることができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当なし</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	犬塚 剛	講義概要	健康に関する最近のトピックスを一つ学習しておく。	4時間
2	犬塚 剛	加齢と老化 地域在住高齢者の健康の実態について	平均寿命と健康寿命の違いや地域で暮らす高齢者の実態から健康長寿ヘントについて理解すること。	4時間
3	犬塚 剛	健康と身体活動	自分の日常生活を振り返り、日頃の身体活動について考察すること。	4時間
4	犬塚 剛	健康と疲労	自分の日常生活を振り返り、疲労について考察すること。	4時間
5	犬塚 剛	健康と栄養	自分の日常生活を振り返り、毎日の食生活について考察すること。	4時間
6	犬塚 剛	運動と栄養摂取	運動と栄養摂取の関係性について、過去の運動経験などから考察すること。	4時間
7	犬塚 剛	トレーニングの原理	トレーニングの原理原則について理解し、実践に結び付けるように学習すること。	4時間
8	犬塚 剛	トレーニングの原理	レジスタンストレーニングの方法の違いによる筋への影響を理解し、実践に結び付けるように学習すること。	4時間
9	犬塚 剛	筋の働き	筋収縮の仕組みやエネルギーなどについて理解することでトレーニングの方法に応用すること。	4時間
10	犬塚 剛	健康づくりのための身体活動 基準 2013- アクティブガイドについて	厚労省の身体活動基準について理解し、自分の日常の身体活動量について考察すること。	4時間
11	犬塚 剛	Metsを用いたエネルギー消費量の算出方法	日常の身体活動によるエネルギー消費量の求め方を理解し、自分の毎日の身体活動量の算出ができるように学習すること。	4時間
12	犬塚 剛	生活習慣と行動変容	自分の日常生活を振り返り、不健康な行動をいかに変容に結び付けるか考察すること。	4時間
13	犬塚 剛	現代社会と健康	高齢化が進む現代社会の中で表出する諸々の問題点などを学習すること。	4時間
14	犬塚 剛	嗜好品と健康(喫煙・飲酒)	日本社会におけるタバコ産業と政界、監督官庁との関係性について理解すること。	4時間
教科書		適宜プリントを配布		
参考書		「健康学がわかる」朝日新聞社 「21世紀の健康学」東洋書店 「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウス 「重力と闘う筋」山海堂「自分でつくる筋力トレーニングプログラム」山海堂 「健康運動指導マニュアル」文光堂		
備考		特になし		

科目名	公衆衛生学		担当者	吉田 裕人
科目ナンバリング	1100112012			常勤
D P	4		教員研究室	1201
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	15時間	単位
単位	選択 1単位			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。</p> <p>【学習の到達目標】 健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。</p> <p>【成績評価方法】 定期試験 80% 毎回の課題提出 20%</p>				
<p>【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認(点呼)終了後の入室は遅刻 授業前に予習(教科書参照)・授業後に復習(教科書・ノート参照) 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として必要な公衆衛生に関する基礎的知識や考え方を身につけることができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当なし</p>				
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	吉田 裕人	公衆衛生の理念	公衆衛生の意味などについて事前に調べておく。	4時間
2	吉田 裕人	健康と環境①	大気汚染の実態などを事前に調べておく。	4時間
3	吉田 裕人	健康と環境②	上水・下水などの語句を事前に調べておく。	4時間
4	吉田 裕人	日本における社会保障制度および医療制度の改革	日本の医療・介護保険制度の課題などを事前に調べておく。	4時間
5	吉田 裕人	グローバル化する世界と公衆衛生	国際保健の意味などについて事前に調べておく。	4時間
6	吉田 裕人	地域保健	健康日本21の内容や保健所の役割などを事前に調べておく。	4時間
7	吉田 裕人	対象別公衆衛生の実践	我が国の成人保健・高齢者保健などを事前に調べておく。	4時間
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 2025 (鈴木庄亮・他、南江堂)			
参考書	なし			
備考	なし			

科目名	経済学			担当者	坂本 直樹
科目ナンバリング	1100112013				非常勤
D P	2			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
この講義では、大学生として身につけてほしい経済学の素養を説明する。経済の見方を身につけるには、「経済学的な考え方」を理解することが必要である。ニュースや新聞等で経済事情を語る人々のことを「エコノミスト」というが、エコノミストになるには、社会科学系の学部を卒業する必要はない。経済学的な考え方で世の中の社会現象を説明できるようになることが、エコノミストになるためには必要である。		課題として小テストを実施したのち、解説を付けた採点結果を配付する。さらに、それに基づくディスカッションを行う。なお、小テストの提示、解答入力、採点、解説の提示はすべてオンラインにより双方向で行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
経済の知識を増やすのではなく、経済学的な考え方を身につける。具体的には、機会費用の概念による意思決定、比較優位の原理による分業と特化の利益、需要曲線と供給曲線のシフトによる市場の変化、マクロ経済政策の方法、囚人のジレンマなどの理解である。		教科書を指定しているので、授業計画を見て授業前に該当する章をよく読んでおくこと。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
授業全体で小テストを20問出題し(授業1回あたり1、2問)、1問あたり5点を配点して100点により成績を評価する。合格点(60点)に満たない場合は、10点満点のレポート課題の提出を認め、小テストとレポートを合算した得点を成績とするが、この場合、成績の上限を60点とする。		<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学がどのような学問分野なのか知ることができる。 ・自分の専門を活かして公務員になるという選択肢もあるが、その場合、教養試験の社会科学の枠で「政治・経済」が試験科目に課される。本講義は公務員試験の内容にも対応している。 			
		【実務家教員担当科目】			
		該当しない。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 直樹	ガイダンス(授業の進め方)	予習: シラバスの確認、目次やはしがき等による教科書の概要の確認 復習: シラバスの再確認		
2	坂本 直樹	経済学への招待(序章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
3	坂本 直樹	選択と取引①(第1章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
4	坂本 直樹	選択と取引②(第1章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
5	坂本 直樹	需要・供給分析・基礎①(第2章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
6	坂本 直樹	需要・供給分析・基礎②(第2章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
7	坂本 直樹	需要・供給分析・ビジネスへの応用(第3章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
8	坂本 直樹	需要・供給分析・政策への応用(第3章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
9	坂本 直樹	GDP・物価・失業①(第4章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
10	坂本 直樹	GDP・物価・失業②(第4章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
11	坂本 直樹	経済成長と安定化政策①(第5章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
12	坂本 直樹	経済成長と安定化政策②(第5章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
13	坂本 直樹	ゲーム理論の基礎①(第6章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
14	坂本 直樹	ゲーム理論の基礎②(第6章)	予習: 教科書の通読 復習: 教科書の精読・小テスト		
教科書	矢口和宏・坂本直樹編著『経済学概論』(株式会社みらい)				
参考書	・伊藤元重『入門経済学(第4版)』(日本評論社) ・グレゴリー・マンキュー『マンキュー 入門経済学(第2版)』(東洋経済新報社)				
備考	・授業計画の学習内容にある()の中は教科書の該当章である。 ・授業計画の5回目～12回目は「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の主要なテーマであり、公務員試験との関連が強い。				

科目名	保健医療福祉概論			担当者	森田慎二郎
科目ナンバリング	1100112015				常勤
D P	4			教員研究室	3305
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 保健医療福祉専門職は、患者・利用者を支援する際には、関連する諸制度の概要を知っておく必要がある。この講義では、保健・医療・福祉制度の概要、歴史、関連法について概観し、医療保険、介護保険、障害者総合支援法などの仕組みとサービス内容等について学ぶ。			【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。		
【学習の到達目標】 ・社会保障制度の概要を説明できる。 ・各種保健医療福祉制度の概要とサービス内容について説明できる。 ・専門職として各種制度との関わりを理解することができる。			【履修上の注意・予習・復習について】 私語厳禁		
【成績評価方法】 期末テスト100%			【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として活躍するうえで有用な基礎知識が得られる。		
			【実務家教員担当科目】 該当なし。		

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	森田慎二郎	オリエンテーション、保健医療福祉の基盤となる考え	復習として教科書で全体像を把握する。	4時間
2	森田慎二郎	保健・医療・福祉の諸制度(社会保障制度の概要)	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
3	森田慎二郎	保健・医療・福祉の歴史的展開	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
4	森田慎二郎	現代の保健・医療・福祉を支える関連法、施設体系	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
5	森田慎二郎	社会福祉と公的扶助	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
6	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
7	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
8	森田慎二郎	年金制度の仕組みと動向	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
9	森田慎二郎	労災保険と雇用保険	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
10	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
11	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
12	森田慎二郎	障害者総合支援法と障害者福祉サービス	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
13	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
14	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス②、まとめ	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。	4時間
教科書	椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	環境倫理			担当者	池田 準
科目ナンバリング	1100112016				非常勤
D P	4			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
いくつかの基本的な倫理思想を踏まえたうえで、環境問題について検討します。		授業終了時にワークシートを提出してもらいます。ワークシートでは課題への回答・コメント・質問を記入してもらい、次回の授業の冒頭で内容確認・コメントへの返答を行います。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
(1) 基本的な倫理思想を適切に理解できること。		毎回のワークシートの提出で授業の出席を確認します。			
(2) わたしたちが直面している環境に関わる倫理的問題を適切に理解できること。		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
【成績評価方法】		将来的に職場・地域社会で環境問題への配慮が要求される場合、役立つ知識が得られます。			
ワークシート(40%)：各回の授業終了時に提出(1回につき1~3%で評価)		【実務家教員担当科目】			
最終レポート(60%)：授業全体の内容を確認する最終レポート		該当なし			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	池田 準	イントロダクション：倫理学・環境倫理とはどういう学問か？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
2	池田 準	基本的な倫理思想(1)：功利主義	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
3	池田 準	基本的な倫理思想(2)：義務論	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
4	池田 準	基本的な倫理思想(3)：徳倫理	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
5	池田 準	基本的な倫理思想(4)：討議倫理	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
6	池田 準	基本的な倫理思想(5)：正義論	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
7	池田 準	中間まとめ	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
8	池田 準	世代間倫理：世代を越えた倫理的配慮とは？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
9	池田 準	動物倫理：種を越えた倫理的配慮とは？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
10	池田 準	自然の権利：自然や動物は権利を持つのか？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
11	池田 準	生物多様性：なぜ生物多様性の保全が重要なのか？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
12	池田 準	技術がもたらす環境問題の民主的コントロール	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
13	池田 準	環境正義：環境リスクの公平な分配とは？	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
14	池田 準	最終まとめ	復習の際は、授業中に配布したプリントを読み返し、口頭で説明した内容を補ったノートを作成する。	4時間
教科書	教科書は使用しません。プリントを配布します。			
参考書	吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』、ちくまプリマー新書、2021年。 なお、参考書と授業内容の対応はだいたい以下のとおりです。 第一章(第1回~第5回の授業内容)、第二書(第8回)、第三章(第12回~第14回)、第四章(第9回~第11回)			
備考	特にありません。			

科目名	情報倫理			担当者	神村 伸一
科目ナンバリング	1100112017				常勤
D P	4			教員研究室	1407
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>本授業は身近な事例を元に、デジタル情報社会で適正に行動する基準となる考え方の確立と望ましい態度や素養を身につける。情報の本質を考え、情報技術(IT)の原理と扱う情報の因果関係を理解し、科学的な視点と社会的な視点によるデジタル情報社会の特性を学ぶ。デジタル情報の利活用に関する著作権について、デジタル情報の特徴を理解して法律の意義と必要性を学ぶ。デジタル情報社会における個人情報保護について、情報セキュリティ意識の向上と個人情報の適正管理の大切さを学ぶ。これらについては近年、進展が著しい生成AIとの関わりも考察する。</p>			
【学習の到達目標】		<p>情報システムや情報活用ツール(スマホ、メールやウェブなど)を実現する情報技術と扱う情報の因果関係を理解した上で、科学的な視点と社会的な視点によるデジタル情報社会の特性を理解する。デジタル情報の特徴を理解し、著作権の意義と必要性を理解する。デジタル情報社会における個人情報保護について、情報セキュリティ意識の向上と適正管理の重要性を理解する。これらに関連する生成AIの適切な利活用法を理解する。</p>			
【成績評価方法】		<p>成績は出席率60%以上を評価対象とし、毎回のミニ演習およびまとめ40%、課題討論30%、最終レポート課題30%、以上の観点と重みで総合評価する。</p>			
【課題等のフィードバック方法】		<p>ミニ演習は翌週にふり返り学習として解説し、講義への意見などは提出分を一括してとりまとめ、必要に応じて教員コメントを付記し、Google クラクルームで公開し共有する。</p>			
【履修上の注意・予習・復習について】		<p>毎週、前週講義のふり返り学習をするので前週の内容を確認しておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。</p>			
【受講して得られる効果・メリット、その他】		<p>科学的な視点と社会的な視点に基づいた高度デジタル情報社会に参画する態度やマナーを身につけることができる。</p>			
【実務家教員担当科目】		<p>該当なし</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	神村 伸一	ガイダンス、情報倫理の概要	当該の講義内容(情報倫理の概要を理解、講義前アンケート)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
2	神村 伸一	認証(ID&パスワード管理)、個人認証の安全性	当該の講義内容(ID&パスワード管理、認証技術と安全性に関する技術など)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
3	神村 伸一	不正アクセス(セキュリティホール、不正アクセス禁止法)	当該の講義内容(不正アクセスの概要、セキュリティホール、不正アクセス禁止法)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
4	神村 伸一	無線LANとWiFi(WiFiと認証無線LAN)	当該の講義内容(WiFiと認証無線LAN)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
5	神村 伸一	無線LANと暗号化(暗号、暗号化方式、公開鍵暗号RSA)	当該の講義内容(暗号、暗号化方式、公開鍵暗号RSAの概要)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
6	神村 伸一	個人情報の管理(パーソナライズとポータブルメディア)	当該の講義内容(パーソナライズとポータブルメディアの管理)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
7	神村 伸一	著作物の権利(著作権)	当該の講義内容(著作権の概要、著作物の利用と不正行為)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
8	神村 伸一	著作権と利用(共同著作物)	当該の講義内容(共同著作物など)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
9	神村 伸一	ネットとデジタルメディアと著作権	当該の講義内容(ネットのデジタルメディアの著作権と例外規定など)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
10	神村 伸一	高度情報社会の権利1(ネットの情報発信と責任)	当該の講義内容(ネットの情報発信と責任)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
11	神村 伸一	高度情報社会の権利2(SNSとコミュニティの特性)	当該の講義内容(SNSとコミュニティの特性)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
12	神村 伸一	情報社会の生活1(情報ネットワークの特性)	当該の講義内容(情報ネットワークの特性、炎上、誹謗中傷など)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
13	神村 伸一	情報社会の生活2(フェイク情報と影響)	当該の講義内容(フェイク情報、AIによるフェイク、その影響など)を復習し、次週の学習テーマについて予習すること。		4時間
14	神村 伸一	情報社会の生活3(電子メールの送受信)、まとめ	当該の講義内容(電子メールの送信・受信の仕組みなど)を復習し、総合的な最終レポート課題に取り組むこと。		4時間
教科書	2025事例でわかる情報モラル&セキュリティ30テーマ(実教出版)				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
備考	講義の配付資料などはGoogleクラクルームで公開する。				

科目名	英語 II			担当者	馬内 里美
科目ナンバリング	1100112023				常勤
D P	4			教員研究室	1229
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
コミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目指し、以下のことを行う。 ・Listening/Speaking: 聞き取り、会話活動を中心に、様々な状況で使われる英語表現力を高める。プレゼンテーション課題もある。 ・Reading/Writing: 英文読解力を高めながら、実用に即した語彙力、文法力、英作文能力の強化を図る。		授業終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・出席を重視する。 ・教科書・辞書を持参すること。電子通信機器の使用を禁ずる。			
【学習の到達目標】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
・リーディング、ライティング、グループディスカッションを通して、理論立てて説明する方法を学ぶとともに、批判的思考方法を身につける。 ・語彙力を強化する。 ・異文化における価値観や行動様式の高多様性を学ぶ。		実践的な英語授業を通して、日常生活からビジネスの場まで対応できる英語基礎運用能力を高められる。			
【成績評価方法】		【実務教員担当科目】			
授業内での課題 40%、授業外での課題 20%、テスト 40%、		該当者なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	馬内 里美	オリエンテーション	テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
2	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
3	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
4	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
5	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
6	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
7	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
8	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
9	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
10	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
11	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
12	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
13	馬内 里美	ビジネス英語の構文と表現	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
14	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。		1時間
15	馬内 里美	オリエンテーション 前期の復習	予習: 前期の学習内容の復習をする。 復習: 重要ポイントを勉強し直す。		1時間
16	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
17	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
18	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
19	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
20	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
21	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
22	馬内 里美	言い換え (パラフレーズ) のコツ (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
23	馬内 里美	言い換え (パラフレーズ) のコツ (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
24	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
25	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
26	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
27	馬内 里美	フォーマル、インフォーマルな表現と用法	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1時間
28	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。		1時間
教科書	Campus English (センゲージラーニング)				
参考書	適宜指示する。				
備考	9万語以上の単語を収録した「ジーニアス英和辞典」(大修館) か、それと同等レベルの辞書・電子辞書を用意すること。				

科目名	英語 III			担当者	○立花顕一郎・ウォルグレイヴ イーライ
科目ナンバリング	1100112024				常勤
D P	4			教員研究室	1223
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 英語コミュニケーションI、IIに引き続き、学生自らが自分の目的に沿った英語力を身につけられるよう工夫されている。英語運用能力をさらに向上させるため、基礎的なリスニング、リーディングから一歩進んだ応用的スキルを学ぶ。 英語I、英語IIの単位取得者のみが履修できる。</p> <p>【学習の到達目標】 コミュニケーション英語I・IIで習得した基礎的英語コミュニケーションをさらに増強できるようにする。英語読む、書く、聞いて話すを含めて自分の英語力の弱点を把握・補強してスキルアップする。</p> <p>【成績評価方法】 以下を基準として総合的に評価する予定。 1. 授業中のアクティビティへの参加態度 40% 2. テスト 40% 3. 学期中の課題 20%</p> <p>単位を取得するため、週2回の授業に出席しないとイケない。成績は2回の授業評価を併せて決める。</p>					
授 業 計 画					
<p>Communication</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation ; Introduction 2. Reviewing conversation basics 3. Learning importance of intonation and body language 4. Practicing intermediate vocabulary 5. Anticipating questions and replying sentences 6. Introduction to intermediate English grammar 7-9. Intermediate grammar and vocabulary 10-11. Intermediate listening and vocabulary 12. Introduction to Intermediate writing 13-15. Revising writings and paraphrasing 					
教科書	担当教員が第1回目の授業で指示するので、確認すること。				
参考書	授業開始後に担当教員が指示する。				
備考					

科目名	中国語 II			担当者	王 元
科目ナンバリング	1100112026				常勤
D P	4			教員研究室	1324
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
(1) 必要な中級前期文法の説明, 作文, 短文の和訳を中心とする。 (2) 中国語会話に有用な口語的表現や慣用的表現を習得するため, 聴力の練習も行う。CD やビデオの使用によって, 出来るだけ中国語の原体験を多くする。又これによって動機づけを強化したい。		予習・復習を求めます。授業終了後、質問を受け付け、回答します。質問を以下のアドレスへと送信すれば、個別に回答します。ywang@pm.tbgu.ac.jp			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
中国語検定試験4級を目指す。聴き取り練習を行いながら、日常会話を学んでいく。言語の背景にある中国の文化面にも言及し、語学に対する理解を深めていく。		(1) 継続学習することが大事である。必要に応じて宿題を出すこともある。 (2) クラス全体の学習意欲を高めていこう、発表等もしていきたい。質問などの発言は大いに歓迎する。 (3) 練習問題は基本動詞を基礎とした具体的なものから発展的に並べられているので、自発的なドリルが大きな進歩をとげる助けとなる。 (4) 選んだテキストは自習できるようなテキストなので、授業前に予習を必要とする。 外国語で、その国の文化や人間を学習していることを忘れないようにしよう。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
中間試験 20%、期末試験 40%、課題提出や、発言・質問など (40%)。		中国語の中級前期段階の修得である。マルチメディアの手段を使って中国語を実践的に習得すること。中国語検定試験4級を目指しています。			
		【実務家教員担当科目】 該当なし			
授 業 計 画					
第1週	ガイダンス	第16週	前期の内容を復習する。	第17週	第21課(1)
第2週	第15課(1)	第18週	第21課(2)	第19週	第22課(1)
第3週	第15課(2)	第20週	第22課(2)	第21週	中国語検定試験(1)
第4週	第16課(1)	第22週	中国語検定試験(2)	第23週	中国語検定試験(3)
第5週	第16課(2)	第24週	中国語検定試験(4)	第25週	中国动漫(1)
第6週	第17課(1)	第26週	中国动漫(2)	第27週	中国动漫(3)
第7週	第17課(2)	第28週	中国动漫(4)		
第8週	第18課(1)				
第9週	第18課(2)				
第10週	第19課(1)				
第11週	第19課(2)				
第13週	第20課(1)				
第14週	第20課(2)				
教科書	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国 24 回』白帝社				
参考書	王元『現代中国の軌跡』白帝社 2007 年				
備考	中国の歴史・地理と中国人の生活文化を理解しながらテキストの内容を修得するのが学習範囲である。				

科目名	韓国語 II			担当者	文 慶喆
科目ナンバリング	1100112028				常勤
D P	4			教員研究室	1302
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性はますます増加しつつある。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要がある。そのなかでも韓国語は、韓国との活発な人的、物的交流は勿論、最近文化開放によって学習者の数も急激に増えている。このような現象は、一時的なブームというよりも日本と韓国の地理的、歴史的において密接な関係を築いてきたことを考慮すると当然の結果とも言えよう。 どうすれば、その外国語がマスターできるのか。ある外国語を聞いて、話せるためには、その言葉の背景にある文化も理解しなければならない。 本講義では、韓国語の会話能力すなわち「聞く」、「話す」ことに重点を置くが、合わせて韓国文化も体験しながら行う。 基本文型を中心にしながらも、すぐ使える表現の習得を目指す。なぜなら言葉と表現は時代によって変化するからである。会話文は、身近なところから話題を提供し、会話の練習では全員が主体的に参加することを求める。授業中は、話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行う。</p> <p>【学習の到達目標】 基本文型を40、400位の名詞と60位の動詞、形容詞の運用ができる。自己紹介、場所、趣味、天気表現と敬語体と普通体、肯定と否定、時制等の運用能力の習得できる。</p> <p>【成績評価方法】 小テスト・課題など(50%)、期末試験(50%)</p>					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	文 慶喆	韓国語の歴史と世界的位置	予習；ハンゲル母音と子音の書き方と発音 復習；韓国語と日本語の共通点と相違点	1時間	
2	文 慶喆	語彙の発音と基本挨拶	予習；ハンゲル語彙の発音とパッチムの有無 復習；基本挨拶の練習	1時間	
3	文 慶喆	名詞文と尊敬文とその応用	予習；名詞文と尊敬文を作る練習 復習；名詞文と尊敬文を使った文の作り	1時間	
4	文 慶喆	自己紹介の実践会話とその練習	予習；自分の名前をハンゲルで書く、自己紹介の練習 復習；自己紹介文を作る	1時間	
5	文 慶喆	動詞の名詞化、現在連体形とその応用	予習；動名詞と現在連体形を作ってみる 復習；動詞の名詞化で例文を作る、現在連体形の例文を作る	1時間	
6	文 慶喆	交通の実践会話とその練習	予習；交通に関する語彙、地下鉄の乗るための語彙を覚える 復習；交通関係の例文を作る	1時間	
7	文 慶喆	形容詞の現在連体形、形容詞名詞化とその応用	予習；連体形の理解と形容詞の名詞化語彙を覚える 復習；形容詞の現在連体形と名詞化例文を作る	1時間	
8	文 慶喆	食堂での実践会話とその練習	予習；食事に関する語彙と食堂での実践会話を練習する 復習；食堂での会話の例文を作ってみる	1時間	
9	文 慶喆	確認と理由を表す表現とその応用	予習；確認と理由を表す表現を理解する 復習；確認と理由を表す表現の例文を作ってみる	1時間	
10	文 慶喆	街の案内の実践会話とその練習	予習；街案内の語彙と実践会話文を覚える 復習；街案内の実践会話文を作ってみる	1時間	
11	文 慶喆	文法整理と韓国文化コラム	予習；いままでの文法と韓国文化についてを理解する 復習；連体形、名詞化、活用を復習する	1時間	
12	文 慶喆	試してみる文と状況説明、その応用	予習；試しと状況説明文を理解する 復習；試しと状況説明文の例文を作ってみる	1時間	
13	文 慶喆	ナンタ公演、過去の経験、試みるの表現とその応用	予習；過去や試みの表現を理解する 復習；過去や経験や試みの例文を作ってみる	1時間	
14	文 慶喆	新村での実践会話とその練習	予習；新村で人に聞くときの語彙を覚える 復習；道を聞くときの例文を作ってみる	1時間	
教科書	『かんたん！韓国語 実践会話編』 文 慶喆等 朝日出版社				
参考書	『朝鮮語辞典』 小学館				
備考	受講生への要望) 授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科目名	インテリア環境 I			担当者	二科 妃里
科目ナンバリング	1100222031				常勤
D P	1,4			教員研究室	1317 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>本講義では室内空間が科学的かつ工学的に整備され、居住者に対して心地よいインテリア空間であるための要件を明らかにし、その構成原理を分かりやすく修得するものである。これにより、建築空間の健康・快適性を担保する室内環境のあり方が理解でき、当学科の骨格をなす建築、インテリア、建築設備の分野において、インテリア環境が建築物の利用者や居住者に大きな影響を与えていることを学ぶことができる。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題の解説は、次回の講義にて行うものとする。 ・演習課題等の提出状況については、適宜周知する。 <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>講義に対する姿勢も重要視する。</p> <p>使用教科書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義終了時に講義の内容の復習として、レポートやミニテストを課すことがある。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>建築空間における構成要素、環境技術の概略について理解できる知識体系が身に付く。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>該当なし</p>			
【学習の到達目標】		<p>身近なインテリアの構成要素を建築学的に理解し、良好なインテリア環境とこれを実現する計画・設計法（形態、材料、照明、色彩、環境技術や住宅設備）等についての関心と理解を深める。また、二級建築士やインテリアコーディネーターの資格取得を意識した知識の習得に努める。</p>			
【成績評価方法】		<p>ミニテスト：20%、演習課題：30%、定期考査：50%等を総合して評価する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	二科	インテリア計画の進め方	教科書のインテリア計画について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
2	二科	インテリアエレメント	教科書のインテリアエレメントについて予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
3	二科	家具	配布資料や教科書をもとにインテリア家具（椅子・テーブル・収納・ベッド等）について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
4	二科	住宅設備	配布資料や教科書をもとに住宅設備について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
5	二科	照明器具	事前に配布する資料をもとに照明器具について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
6	二科	インテリアの色彩計画	教科書や配布資料をもとにインテリアの色彩計画について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
7	二科	照明	教科書や配布資料をもとに照明について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
8	二科	寸法とモジュール	教科書や配布資料をもとに寸法（人体寸法・空間寸法・モジュール）について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
9	二科	インテリアの構造	教科書のインテリアの構造について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
10	二科	インテリアの仕上げ	教科書のインテリアの仕上げ（床・壁・天井など）について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
11	二科	インテリアの材料	教科書のインテリアの材料について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
12	二科	インテリアパース	教科書のインテリアパースの種類について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
13	二科	インテリアパース	教科書のインテリアパース構図について予習する。 講義中に配布するプリントやノートを各自整理・熟読する。	4時間	
14	二科	総合	これまでの授業内容でやり終えていない部分を読んで予習する。 教科書の問題や配布する練習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	4時間	
教科書	超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 / Aiprah (著), 河村 容治 (監修)				
参考書	講義時に提示する。				
備考	適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：二科妃里 (1317 教員研究室)				

科目名	建築法規 I		担当者	○野崎 淳夫・溝畑 康治	
科目ナンバリング	1100222033			常勤・非常勤	
D P	1,3		教員研究室	1311	
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・後期	
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 建築物は関係する法令を守らなければ建築することができない。その基本となる法律が、建築基準法であるが、本法は国民の生命、健康、財産の保護のため、建築物の敷地、設備、構造、用途についてその最低の基準を定めたものであり、本法に照らし合わせて、建築物を設計し、施工する必要がある。この講義では、建築基準法の中での基本事項について解説していく。			【課題等のフィードバック方法】 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 ここでは建築物を設計・施工・維持管理する上で必要な基礎知識を学ぶ。この知識によりより安全な建築物が誕生することを法規制の側面から学ぶ。			【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義の際に演習課題を提示するが、未提出者は欠席扱いとなる。 ・ノートには要点をまとめておくこと。板書の転記だけでは対応できない部分がある。		
【成績評価方法】 ・演習課題の提出等 (50%) ・学期末試験 (50%)			【受講して得られる効果・メリット、その他】 建築法規を習得することで、建築物の設計段階での留意点(高さ、面積、動線、換気、採光、防火、避難・・・など)が理解でき、施工段階での監理業務の要点が理解できる。		
			【実務家教員担当科目】 建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、建築物を設計・建設するために守らなければならない基礎的な法規を講義する。		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	野崎 淳夫	建築申請：確認申請・検査・指定確認審査機関・適用外建築物	教科書、配布資料で「建築申請」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
2	野崎 淳夫	建築基準法の用語定義 (1)：建築物・設備・居室・主要構造部等	教科書、配布資料で「建築基準法の用語定義」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
3	野崎 淳夫	建築基準法の用語定義 (2)：敷地・面積・高さ等	教科書、配布資料で「建築基準法の用語定義」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
4	野崎 淳夫	建築物の室内環境 (1)：居室の採光	教科書、配布資料で「建築物の室内環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
5	溝畑 康治	建築物の室内環境 (2)：居室の換気・シックハウス等	教科書、配布資料で「建築物の室内環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
6	溝畑 康治	建築物の構造基準：居室・地階・界壁・階段等	教科書、配布資料で「建築物の構造基準」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
7	溝畑 康治	建築物の設備基準：便所・給排水設備・電気設備等	教科書、配布資料で「建築物の設備基準」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
8	溝畑 康治	建築物の形態制限 (1)：都市計画区域・用途地域・防火地域・準防火地域等	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
9	溝畑 康治	建築物の形態制限 (2)：容積率	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
10	溝畑 康治	建築物の形態制限 (3)：建ぺい率	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
11	溝畑 康治	建築物の形態制限 (4)：道路斜線	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
12	溝畑 康治	建築物の形態制限 (5)：隣地斜線・北側斜線	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
13	溝畑 康治	建築物の形態制限 (6)：防火地域・準防火地域等	教科書、配布資料で「建築物の形態制限」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
14	溝畑 康治	その他の地域地区：特例容積率適用地区・高度地区・景観地区等	教科書、配布資料で「その他の地域地区」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
教科書	「図説 やさしい建築法規」学芸出版社				
参考書	「基本 建築基準法関係法令集」建築資料研究社				
備考	適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：野崎淳夫 (1311 教員研究室)				

科目名	健康インテリアI		担当者	○野崎 淳夫・一條 佑介 二科 妃里・溝畑 康治
科目ナンバリング	1100232036			常勤・非常勤
D P	1,3		教員研究室	1311, 1313, 1317
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位 必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ダイベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
<p>現在の建築物においては、外観が優れており、内部が機能的であることはもちろんのこと、健康・快適な内部空間である必要がある。本講義では住まいの健康・快適性について、科学あるいは心理的側面から捉え、健康性が保たれ快適で安らぎが自覚できる室内環境が創造できるインテリア計画のあり方について学ぶ。特に、室内環境を構成する建材、住設機器、照明器具、インテリア用品などの種類とその特徴について学ぶ。また、インテリアがヒトの健康快適性や心理に及ぼす影響を環境工学や環境心理学的視点から明らかにしていく。さらには、プレゼンボード作製の演習作業を行い、インテリア設計技術の要点を学ぶ。</p>		<p>最終講義で全体に対するフィードバックを行う。</p>		
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】		
<p>健康・快適に配慮したインテリアの構成素材とそのデザイン手法について習得し、実際に演習を通してインテリア設計の基礎理論を楽しく学ぶ。</p>		<p>講義開始から20分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻2回で欠席1回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。</p>		
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】		
<p>定期試験：50 [%]、レポート：30 [%]、小テスト：20 [%]</p>		<p>インテリアの構成要因が理解でき、健康・快適なインテリア設計を行う上での基礎知識が習得できる。</p>		
【実務家教員担当科目】		<p>建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、健康に配慮したインテリアの基礎的要件を講義する。</p>		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	野崎 淳夫	使用材料 (1)： テクスチャー/素材特性	教科書、配布資料で「使用材料」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
2	野崎 淳夫	使用材料 (2)： 床材/壁材/天井材/塗料/接着剤/特性特性	教科書、配布資料で「使用材料」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
3	野崎 淳夫	使用材料 (3)： その他の内装部材/収まり/下地/特性	教科書、配布資料で「使用材料」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
4	一條 佑介	空間形態 (1)： 単位空間/平面プラン/バリアフリー	教科書、配布資料で「空間形態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
5	一條 佑介	空間形態 (2)： リビング/ダイニング/個室	教科書、配布資料で「空間形態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
6	一條 佑介	空間形態 (3)： 個室/水廻り/収納/エクステリア	教科書、配布資料で「空間形態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
7	二科 妃里	空間形態 (4)： 建具/カーテン	教科書、配布資料で「空間形態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
8	二科 妃里	付帯設備 (1)： 家具	教科書、配布資料で「付帯設備」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
9	二科 妃里	付帯設備 (2)： キッチン/トイレ/バス	教科書、配布資料で「付帯設備」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
10	溝畑 康治	色彩計画： カラーコーディネート	教科書、配布資料で「色彩計画」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
11	溝畑 康治	インテリア演習 (1)： LDK リフォーム/家具レイアウト	教科書、配布資料で「LDK リフォーム/家具レイアウト」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
12	溝畑 康治	インテリア演習 (2)： 仕上材/建具/照明器具	教科書、配布資料で「仕上材/建具/照明器具」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
13	溝畑 康治	インテリア演習 (3)： キッチン/その他	教科書、配布資料で「キッチン/その他」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
14	野崎 淳夫 溝畑 康治	プレゼンテーション： 講評会	予習として前回指導された内容を基に「インテリア」のプレゼンテーションを検討する。指導された内容を復習する。	4時間
教科書	健康・快適な住宅づくりのチェックポイント、日本建築学会編、オーム社			
参考書	室内環境学概論、東京電機大学出版会			
備考	問い合わせ先：野崎淳夫（1311教員研究室）			

科目名	建築構法Ⅱ			担当者	○一條 佑介・二科 妃里
科目ナンバリング	1100232037				常勤
D P	1,4			教員研究室	1313, 1317
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築物は幾多の部品の組み合わせにより構築されている。その部品と構成方法に関する学問分野が「建築構法」である。当科目は木質構造の建築構法について概説する。具体的には木材の材料特性と、木質構造の各種構法について、その主体構造と各部構造の仕組み、それぞれの構造の特徴や使われ方について学習する。		演習・レポート課題や小テストを実施し、評価・解説を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
木質建築の構造の仕組みと各部名称に関する、基礎的な知識習得と関連用語を理解する。また、建築設計監理や施工管理に必要な、構法分野の基礎技術を理解する。		遅刻は、原則出席として認めない。毎講義、演習やビデオ視聴のレポート課題を実施する。未提出者は欠席扱いとする。授業計画を参考に、テキストを一読する等予習・復習を行い、授業に臨む。 ○私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習課題 30%、学期末試験 70% を根拠として判断する。		木質構造建物の構成方法理解により、住宅設計関連あるいはインテリア計画関連の授業に必要な基礎知識を得ることができる。また、建築設計・施工に必要な、構法分野の基礎技術を習得することができる。			
		【実務家教員担当科目】			
		建築設計事務所や施工会社において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、建築物の各種構法について、構法の特徴を比較しながら講義する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	二科 妃里	ガイダンス ～ 構造の役割と種類	教科書、配布資料で「建築構法の概要」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
2	二科 妃里	木質の材料特性と利用方法	教科書、配布資料で「木質の材料特性と利用方法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
3	二科 妃里	基礎・床	教科書、配布資料で「基礎・床」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
4	二科 妃里	軸組と壁	教科書、配布資料で「軸組と壁」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
5	二科 妃里	小屋組みと屋根	教科書、配布資料で「小屋組みと屋根」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
6	二科 妃里	構造製図	教科書、配布資料で「構造製図」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
7	二科 妃里	前半まとめ	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
8	一條 佑介	枠組壁式構法	教科書、配布資料で「枠組壁式構法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
9	一條 佑介	軸組伝統構法	教科書、配布資料で「軸組伝統構法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
10	一條 佑介	集成材構法	教科書、配布資料で「集成材構法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
11	一條 佑介	木質ラーメン構法、その他	教科書、配布資料で「木質ラーメン構法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
12	一條 佑介	内装(床、内壁、天井)	教科書、配布資料で「内装」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
13	一條 佑介	外装(外壁、開口部、屋根)	教科書、配布資料で「外装」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
14	一條 佑介	階段、風呂、トイレ、台所	教科書、配布資料で「階段、風呂、トイレ、台所」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
教科書	「図解 建築の構造と構法」鈴木秀三 井上書院				
参考書	適宜指定する。				
備考	製図演習課題を課すこともある。 問い合わせ先：一條佑介(1313教員研究室)・二科妃里(1317教員研究室)				

科目名	建築環境工学Ⅱ			担当者	野崎 淳夫
科目ナンバリング	1100232038				常勤
D P	1,3			教員研究室	1311
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築環境工学では、建築物におけるより良い環境を実現する内容を扱うが、2009年度から一級建築士試験において、本科目が別途「建築環境・設備」として新設されるなど、その重要度が高まっている。ここでは、1年時の「建築環境工学Ⅰ」では取り上げなかった、熱環境、空気環境の仔細を履修する。人は1日の約90%を室内で過ごすため、室内の温熱や空気質が人に与える影響は極めて大きい。ここでは、室内環境の構成要因の中で重要な二つの領域について、詳しく学ぶ。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
建築物において、温熱環境と空気環境が如何にして構成されるか、或いは空調設備と換気がこれらにどのような効果をもたらすかについて具体的に学ぶ。 また、人の健康と室内環境との関わりを学び、健康で快適な住環境を創造するための基礎知識の習得を目標とする。		講義開始から20分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻2回で欠席1回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
定期試験：50 [%]、レポート：30 [%]、小テスト：20 [%]		建築物における室内環境の構成が理解でき、環境構成要因と健康との関係が理解できるようになる。			
		【実務家教員担当科目】			
		建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、建築物を設計・建設するために必要な環境工学の応用を講義する。			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	野崎 淳夫	室内環境とその構成要因	教科書、配布資料で「室内環境とその構成要因」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
2	野崎 淳夫	室内環境と人の健康	教科書、配布資料で「室内環境と人の健康」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
3	野崎 淳夫	温熱環境の構成要素(建物側要因(温熱4要素)と人側要因(着衣量、作業量))	教科書、配布資料で「温熱環境の構成要素」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
4	野崎 淳夫	熱の種類と処理法	教科書、配布資料で「熱の種類と処理法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
5	野崎 淳夫	温熱の特徴と指標	教科書、配布資料で「温熱の特徴と指標」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
6	野崎 淳夫	伝熱・結露、結露防止対策	教科書、配布資料で「伝熱・結露、結露防止対策」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
7	野崎 淳夫	温熱環境と空調設備	教科書、配布資料で「温熱環境と空調設備」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
8	野崎 淳夫	空気環境の構成要素	教科書、配布資料で「空気環境の構成要素」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
9	野崎 淳夫	空気の特徴と指標	教科書、配布資料で「空気の特徴と指標」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
10	野崎 淳夫	汚染空気の処理法	教科書、配布資料で「汚染空気の処理法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
11	野崎 淳夫	空気環境の制御手法	教科書、配布資料で「空気環境の制御手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
12	野崎 淳夫	建物の換気と換気原理	教科書、配布資料で「建物の換気と換気原理」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
13	野崎 淳夫	換気方式と特徴	教科書、配布資料で「換気方式と特徴」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
14	野崎 淳夫	換気設計法/まとめ	教科書、配布資料で「換気設計法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
教科書		図説やさしい建築環境、辻原万規彦監修、学芸出版社		
参考書		特に指定しない		
備考		問い合わせ先：野崎淳夫(1311教員研究室)		

科目名	建築法規Ⅱ			担当者	梅岡 恒治
科目ナンバリング	1100232039				常勤
D P	1,3			教員研究室	1315
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築物を建設するためには、関係する法律を守らなければ建設することができない。その基本となる法律が、建築基準法である。これは、国民の生命・健康・財産の保護のため、建築物の敷地・設備・構造・用途についてその最低基準を定めた法律であるが、この法律に違反しないように設計・施工する必要がある。この講義では、建築基準法の中で、主に避難・防火・構造等の単体規定について事例をもとに解説していく。さらに、関係するその他の法律についても併せて解説していく。		演習・レポート課題や小テストを実施し、評価・解説を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
建築基準法の基礎知識を学ぶことで、人間にとって安全で快適な建築空間を確保するために、最低限何が必要なのかを理解する。		毎講義、演習やビデオ視聴のレポート課題を実施する。未提出者は欠席扱いとする。授業計画を参考に、テキストを一読する等予習・復習を行い、授業に臨む。私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退席は禁止する。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習課題の提出(20%)、学期末試験(80%)。		建築設計および建築施工の仕事に就く者にとって、建築関連法規の実践的な知識を習得することで、設計段階での法的チェックや施工段階での監理業務に有効である。			
【実務家教員担当科目】					
建築設計事務所において公共建築等の設計・監理業務経験のある教員が、建築物を設計・建設するために守らなければならない法規を講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	梅岡	防火関係の用語定義：延焼のおそれのある部分・防火設備・防火材料等	次回講義のテキスト範囲に目を通す。本講義について見直し、質問事項を整理する。		
2	梅岡	建築物の防火制限(1)：準耐火構造・準耐火建築物等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
3	梅岡	建築物の防火制限(2)：特殊建築物・大規模木造建築物等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
4	梅岡	建築物の防火制限(3)：防火構造・防火区画・内装制限等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
5	梅岡	建築物の避難施設(1)：廊下・直通階段・避難階段等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
6	梅岡	建築物の避難施設(2)：排煙設備・非常用照明装置・非常用進入口・非常用昇降機等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
7	梅岡	建築物の構造強度(1)：構造計算	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
8	梅岡	建築物の構造強度(2)：構造規定・基礎・木造等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
9	梅岡	建築物の構造強度(3)：構造規定・組積造・補強コンクリートブロック造	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
10	梅岡	建築物の構造強度(4)：鉄骨造	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
11	梅岡	建築物の構造強度(5)：鉄筋コンクリート造	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
12	梅岡	その他の規定：建築協定・工事現場の安全・罰則等	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
13	梅岡	その他の法律(1)：建築士法・建設業法	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
14	梅岡	その他の法律(2)：消防法・都市計画法	本講義について見直し、質問事項を整理する。次回講義のテキスト範囲に目を通す。		
教科書	「やさしい建築法規」 今村仁美 他 学芸出版社				
参考書	建築基準法関係法令集(毎年内容が更新されるので購入不要)				
備考	適宜、教材資料を配布する。				

科目名	構造力学Ⅱ			担当者	一條 佑介
科目ナンバリング	1100232040				常勤
D P	1,4			教員研究室	1313
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築物は、これに加わるさまざまな荷重・外力に対して安全であるとともに、その機能が損なわれないようにしなければならない。 この講義では、「構造力学Ⅰ」に続いて、簡単な建築骨組に外力が作用する場合の骨組の応力と変形の算出法および部材断面形状の力学特性と断面各部の応力度の算出法について学ぶ。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
(1) 骨組に外力が作用した場合の骨組に生じる応力と変形を算出できる。 (2) 部材断面形状の力学特性から、断面内の応力度および部材の許容強度を算出できる。		演習課題を解くことが多い。授業内容を理解すれば課題は容易に回答できるので、予習・復習を行い、授業の進行から遅れないよう努める。課題の提出は几帳面に行う。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習課題 50%、定期試験 50%。		生活空間を構成する建築要素の物理的感覚が身につく。骨組応力について数値的に検討を行えることから、安全についての理解が深まる。			
【実務家教員担当科目】		該当なし。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一條 佑介	静定構造物の応力	教科書、配布資料で「静定構造物の応力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
2	一條 佑介	同上演習①(静定ラーメン)	教科書、配布資料で「静定ラーメンの応力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
3	一條 佑介	同上演習②(静定トラス)	教科書、配布資料で「静定トラスの応力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
4	一條 佑介	断面応力度、歪度、許容応力度	教科書、配布資料で「断面応力度、歪度、許容応力度」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
5	一條 佑介	部材断面の性質(図心、断面2次モーメント)	教科書、配布資料で「部材断面の性質」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
6	一條 佑介	曲げを受ける部材の断面応力度	教科書、配布資料で「曲げを受ける部材の断面応力度」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
7	一條 佑介	同上演習	教科書、配布資料で「曲げを受ける部材の断面応力度」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
8	一條 佑介	はりの変形	教科書、配布資料で「はりの変形」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
9	一條 佑介	同上演習	教科書、配布資料で「はりの変形」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
10	一條 佑介	不静定ばりの応力	教科書、配布資料で「不静定ばりの応力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
11	一條 佑介	同上演習	教科書、配布資料で「不静定ばりの応力」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
12	一條 佑介	不静定ラーメンの解法(応力法、たわみ角法)	教科書、配布資料で「不静定ラーメンの解法(応力法、たわみ角法)」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
13	一條 佑介	不静定ラーメンの解法(固定モーメント法)	教科書、配布資料で「不静定ラーメンの解法(固定モーメント法)」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
14	一條 佑介	不静定ラーメンの解法の演習	教科書、配布資料で「不静定ラーメンの解法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
教科書	「図説やさしい構造力学」浅野清昭 学芸出版社				
参考書	特に指定しない。				
備考	適宜、資料を配布する。 問い合わせ先：一條佑介 (1313 教員研究室)				

科目名	インテリア環境Ⅱ			担当者	二科 妃里
科目ナンバリング	1100232042				常勤
D P	1,2			教員研究室	1317 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
1年次前期で開講された「インテリア環境Ⅰ」に引き続き、本講義においても空間を内側からとらえ、その中で生活する人間の側に立って思考することが大切である。また、インテリアは多様な構成要素が相互に関係しあっていた集合体であり、空間内での居心地を目的としたシステムであるといえる。 本講義では、インテリアの構造・構法と仕上げ、環境と設備等を解説し、具体的な設計に応用する方法を学ぶ。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
インテリアの構造・構法と仕上げ、環境と設備等を理解し、インテリア設計に際して考慮すべき代表要件に関して基礎知識を修得する。		定期的に演習課題を行うので予習・復習を必ず行うこと。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習課題 (20%)、プレゼンボード作品 (30%)、定期試験 (30%) の結果を総合的に評価する。		インテリア空間の中で構造・構法と仕上げ、環境と設備等がもたらす役割について系統的な理解が得られ、インテリア設計に際して建築内装等の他の設計要素と同様の取扱いが可能となる。			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	二科 妃里	インテリアデザインの計画	教科書、配布資料で「インテリア空間の性能と安全性、住空間の計画、公共空間の計画」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
2	二科 妃里	室内環境と設備	教科書、配布資料で「熱環境、室内環境、音環境、給排水」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
3	二科 妃里	室内環境と設備	教科書、配布資料で「換気、冷暖房、電気設備、水回り設備」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
4	二科 妃里	人にやさしいインテリア	教科書、配布資料で「住宅のデザイン、公共施設のデザイン」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
5	二科 妃里	色彩理論とインテリアデザイン	教科書、配布資料で「色彩心理、色彩の標記」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
6	二科 妃里	色彩理論とインテリアデザイン	教科書、配布資料で「色彩調和と色彩計画、色とは何か、色と質感」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
7	二科 妃里	内装	教科書、配布資料で「内装」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
8	二科 妃里	エレメント・設備	教科書、配布資料で「照明器具、移動家具など」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
9	二科 妃里	マテリアル	教科書、配布資料で「材料、塗料、機能的材料」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
10	二科 妃里	インテリアボード作成	教科書、配布資料で「パース」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
11	二科 妃里	インテリアボード作成	教科書、配布資料で「パース」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
12	二科 妃里	インテリアボード作成	教科書、配布資料で「パース」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
13	二科 妃里	インテリアボード作成	教科書、配布資料で「パース」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
14	二科 妃里	学習のまとめ(総合演習)	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
教科書	実践につながるインテリアデザインの基本、橋口新一郎 編著、学芸出版社				
参考書	講義時に提示する。				
備考	講義時に提示する。				

科目名	建築計画Ⅱ			担当者	山本 和恵
科目ナンバリング	1100232043				常勤
D P	1,2			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>建築を計画・設計する際の、一連の「プロセス」と「考え方」、ならびに設計ノウハウの理解を目的とする。生活行為や生活者の価値観、社会制度や社会的役割、その他の建設技術、経済、法律など、様々な検討要素を勘案して、総合化するのが建築である。業務系施設や公共施設のプログラムと設計手順を解説する。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストとその解説 ・講義中の質疑 <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>確認テストを行うので、その準備をして講義に臨むこと。新聞や雑誌などに目を通し日頃から情報収集につとめること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>建築計画・建築設計科目の根幹科目である</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>特になし</p>			
【学習の到達目標】		<p>建築計画の基本的な「設計プロセス」を理解し設計に生かせる知識を習得する。また「専門用語」を理解し使えるようにする。思想や社会背景により設計される空間が大きく変わってくることや、その空間が社会に及ぼす大きな影響にも思いを巡らせ、深く考える姿勢を身につける。</p>			
【成績評価方法】		<p>毎回小テスト、小論文、演習課題等の提出を要求する。開講回数2/3以上の提出物がそろうことで期末試験の受験資格が得られる。基本的に期末試験の結果により成績をつける。しかし優秀な日常提出物がある場合は加点を行う。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山本 和恵	事務所ビル1ー構造・設備・避難計画	教科書の通読		4時間
2	山本 和恵	事務所ビル2ー設備や面積の規模算定	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
3	山本 和恵	事務所ビル3ーオフィスランドスケープ	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
4	山本 和恵	学校建築1ー学校建築の変遷	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
5	山本 和恵	学校建築2ープログラムとプランニング	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
6	山本 和恵	幼稚園・保育園	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
7	山本 和恵	中間総括	前半6回分の内容の復習		4時間
8	山本 和恵	図書館1ー必要諸室とプランニング	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
9	山本 和恵	図書館2ープランニングの歴史の変遷	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
10	山本 和恵	図書館3ー近年の計画の傾向	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
11	山本 和恵	美術館・博物館1ー美術品等の管理と公	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
12	山本 和恵	美術館・博物館2ー近年の計画の傾向	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
13	山本 和恵	劇場ー装置としての建築	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
14	山本 和恵	新しい建築計画学の潮流	確認テストへの準備 関連図書や建築見学等		4時間
教科書	改訂版「図説やさしい建築計画」深水浩 学芸出版				
参考書	「コンパクト版建築設計資料集」丸善				
備考	なし				

科目名	建築設備 I			担当者	川村 広則
科目ナンバリング	1100232044				常勤
D P	1,4			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】	建物の室内温熱環境や空気環境(気温・湿度・気流・放射・空気清浄度)を調節するための設備システムとして空気調和設備がある。空気調和設備の計画は、室内の快適環境を維持するために重要な役割を持っている。本講義では、室内温熱環境と快適条件、壁体の伝熱理論、熱力学の法則など空気調和設備を行うための基礎理論を理解するとともに、空気調和設備の計画と冷暖房負荷の推定等について学ぶ。			【課題等のフィードバック方法】 演習問題やレポート課題の解説を次の授業で行う。クラスルームで履修者に連絡する。	
【学習の到達目標】	空気調和設備を考える上で必要となる熱・空気の基礎理論を理解するとともに、冷暖房負荷の計算法を学習する。			【履修上の注意・予習・復習について】 演習問題を提出しない場合は欠席扱いとする。復習を行い授業内容の理解を深めるとともに、授業計画から次の授業の準備(予習)を行うことが重要である。	
【成績評価方法】	演習問題及びレポート課題 25%、定期試験 75%の結果を総合的に判断して評価する。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 空気調和設備の計画設計に必要な基礎知識が習得できる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村	ガイダンス【授業内容と進め方他】、序論【空気調和設備の目的と役割】	「空気調和設備の概要・室内の温熱環境と空気環境」について教科書で確認して予習する。空気調和設備の目的と役割を復習する。		4時間
2	川村	空気調和設備の概要、室内の温熱環境と空気環境	「湿り空気と空気線図の使い方・空気線図上での空気の状態変化」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
3	川村	湿り空気と空気線図の使い方、空気線図上での空気の状態変化	「管工事及び建築士に出題される空気の状態に関する問題」について教科書やこれまで配布されたプリントを読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
4	川村	管工事及び建築士に出題される空気の状態に関する問題と解説	「エネルギーの種類と変換・熱力学の法則」について教科書の関連部分を読んで予習する。演習問題の解説を参考に復習する。		4時間
5	川村	エネルギーの種類と変換、熱力学の法則	「熱の移動(熱取得と熱損失)・燃焼・冷凍の仕組みと冷凍理論」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
6	川村	熱の移動(熱取得と熱損失)、燃焼、冷凍の仕組みと冷凍理論	「空気調和設備の方式・冷暖房機器の構成」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
7	川村	空気調和設備の方式(分類と特徴、冷暖房機器の構成)	「管工事及び建築士に出題される空気調和設備に関する問題」について教科書やこれまで配布されたプリントを読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
8	川村	管工事及び建築士に出題される空調設備に関する問題と解説	「熱負荷の概要・熱の種類と熱収支・熱負荷要素」について教科書の関連部分を読んで予習する。演習問題の解説を参考に復習する。		4時間
9	川村	熱負荷の概要、熱の種類と熱収支、熱負荷要素	「熱負荷の種類(貫流熱・日射熱)」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
10	川村	熱負荷の種類1 貫流熱、日射熱	「熱負荷の種類(内部発熱・すきま風・蓄熱負荷)」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
11	川村	熱負荷の種類2 内部発熱、すきま風、蓄熱負荷	「熱負荷計算(冷房負荷)」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
12	川村	熱負荷計算例題1(冷房負荷)	「熱負荷計算(暖房負荷)」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
13	川村	熱負荷計算例題2(暖房負荷)	「冷房能力、暖房能力の算出と熱源機器の決定」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
14	川村	冷房能力、暖房能力の算出と熱源機器の決定	これまで授業で行った内容について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
教科書	図解 空調設備の基礎 ナツメ社				
参考書	空気調和設備計画設計の実務の知識				
備考	特になし				

科目名	建築設備Ⅱ			担当者	八十川 淳
科目ナンバリング	1100232045				常勤
D P	1,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単 位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>建築設備は給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備に分類される。当科目では建築における水環境関連の設備、つまり給排水衛生設備についての概略を学ぶ。給排水衛生設備には都市施設である上下水道と接続した関連設備や、給湯設備、衛生器具、ガス設備、さらに火災時対応の消火設備など、様々な機能やスケールのシステムが含まれる。これらの仕組みと役割を系統的に紹介し、モノとしての給排水設備の概略理解を行う。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 毎回、講義範囲の例題解説実施時に、受講生の質疑を受ける。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 学習したことを身近な設備で確認すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 身近な住宅の水に関する設備の理解度を高めることができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て住宅の水環境システムを設計。</p>			
【学習の到達目標】		当科目で紹介する、給排水衛生設備および関連設備の概略理解。			
【成績評価方法】		定期試験成績 60%、提出課題の評価 40%を目安として総合的に評価する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	八十川 淳	科目オリエンテーション～建築における水環境設備の位置づけ	復習 / 講義内容を確認		4時間
2	八十川 淳	地域の水環境と上下水道	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
3	八十川 淳	給水設備 1	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
4	八十川 淳	給水設備 2	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
5	八十川 淳	給水設備 3	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
6	八十川 淳	給湯設備	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
7	八十川 淳	排水通気設備 1	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
8	八十川 淳	排水通気設備 2	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
9	八十川 淳	前半まとめ(実物見学理解) 1	1～8回までの講義範囲の再確認		4時間
10	八十川 淳	ガス設備・衛生器具設備	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
11	八十川 淳	浄化槽設備・雨水利用	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
12	八十川 淳	消火設備 1	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
13	八十川 淳	消火設備 2	予習 / 講義範囲のテキスト確認 復習 / 講義内容と例題を確認		4時間
14	八十川 淳	後半まとめ(実物見学理解) 2	10～14回までの講義範囲の再確認		4時間
教科書	給排水衛生設備の基礎 ナツメ社 山田信亮				
参考書	イラストでわかる建築設備 ナツメ社 山田信亮他 最高にわかりやすい建築設備 エクスナレッジ社 Green & Blue Unit's 著				
備考	質問や問い合わせは八十川教員室で受け付けます				

科目名	建築施工			担当者	○富山 正幸・土屋 秀敏
科目ナンバリング	1100242046				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1315 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築施工は、設計図書に基づいて多種多様な技術者・技能者の技術力を総合的に集積させて行う、建築生産活動である。この講義では、建築材料構法の知識を基本として、建築の各種施工方法について解説していく。施工および施工管理の技術力習得は勿論のことであるが、建築設計監理業務においても、重要な知識習得の内容となっている。		演習・レポート課題や小テストを実施し、評価・解説を行う。 UNIVERSAL PASSPORT の課題管理を通じてフィードバックを行う。 講義終了後、質問を受け付け回答する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造の構法ごとに、施工順序に沿って一連の各種建築工事の内容を理解する。さらに、施工者として施工管理上特にチェックしなければならないポイントについても、法的根拠に基づいて指摘できる能力を習得する。		遅刻は、原則出席として認めない。 毎講義、演習やビデオ視聴のレポート課題を実施する。未提出者は欠席扱いとする。 授業計画を参考に、テキストを一読する等予習・復習を行い、授業に臨む。 私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習課題の提出など：40% 学期末試験：60%		建築施工会社や建築設計事務所における業務に、施工管理や設計監理がある。その実務に必要な施工の基礎知識を習得することで、社会での実務業務の事前準備となる。			
		【実務家教員担当科目】			
		建築設計事務所や施工会社において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、建築物の各種施工法について、施工管理技術も含めて講義する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	土屋 秀敏	建築施工現場：建設業／工程管理／安全管理	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
2	土屋 秀敏	木造住宅(1)：施工計画／工程計画／仮設工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
3	土屋 秀敏	木造住宅(2)：土工事／基礎工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
4	土屋 秀敏	木造住宅(3)：木工事／プレカット工法／パネル工法	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
5	土屋 秀敏	木造住宅(4)：屋根工事／足場工事／外壁工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
6	土屋 秀敏	木造住宅(5)：設備工事／塗装工事／検査・引渡し	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
7	土屋 秀敏	鉄筋コンクリート造建物(1)：施工計画／工程計画／仮設工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
8	土屋 秀敏	鉄筋コンクリート造建物(2)：地業工事／土工事／基礎工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
9	土屋 秀敏	鉄筋コンクリート造建物(3)：墨出／足場工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
10	土屋 秀敏	鉄筋コンクリート造建物(4)：鉄筋工事／型枠工事／コンクリート工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
11	土屋 秀敏	鉄筋コンクリート造建物(5)：外部建具工事／防水工事／内装工事／外装工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
12	土屋 秀敏	鉄骨造建物(1)：施工計画／工程計画／仮設工事／地業工事／土工事／基礎工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
13	土屋 秀敏	鉄骨造建物(2)：鉄骨工事	講義の疑問点を整理 次回の講義範囲のテキストを予習		4時間
14	土屋 秀敏	鉄骨造建物(3)：床スラブ工事／外壁工事／防水工事／内装工事	講義の疑問点を整理		4時間
教科書	「初めての建築施工」学芸出版社 適宜、教材資料を配布する。				
参考書	適宜、紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	建築 CAD			担当者	○須藤 諭・川村 広則
科目ナンバリング	1100232052				常勤
D P	1,3			教員研究室	1318
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>コンピュータ援用設計 CAD (Computer-Aided Design) は、幅広くコンピュータを利用して設計製図を行うことができるシステムである。本演習では、まず現代における CAD システムの概要を理解し、その位置づけを把握する。次に、基本的な CAD 操作を習得しながら建築設計図の意味を理解し、正確で迅速な作図能力を養うことを主な目的とする。また、製図分野だけではなく、設計に係わる企画、開発、生産、実験研究などにも幅広く活用されている CAD の特性を理解した上で、CAD システム応用の可能性も探っていく。</p> <p>【学習の到達目標】 汎用 CAD の基本的な操作方法と図面の作図法の基礎を身につけること。単なる図面のコピー技術ではなく、建築製図技術の基本も合わせて修得する</p> <p>【成績評価方法】 1) 毎回授業課題 50% 2) 各ステップ実技テスト 25% 3) 最終テスト 25% を総合的に判断する。</p>		<p>毎回の提出課題については、課題進行中に都度チェック、提出時にチェックし指導する。GoogleClassroom 上で課題の提出状況を管理し、課題の提出・フィードバックを行う。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 毎回課題に取り組むので、授業開始時の課題説明をしっかりと把握する必要がある。遅刻は厳禁である。遅刻は 2 回で欠席 1 回として扱う。また、実技の修得には復習がもっとも大事である。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 CAD に対する定性的理解だけでなく、CAD 技術を体得することができる。 CAD 検定資格の取得にも大いに役に立つ。</p> <p>【実務家教員担当科目】 非該当</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	須藤 諭・川村 広則	建築 CAD 概論／基本機能の理解／CAD 基本操作演習 (課題 1)	予習：シラバスを熟読しておくこと。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
2	須藤 諭	CAD 編集機能の理解／編集操作演習 (課題 2)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
3	須藤 諭	CAD 各種コマンドの理解／各種コマンド演習 (課題 3 - 1, 3 - 2)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
4	須藤 諭	基本機能・編集機能・各種コマンドのスキルアップ／実技テスト (課題 4)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
5	須藤 諭	属性関係の設定及び関連コマンドの演習 (課題 5)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
6	須藤 諭	建築 CAD 検定問題の研究 1 (課題 6 - 1, 6 - 2)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
7	須藤 諭	RC 造事務所の平面図 (インテリア配置図) (課題 7)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
8	須藤 諭	建築 CAD 検定問題の研究 2 (課題 8 - 1, 8 - 2)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
9	須藤 諭	木造住宅の平面図 1 (課題 9)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
10	須藤 諭	木造住宅の平面図 2 (課題 10)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
11	須藤 諭	建築 CAD 検定問題の研究 3 (課題 11 - 1, 11 - 2, 11 - 3, 11 - 4)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
12	須藤 諭	建築 CAD 検定問題の研究 4 (課題 12 - 1, 12 - 2, 12 - 3, 12 - 4)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
13	須藤 諭	木造住宅の平面図 3 (2 階平面図) (課題 13)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
14	須藤 諭	木造住宅の断面図 (課題 14)	予習：事前に課題内容をよく理解しておく。 復習：課題を各自で再作成し技能の定着を図る。	1 時間
教科書	教員作成の授業資料を用いる。			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
備考	なし。			

科目名	表現技法 B			担当者	○川村 広則・大泉 浩一
科目ナンバリング	1100232053				常勤・非常勤
D P	2,3			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 環境・地域・建築に関する取材記事・調査報告・研究論文の読み解きを通じて、説得力のある自分自身の表現方法を身につける。そのために、文献・資料・データ情報を検索・収集した後、目的に応じた情報に変換・活用する技法を修得する。また、プレゼンテーションメディアを利用したプレゼンテーションの基礎的技法について学ぶため、企画から完成までの過程を体験的に学習し、ワード、パワーポイント等の基本的な使い方を身につける。			【課題等のフィードバック方法】 課題に対する質問等はその都度回答する。提出課題の講評を定期的に行う。		
【学習の到達目標】 ワードやエクセルを使って、新情報の作成に必要な不可欠な表現処理(プレゼンテーション)を習得して、立論→展開→結論の形式の4,000字程度の概要文や800字程度の要約文が書けるようにすること。			【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、授業のはじめに課題の指示と解説をした後、直ちに各自での作業に入るので授業開始時刻に遅れてはならない。毎週の課題を速やかに進めるため、予習・復習を行うことが重要である。		
【成績評価方法】 課題提出(70%)を主体に、課題に取り組む姿勢(10%)や発表会(20%)を総合して評価する。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 一般文章はもちろん、取材・調査報告や研究論文などの構成と書き方が理解でき、課題レポートの提出や卒論等の作品を完成する際の基本技術が習得できる。		
			【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村、大泉	ガイダンス、講義の進め方について、パソコンの起動及び使用ソフトの確認	今回の講義内容(ワード操作の確認)の予習を行う。シラバスや配布プリント等で講義概要を復習する。		
2	大泉	ワード操作の確認	今回の講義内容(エクセル操作の確認)の予習を行う。配布プリント等でワード操作を復習する。		
3	大泉	エクセル操作の確認	今回の講義内容(パワーポイント操作の確認)の予習を行う。配布プリント等でエクセル操作を復習する。		
4	大泉	パワーポイント操作の確認	今回の講義内容(建築環境に関する情報収集と整理)に関する予習を行う。配布プリント等でパワーポイント操作を復習する。		
5	大泉	課題1「建築環境」(1)情報の収集と整理	今回の講義内容(建築環境のコンテンツ作成)に関する予習を行う。配布プリント等で建築環境に関する情報の収集と整理を復習する。		
6	大泉	課題1「建築環境」(2)コンテンツ作成	今回の講義内容(建築環境に関するスライド・文書作成)の予習を行う。配布プリント等で建築環境に関するコンテンツ作成を復習する。		
7	大泉	課題1「建築環境」(3)スライド・文書作成	今回の講義内容(ポートフォリオの作成に関する情報の収集と整理)の予習を行う。配布プリント等で建築環境に関するスライド・文書作成を復習する。		
8	大泉	課題2「ポートフォリオ」(1)情報の収集と整理	今回の講義内容(ポートフォリオのコンテンツ作成)に関する予習を行う。配布プリント等でポートフォリオに関する情報の収集と整理を復習する。		
9	大泉	課題2「ポートフォリオ」(2)コンテンツ作成	今回の講義内容(ポートフォリオのスライド・文書作成)に関する予習を行う。配布プリント等でポートフォリオに関するコンテンツ作成を復習する。		
10	大泉	課題2「ポートフォリオ」(3)スライド・文書作成	これまでの学習内容をまとめて予習し次回講義の自由テーマに備える。配布プリント等でポートフォリオに関するスライドや文書作成を復習する。		
11	大泉	課題3「自由テーマ」(1)企画、情報の収集と整理	今回の講義内容(自由テーマに関するコンテンツ作成)の予習を行う。配布プリント等で自由テーマの企画及び情報収集と整理方法について復習する。		
12	大泉	課題3「自由テーマ」(2)コンテンツ作成	今回の講義内容(自由テーマのスライド・文書作成)に関する予習を行う。配布プリント等で自由テーマのコンテンツ作成について復習する。		
13	大泉	課題3「自由テーマ」(3)スライド・文書作成	今回の成果発表に備えて自由テーマの内容を予習する。配布プリント等で自由テーマのスライド・文書作成について復習する。		
14	川村、大泉	課題3の提出及び成果発表会	これまでの学習内容をまとめて予習する。提出課題及び成果発表会の内容を復習する。		
教科書	適宜資料を配布する。				
参考書	授業の中で指示・紹介する				
備考	各自、USBメモリスティックを持参すること。 質問または問合せ先：川村広則				

科目名	環境数理基礎 B			担当者	○一條 佑介・熊谷 陽介
科目ナンバリング	1100232054				常勤・非常勤
D P	1,2			教員研究室	1313
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
建築環境技術に関わる数理的基礎要素について学ぶとともに、非言語数理についてデータサイエンスの基礎も含む演習課題を多くとり入れた実践的授業によって学ぶ。 専門科目を学ぶ上で必要となる数学的要素を建築的なワードを用いながら効率的に学ぶ。 また、簡易な平板測量や数理実験を踏まえたアクティブラーニングにも取り組む。 建築設計に出現する様々なスケール感について理解すること。単位の組み立てから、建築構造力学や建築環境工学に出現する物理現象を理解する基礎を身につけること。		毎回の授業における演習課題については解答を提出させ、次回授業において解説を行う。Google クラスルームや TBGU ポータルサイトの課題管理を活用して、課題の提出・フィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
環境技術に関わる数理的基礎知識について、今後学ぶ「基礎セミナー」「卒研セミナー」「卒業研修」等に役立つ実践的な数理技術として修得する。		遅刻は2回で欠席1回として扱う。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
授業内演習(40%)、達成度確認テスト(20%)、定期試験(40%)等の結果を総合評価する。		「環境数理基礎A」とともに、環境技術に関わる数理的基礎を実践技術として修得することができ、建築環境分野に必要な数理を理解することができる。			
【実務家教員担当科目】					
該当					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一條 佑介・熊谷 陽介	オリエンテーション、環境数理基礎確認テスト	シラバスを読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		
2	熊谷 陽介	基礎数理1: 展開・因数分解	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
3	熊谷 陽介	基礎数理2: 平方根	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
4	熊谷 陽介	基礎数理3: 方程式	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
5	熊谷 陽介	基礎数理4: 平面図形・空間図形	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
6	熊谷 陽介	基礎数理5: 三角比	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
7	熊谷 陽介	基礎数理6: 場合の数・確率	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
8	熊谷 陽介	基礎数理7: 1次関数・2次関数	予習: シラバスを熟読しておくこと。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
9	熊谷 陽介	基礎数理8: 集合・推論	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
10	熊谷 陽介	基礎数理9: 達成度確認テスト	予習: これまでの授業内容を確認して、確認テストに臨む。 復習: 達成度を各自確認する。		
11	一條 佑介	関数と回帰分析	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
12	一條 佑介	建築設計と図形	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
13	一條 佑介	三角比	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
14	一條 佑介	測量の基礎	予習: 予定される演習内容を確認してくる。 復習: 実施した演習内容を確認しておく。		
教科書	担当教員作成の独自の指導用資料を配布する。				
参考書	特に指定しない。指導の過程で紹介する。				
備考	問合せ先: 一條佑介				

科目名	建築 CG		担当者	○梅岡 恒治・富山 正幸 未定
科目ナンバリング	1100232055			常勤
D P	1,3		教員研究室	1315
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	2年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位 必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 建築を設計するためのツールである BIM ソフトを使いながら住宅設計を学び、ソフトを用いて集合住宅の設計をする方法を学ぶ授業。		【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業において課題の進捗状況と内容を確認し、指導を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。		
【学習の到達目標】 ・ BIM ソフトの仕組みを理解し、使えるようになる ・ 住宅設計の考え方を学ぶ ・ BIM ソフトを用いて、集合住宅の設計ができるようになる ・ プレゼンテーション方法を学ぶ		【履修上の注意・予習・復習について】 設計演習以外にレポート課題等を実施する。未提出者は欠席扱いとする。 授業計画を参考に、演習作業が遅れている場合は、授業時間外に作業を行い授業に臨む。 私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。		
【成績評価方法】 課題の提出が 20%、最終成果物の提出を 80% 程度とし、総合的に評価する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 設計の仕事を目指す者にとって必要となる、自分の建築提案を具現化しクライアントに伝達するための基礎的な能力を、身に付けることができる。		
		【実務家教員担当科目】 建築設計事務所において公共建築等の設計・監理業務経験のある教員が、独立住宅・集合住宅の設計・プレゼン手法について演習を中心に講義する。		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	梅岡・富山	ソフトインストール／設計・CG レクチャー／住宅リサーチ課題出題	ソフト導入・住宅事例の調査	1時間
2	梅岡・富山	BIM レクチャー／住宅モデリング①	住宅事例の調査	1時間
3	梅岡・富山	住宅モデリング②／住宅リサーチ発表	住宅改善案の検討	1時間
4	梅岡・富山	住宅モデリング③／改善提案発表／集合住宅リサーチ課題出題	集合住宅事例の調査	1時間
5	梅岡・富山	敷地見学／集合住宅の概要説明／リサーチ発表	ゾーニング・ボリューム検討	1時間
6	梅岡・富山	ゾーニング・ボリューム検討／コンセプトデザインレクチャー	コンセプト検討	1時間
7	梅岡・富山	空間コンセプトデザイン①	コンセプト検討	1時間
8	梅岡・富山	空間コンセプトデザイン②／中間発表／建築計画、構造・設備計画レクチャー	立面プラン・断面プランの検討提案	1時間
9	梅岡・富山	空間設計①	設計図作成	1時間
10	梅岡・富山	空間設計②	設計図作成	1時間
11	梅岡・富山	空間設計③	設計図作成	1時間
12	梅岡・富山	レイアウトレクチャー／プレゼンボードエスキス	プレゼン作成	1時間
13	梅岡・富山	プレゼンボードエスキス	プレゼン作成	1時間
14	梅岡・富山	プレゼンテーション		1時間
教科書	特になし。			
参考書	適宜、紹介する。			
備考	適宜、教材資料を配布する。			

科目名	建築材料構造演習			担当者	○山本 和恵・曹 森
科目ナンバリング	1100232056				常勤
D P	1,3			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>具体的な建築材料および建築構造に関する力学的特性や設計合理性を実験・演習を通じて、経験的に理解する。物理現象を観察することで構造力学や建築構法など他の講義での知識を総合化するものでもある。</p>		<p>・講義中の質疑 ・レポートの添削</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>建築の主要材料であるコンクリート、鉄、木材の力学的特性を体感的に理解する。また、建築材料、建築構造への関心、安全性への意識を深める</p>		<p>演習科目は、参加して体験することが目的である。班ごとの共同作業となるため出席を大前提とし、遅刻も早退も基本的に認めない。1クラス一斉講義と2班に分かれて実験を行う週があるのでスケジュールをよく把握しておくこと。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>毎回の授業終了時に提出するレポートにより評価する。レポートの質のみならず、グループワークへ積極的な貢献についても評価に含む。最終レポートは日常的な提出物より比重を大きくして採点する(最終提出物は提出必須)。なお欠席した分の追加実験は行わない。</p>		<p>建築材料に直接触れることができ、その性状を体感するとともに、建築一般構造との関係を体験的に学ぶ演習授業となっている。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		曹森：ハウスメーカーの研究所での実務経験を持つ			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山本・曹	講義ガイダンス/班分け/各種構造計画の特徴/折板構造実験	演習レポートの制作等		4時間
2	曹・山本	コンクリート供試体の打設、コンクリートとは	演習レポートの制作等		4時間
3	曹・山本	コンクリートの1週圧縮強度試験	演習レポートの制作等		4時間
4	曹・山本	コンクリートの性能、梁試験体型枠の作成	演習レポートの制作等		4時間
5	曹・山本	コンクリートの4週圧縮強度試験	演習レポートの制作等		4時間
6	曹・山本	コンクリートの性能、梁試験体型枠の破壊実験	演習レポートの制作等		4時間
7	曹・山本	梁試験体の載荷試験、梁の変形と配筋	演習レポートの制作等		4時間
8	曹・山本	木材試験体の圧縮試験	演習レポートの制作等		4時間
9	曹・山本	鉄筋引張強度試験、鋼と鉄筋	演習レポートの制作等		4時間
10	山本・曹	断面形状と圧縮強度の実験	演習レポートの制作等		4時間
11	山本・曹	断面形状と圧縮強度の計算	演習レポートの制作等		4時間
12	山本・曹	トラス模型の作成と構造物の力のつり合い	演習レポートの制作等		4時間
13	山本・曹	トラス模型の載荷試験	演習レポートの制作等		4時間
14	山本・曹	総括	演習レポートの制作等		4時間
教科書	講義時に資料を配布する				
参考書	今村仁美・田中美都「やさしい建築一般構造」学芸出版社				
備考	質問または問合せ先：山本				

科目名	建築環境学入門Ⅰ			担当者	○八十川 淳・二科 妃里 富山 正幸
科目ナンバリング	1100322057				常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単 位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

【授業内容】

我々の暮らしは、本来、自然環境との関わりの上に成り立っている。しかし現代の生活や空間は自然環境を過度に犠牲にしたうえで成立していることが多い。持続可能な社会に求められる良好な「人為」としての技術や生活空間、建築とは何か。自然環境の中に存在する我々人間の暮らしはどうあるべきか、建築や街を考えるうえで重要なことは何か。講義を通じて考察していく。

【学習の到達目標】

グループワークにより、他者の考えを理解し自らの考えを深める。異なる視点の大切さを理解する。そして自己学習の方法定着を目標とする。自然環境と自己との関わりを観察するきっかけを成す。

【成績評価方法】

毎回授業での提出課題等(予習・復習)をもとに総合的に評価する。など

【課題等のフィードバック方法】

宿題レポートなどをグループで確認しながら授業を実施する。

【履修上の注意・予習・復習について】

グループ学習スタイルを実践する。
(予習)次回授業範囲のテキスト箇所を通読理解し、疑問点や重要箇所を把握する。
(予習レポートあるいは宿題)授業において、適宜レポート等を作成する。

【受講して得られる効果・メリット、その他】

環境についての問題を自分の問題として考える。専門科目の背景や学習の目標を得る。

【実務家教員担当科目】

八十川淳、高松市の戸建て木造軸組み伝統構法の住宅設計において、室内環境並びに地域景観まちづくりの視点に配慮したデザインを模索し、実践した。

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川・二科・富山	科目オリエンテーション～ニッポン景観論1	予習 教科書の構成確認 復習 講義内容に関するレポート作成理解	4時間
2	八十川・二科・富山	ニッポン景観論2	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
3	八十川・二科・富山	ニッポン景観論3	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
4	八十川・二科・富山	ニッポン景観論4	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
5	八十川・二科・富山	ニッポン景観論5	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
6	八十川・二科・富山	ニッポン景観論6	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
7	八十川・二科・富山	ニッポン景観論7	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
8	八十川・二科・富山	ニッポン景観論8	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
9	八十川・二科・富山	ニッポン景観論9	予習 8回までの講義内容に関するまとめレポート作成	4時間
10	八十川・二科・富山	里山資本主義1	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
11	八十川・二科・富山	里山資本主義2	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
12	八十川・二科・富山	里山資本主義3	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
13	八十川・二科・富山	里山資本主義4	予習 教科書の該当範囲を通読してレポート作成 復習 講義内容に関するレポート作成	4時間
14	八十川・二科・富山	里山資本主義5	予習 10回からの講義内容に関するまとめレポート作成	4時間
教科書	ニッポン景観論(アレックス・カー) 里山資本主義(藻谷浩介)			
参考書	別途指示します。			
備考	質問や問い合わせは八十川教員室で受け付けます			

科目名	建築アメニティ論			担当者	○川村 広則・未定
科目ナンバリング	1100322059				常勤
D P	1,4			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>アメニティとは、建物・場所・気候・風土などの環境の質に対して感じる、快適さや好ましさをなどの総合的概念である。本講義では、アメニティ環境を人の感覚や生理的メカニズムから捉え、人と環境との関わりについて幅広い視点から考える。適時、ミニテストを実施し、基礎力の修得状況を確認する。</p> <p>【学習の到達目標】</p> <p>人の感覚及び生理的メカニズムに関する基礎的知見を取得するとともに、それらが人と環境との関わりにおいてどのような意味をもつかについて包括的な理解を得る。</p> <p>【成績評価方法】</p> <p>小テスト(10%)、毎回の演習レポート(20%)、定期試験(70%)等の結果を総合評価する。</p>			
		<p>【課題等のフィードバック方法】</p> <p>演習レポートの解説を次の授業で行う。 クラスルームを通じて提出状況等の連絡を行う。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>毎回の演習レポートを提出しない場合は欠席扱いとする。授業で行った内容を復習しておくこと。予め、次回授業の概要を予習し不明な点は調べておくこと。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>環境問題や建築計画に関わる課題に遭遇した際、人の特性を踏まえた幅広い観点から考察できるようになる。また、本学科の専門科目を学ぶための背景や目標のヒントを得る。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>該当なし</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村	人類の起源と進化	次回講義の「人の歴史と文化」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
2	川村	人の歴史と文化	次回講義「多様な適応性(環境適応能)」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
3	川村	多様な適応性(環境適応能)	次回講義「進化と適応」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
4	川村	進化と適応	次回講義「テクノアダプタビリティ」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
5	川村	テクノアダプタビリティ	次回講義「発育と身体形状」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
6	非常勤	発育と身体形状	次回講義「姿勢・動作の種類とその評価、作業能力と加齢」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
7	非常勤	姿勢・動作の種類とその評価、作業能力と加齢	次回講義「人の原点としての“ものづくり”」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
8	非常勤	人の原点としての“ものづくり”	次回講義「人の生活と衣・食・住」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
9	非常勤	人の生活と衣・食・住	次回講義「都市生活と高齢者問題」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
10	非常勤	都市生活と高齢者問題	次回講義「人がもつ多種の感覚とその意味(概論)」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
11	川村	人がもつ多種の感覚とその意味(概論)	次回講義「聴くメカニズム(耳と聴覚)」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
12	川村	聴くメカニズム(耳と聴覚)	次回講義「見るメカニズム(目と視覚)」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
13	川村	見るメカニズム(目と視覚)	次回講義「触覚と振動感覚」についてテキストを読み予習する。今回の授業内容を確認し演習問題を復習する。		
14	川村	触覚と振動感覚及び総合演習	試験に備えて、これまでの講義内容や各回の演習問題及び総合演習を復習する。		
教科書	授業時に別途指示する				
参考書	特に指定しない				
備考	当授業を受講することにより、日本生理人類学会認定の「アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)」の資格取得が容易となる。 質問または問合せ先: 川村広則				

科目名	建築環境技術論			担当者	○野崎 淳夫・齋藤 善則
科目ナンバリング	1100322060				常勤・非常勤
D P	2,4			教員研究室	1311
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>現在の環境問題は、大きな地球環境から小さな室内環境までを包含し、それゆえにその解決手段は多岐にわたり、かつ高度の専門的技術が用いられている。</p> <p>現代の技術者は、これらの技術における範囲、特徴、到達度などについて、理解を深めておくことが肝要であり、またそのような技術者でなければ、社会問題化している環境問題を的確に解決するには至らない。本講義では、環境技術の種類と特徴を体系的に学び、これらの技術と職域との関係が理解できるようにする。</p>		<p>最終講義で全体に対するフィードバックを行う。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
環境技術の内容と職域との関係についての理解と認識を深める。		<p>講義開始から20分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻2回で欠席1回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
定期試験：50 [%]、レポート：30 [%]、小テスト：20 [%]		環境技術の内容と職域との関係が習得できる。			
【実務家教員担当科目】		建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、環境改善技術の先端研究や手法について実例を取入れながら講義する。			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	野崎 淳夫	環境問題とは	教科書、配布資料で「環境問題の概要」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
2	野崎 淳夫	環境技術の役割と求められる環境技術	教科書、配布資料で「環境技術の役割と求められる環境技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
3	野崎 淳夫	科学技術の役割と環境技術の体系	教科書、配布資料で「科学技術の役割と環境技術の体系」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
4	野崎 淳夫	環境技術の内容と職域 (1)	教科書、配布資料で「環境技術の内容と職域」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
5	野崎 淳夫	環境技術の内容と職域 (2)	教科書、配布資料で「環境技術の内容と職域」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
6	野崎 淳夫	環境技術の内容と職域 (3)	教科書、配布資料で「環境技術の内容と職域」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
7	野崎 淳夫	環境技術の内容と職域 (4)	教科書、配布資料で「環境技術の内容と職域」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
8	野崎 淳夫	環境技術の内容と職域 (5)	教科書、配布資料で「環境技術の内容と職域」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
9	齋藤 善則	建築関連技術 (1)	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
10	齋藤 善則	建築関連技術 (2)	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
11	齋藤 善則	環境制御技術 (1)	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
12	齋藤 善則	環境制御技術 (2)	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
13	齋藤 善則	設備関連技術 (1)	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
14	野崎 淳夫 齋藤 善則	設備関連技術 (2)、まとめ	教科書、配布資料で「建築関連技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
教科書	室内環境学概論(室内環境学会編)、東京電機大学出版局			
参考書	講義時に提示する。			
備考	問い合わせ先：野崎淳夫 (1311 教員研究室)			

科目名	環境技術と建設産業			担当者	○富山 正幸・未定
科目ナンバリング	1100322061				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1315教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>建設産業が誘発する二酸化炭素排出量は、建設資材生産や運輸等の生産誘発効果まで含めると国内総排出量の約10%を占め、さらに建物が完成した後の運用段階まで含めると40%強を占めるとされており、建設企業の環境問題への対応が問われる時代となっている。本講義では、各種建設産業が地球環境問題に対し、技術的な側面からどのように取り組んでいるのかを、国の施策を交えて解説していく。</p>		<p>演習・レポート課題や小テストを実施し、評価・解説を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>建設産業における各分野の環境技術を理解し、各企業の環境問題に対する取り組み姿勢を知る。また、これらの環境技術の有効性を、客観的に論ずる素養を身に付ける。現代の状況を鑑みて、授業内容も臨機応変に対応し、現在進行形で変化していることを学ぶ。</p>		<p>遅刻は、原則出席として認めない。演習やレポート課題を実施するが、未提出者は欠席扱いとする。最後に課題提出及び発表を義務付けるが、未発表者は不合格となる。私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>課題提出状況20%・課題発表20%・定期試験成績60%を目安として、総合的に評価する。授業の状況によって割合は変更する。</p>		<p>将来の進路を模索する中で、環境問題をテーマに、社会的に意義のある仕事とはどのようなものがあるのか、知見を高めることができる。本学科専門科目を学ぶにあたって、その背景や目標等の指標となる技術的なヒントを得ることができる。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		<p>建築設計事務所や施工会社において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、環境に配慮した設計技術や関連する建築企業の技術を解説する。</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	富山 正幸	オリエンテーション：環境問題・国の施策〈環境問題と建築物の環境負荷低減：建築的な対策〉	環境問題と建築の関わり、具体的な建築関係の環境法令について	4時間
2	富山 正幸	品確法と住宅性能表示・省エネ法	建築関係の環境法令の内容について	4時間
3	富山 正幸	CASBEE 〈建築構造体の環境技術：建物を長持ちさせる〉	建築関係の環境法令の具体的な構造技術について	4時間
4	富山 正幸	高耐久・劣化軽減・高气密 〈建築仕上の環境技術：熱を逃がさない〉	建築関係の環境法令の具体的な仕様技術について	4時間
5	富山 正幸	劣化軽減・太陽光エネルギー	建築設備における自然エネルギーの活用について	4時間
6	富山 正幸	外断熱・トレードオフ規程	建築物の外装仕様における断熱技術について	4時間
7	富山 正幸	開口部の断熱性能・夏期日射侵入率	建築物の開口部仕様における断熱技術について	4時間
8	富山 正幸	内断熱	建築物の内装仕様における断熱技術について	4時間
9	富山 正幸	自然材	自然材を活用した内装仕様におけるアメニティ効果について	4時間
10	富山 正幸	省エネ設備・維持管理対策 〈建築屋外(エクステリア)の環境技術：自然を利用する〉	外構計画における環境負荷低減技術について	4時間
11	富山 正幸	敷地内温熱環境・地熱利用	建築設備における地熱利用について	4時間
12	富山 正幸	樹木・屋上緑化 〈建築設計の環境技術：環境対策〉	外構計画における環境負荷低減建築設計例の調査	4時間
13	富山 正幸	エコロジー建築・パッシブデザイン	建物内計画における環境負荷低減建築設計例の調査	4時間
14	富山 正幸	ライフサイクルCO2・環境ラベリング制度・技術者の環境倫理	建築物全体の総合的な環境負荷低減評価について	4時間
教科書	特になし。			
参考書	「自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法辞典」 彰国社 その他、適宜紹介する。			
備考	教材資料を適宜配布する。			

科目名	建設キャリア形成論			担当者	○須藤 論・赤井 仁志
科目ナンバリング	1100322062				常勤・非常勤
D P	3,4			教員研究室	1318
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>建築環境分野の職業に従事するに際し、必要となる目標の設定方法、各職域での役割分担、必要資格、職業倫理等について学び、キャリア形成について考究する。講義では、社会人基礎力確認のミニテストを行い、演習課題として企業研究活動も含みながら進める。また、非常勤講師の一部の授業は集中講義とし、学科主催の建築環境セミナーシリーズとして公開授業を行う。</p>		<p>レポート、課題については、次回講義において解説する。ユニバーサルパスポートの課題管理を活用して、課題の提出・フィードバックを行う。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>当該分野の職業人としての目標、役割分担、必要資格、職業倫理等について理解する。具体的な企業等の活動内容について理解する。</p>		<p>各自の将来の職業選択に重要な意味をもつ時期であることを自覚し、関連する分野の社会情勢を予習し講義に臨むこと。課題としての企業研究は、実際に行動することを求める。遅刻は2回で休み1回として扱う。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>授業内演習 40%、レポート課題 40%、小テスト 20% 等の結果を総合評価する。</p>		<p>卒業後の進路選択にあたって、必要な関連分野を理解することができる。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		<p>建設工事に長年勤務経験のある教員（非常勤）が、その経験を生かして建設業界の実態、技術開発の動向、キャリア形成に必要な資格等について講義する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	須藤 論	科目ガイダンス	予習：シラバスを熟読しておくこと。		4時間
2	須藤 論	演習 履歴書1 履歴の整理法	予習：各自の履歴を整理準備しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
3	須藤 論	演習 業界研究 興味関心分野から目標企業の具体化	予習：事前に各自の興味関心を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
4	赤井 仁志	講義 A-1 建設業の就職活動と業務	予習：事前に建設業の就職活動と業務関連資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
5	須藤 論	演習 自己分析 PREP法による自己表現法	予習：事前に各自の興味関心を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
6	須藤 論	講義 B-1 建設業界就職セミナー：企業研究 (ゲスト：就職アドバイザー講師)	予習：事前に講義関連資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
7	須藤 論	講義 B-2 建設業界就職セミナー：就職面接対策 (ゲスト：就職アドバイザー講師)	予習：事前に建設業界就職セミナーに関連する資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
8	赤井 仁志	講義 A-2 自己表現の方法	予習：事前に自己表現方法に関連する資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
9	須藤 論	講義 B-3 キャリアセミナー（ゲスト：卒業生講師）	予習：事前にセミナー資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
10	赤井 仁志	講義 A-3 自己分析講座（自分発見）	予習：事前に自己分析に関連する資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
11	須藤 論	演習 履歴書2 志望動機・希望職種・特記事項の整理	予習：履歴書1の課題内容を見直しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
12	須藤 論	演習 履歴書3 志望動機・希望職種・特記事項の完成	予習：履歴書2の課題内容を見直しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
13	須藤 論	講義 B-4 小論文の書き方	予習：事前に小論文の書き方に関連する資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
14	須藤 論	講義 B-5 職業感とエントリーシートの書き方	予習：エントリーシート関連資料を熟読し疑問点を整理しておく。 復習：課題を各自で作成し完成度を高める。		4時間
教科書	特に定めない。				
参考書	キャリアハンドブック（キャリアサポートセンター）、ほか授業中に適宜紹介する。				
備考	上記授業計画は、外部の企業調査活動などのスケジュールによって、変更することがある。 問合せ先：須藤論				

科目名	給排水設備			担当者	○八十川 淳・武内 賢二
科目ナンバリング	1100342063				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 給排水設備は水などに関する建築設備を指す。給排水設備において、近年、省エネや節水の技術などが進展しており、従来の供給処理技術的な理解に加えて、環境の観点からの理解が求められている。当科目では2年次後期の「給排水設備Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、給排水設備設計における給水系統、排水系統、通気系統の計画に必要な基礎知識を学習するとともに、環境の観点からの応用技術を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回授業において、例題解説実施時に受講生の質疑を受ける。	
【学習の到達目標】 給排水設備の計画に必要な基礎知識を体得すること。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業内容が多岐にわたるので各分野終了時に復習が重要である。	
【成績評価方法】 提出課題の成果物をもとに総合的に評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 給排水設備の計画と設計法を理解することができる。実務経験のある教員による具体的な事例を通じて学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て住宅の水環境システムを設計。	

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川	科目オリエンテーション～給排水設備の技術的理解と環境的理解	復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
2	八十川	給水系統1(給水設備の要点とタンク容量)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
3	八十川	給水系統2(揚水ポンプの算定と水圧)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
4	八十川	給水系統3(管径の決定)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
5	八十川	排水系統1(排水負荷と器具)	予習：2～4回の講義内容を確認する 復習：講義内容について確認する	4時間
6	八十川	排水系統2(管径の決定)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
7	八十川	通気系統3(通気設備の要点)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
8	八十川	給湯設備(ビル建築と住宅)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
9	武内	自然エネルギー利用技術1(自然エネルギーと設備)	予習：6～8回の講義内容を確認する 復習：講義内容について確認する	4時間
10	武内	自然エネルギー利用技術2(給湯と自然エネルギー)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
11	武内	自然エネルギー利用技術3(これからの地域熱供給)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
12	武内	自然エネルギー利用技術4(雨水と再生水の利用)	予習：講義範囲についてテキストを確認する 復習：講義で実施した例題について確認する	4時間
13	武内	技術視察調査(バイオマスエネルギー利用)	予習：9～12回の講義内容を確認する 復習：講義で見学した内容に基づいてレポートを作成する	4時間
14	武内	視察調査の報告会	予習：9～12回の講義内容、作成レポートを確認する 復習：講義で発表した内容を振り返る	4時間
教科書	給排水衛生設備の基礎 ナツメ社 山田信亮			
参考書	給排水衛生設備計画設計の実務の知識 OHM社 空気調和衛生工学会編 最高にわかりやすい建築設備 エクスナレッジ社 Green & Blue Unit's 著			
備考	質問や問い合わせは八十川教員室で受け付けます			

科目名	空気調和設備			担当者	○川村 広則・須藤 諭
科目ナンバリング	1100342064				常勤
D P	1,4			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
空気調和設備は、室内温熱環境と空気環境を調整するための建築設備である。近年の建築物の高層化、大空間化、複合化、省エネルギー対策等に伴い空気調和設備の役割は重要になっている。本講義は、2年次後期の「建築設備Ⅰ」で学内容を基礎とし、空気調和設備に求められる性能を理解することを目的として、空気調和設備計画、空気調和負荷計算法、熱源機器、各種空調方式、搬送設備などの基礎的内容と、省エネルギー対策における空気調和設備、各種建築設備との関連について学ぶ。		定期的に行う演習問題や小テストの解説を次の授業で行う。クラスルームで課題の提出状況等のフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
建物における室内温熱環境と空気環境の調整のための空気調和設備の計画法を学び、良好な室内環境と省エネルギーを考慮に入れた最適設計の考え方を理解する。		授業中の飲食及び携帯電話の使用は禁止する。演習問題を提出しない場合は欠席扱いとする。授業計画を参照して予習復習を行い理解を深めることが重要である。			
【成績評価方法】		【実務家教員担当科目】			
演習レポート(20%)、小テスト(10%)、定期試験(70%)の結果を総合的に判断して評価する。		該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村	ガイダンス【授業内容と進め方、スケジュールの確認、その他など】	「空気調和設備の概要」について教科書で確認して予習する。空気調和設備や省エネルギー設備の目的と役割を復習する。		4時間
2	須藤	空調・省エネルギー設備の概要	「空調設備の基本計画」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
3	須藤	空調設備の基本計画	「空調方式の種類と特徴その1」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
4	川村	空調方式の種類と特徴その1	「空調方式の種類と特徴その2」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
5	川村	空調方式の種類と特徴その2	「湿り空気線図と空調プロセスその1冷房の場合」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
6	川村	湿り空気線図と空調プロセスその1冷房の場合	「湿り空気線図と空調プロセスその2暖房の場合」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
7	川村	湿り空気線図と空調プロセスその2暖房の場合	「空気調和機の種類と特徴」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
8	川村	空気調和機の種類と特徴	「冷温熱源機器の種類と特徴」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
9	川村	冷温熱源機器の種類と特徴	「熱搬送機器の種類と特徴」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
10	川村	熱搬送機器の種類と特徴	「冷温水配管の計画・設計」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
11	川村	冷温水配管の計画・設計	「ダクト設備の計画・設計」及び「換気・排煙設備」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
12	川村	ダクト設備の計画・設計、換気・排煙設備	空調設備と省エネルギーその1省エネルギー対策と空調設備計画」について教科書の関連部分を読んで予習する。「配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
13	須藤	空調設備と省エネルギーその1省エネルギー対策と空調設備計画	「空調設備と省エネルギーその2省エネルギーシステムの応用」について教科書の関連部分を読んで予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
14	須藤	空調設備と省エネルギーその2省エネルギーシステムの応用と空調設備計画	今までの学習内容について疑問点などを整理して予習する。配布プリントや講義ノートで復習する。		4時間
教科書	図解 空調設備の基礎(オールカラー版) ナツメ社				
参考書	空気調和設備計画設計の実務の知識				
備考	問合せ先: 川村広則				

科目名	都市環境設備			担当者	○須藤 論・赤井 仁志
科目ナンバリング	1100342065				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1318
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>都市が居住の中心の場となった現代社会において、都市環境を維持することは重要な課題である。環境形成において環境系技術者に求められるのは、身の周りの施設・設備等の安全・安心を確保する具体的な技術や、環境資産の評価・保全方策の構想であり、都市環境の構成と公共性に関する基礎知識がその基盤となる。</p> <p>本科目では、こうした分野の具体的な課題に着目し、環境形成と都市基盤システムとしての上下水道、電力供給、ガス供給、熱供給等の都市設備と建築設備のかかわりについて俯瞰的に講義する。</p>			
【学習の到達目標】		<p>都市環境の現状と課題、都市基盤施設としての都市設備と建築設備の関係を理解する。</p>			
【成績評価方法】		<p>1) 毎回課題レポート30%、2) 小テスト20% 3) 定期試験50%、を総合的に判断して評価する。</p>			
【課題等のフィードバック方法】		<p>・小テストの解説を次回授業において行い、知識の定着を図る。 ・毎回のレポートには質問欄を設け、解答する。</p>			
【履修上の注意・予習・復習について】		<p>広く、社会の環境問題に興味を持っていることが重要であり、予習復習は教科書および講義内容について繰り返し考察して欲しい。遅刻2回で欠席1回分として扱う。</p>			
【受講して得られる効果・メリット、その他】		<p>建築環境に影響を与える都市環境のあり方と、環境形成における都市設備や建築設備の役割を学ぶことができる。</p>			
【実務家教員担当科目】		<p>該当。建設工事会社に長年勤務経験のある教員(非常勤)が、建設工事において配慮しなければならない都市環境への影響について、実務の経験を生かして講義する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	須藤 論	オリエンテーション／都市型社会の到来	予習：シラバスを熟読しておくこと。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
2	須藤 論	都市の拡大と環境整備・都市への人口集中と環境問題	予習：都市の拡大と環境整備キーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
3	赤井 仁志	都市環境とエネルギー 1: エネルギー供給/省エネルギー	予習：都市のエネルギー供給に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
4	赤井 仁志	都市環境とエネルギー 2: 再生可能エネルギーの利用	予習：再生可能エネルギーの利用に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
5	赤井 仁志	都市環境とエネルギー 3: 上水道システム/節水・節湯	予習：上水道システムに関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
6	須藤 論	地球温暖化/土地利用とヒートアイランド	予習：地球温暖化とヒートアイランドに関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
7	須藤 論	都市の大気環境、大気環境基準、発生源と防止対策	予習：都市の大気環境・大気汚染に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
8	須藤 論	都市基盤施設/インフラストラクチャー	予習：都市基盤施設に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
9	須藤 論	都市の地下利用/大深度地下	予習：都市の地下利用に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
10	須藤 論	エネルギー供給 電力・ガス供給	予習：電力・ガス供給に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
11	須藤 論	エネルギー供給 新エネルギー・地域冷暖房	予習：地域冷暖房に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
12	須藤 論	下水道システム/廃棄物処理システム	予習：下水道・廃棄物処理システムに関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
13	須藤 論	都市災害と都市環境設備	予習：都市災害に関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義内容をレポートとしてまとめる。		4時間
14	須藤 論	まちづくりと環境保全	予習：まちづくりに関連するキーワードを教科書等で調べておく。 復習：講義全体を復習し、期末試験に臨むこと。		4時間
教科書	尾島俊雄・須藤 論・八十川淳他:「都市環境学」、森北出版				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
備考	なし				

科目名	健康インテリアⅡ			担当者	野崎 淳夫
科目ナンバリング	1100342066				常勤
D P	1,3			教員研究室	1311
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本学科では建築環境工学で扱う室内環境の構成要素を有機的に組み合わせ、建物やインテリア環境の設計手法に結びつけられる能力の育成を目的としている。</p> <p>また、建築物は人の活動を末永く支援する機能を獲得する必要がある、この点についての考え方を学ぶことも目標となる。そこで、本講義では健康インテリアⅠでの履修事項に立脚して、如何にしてインテリア環境を健康・快適、福祉的に導くかをより具体的に明らかにしてゆく。</p>		<p>最終講義で全体に対するフィードバックを行う。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>シックハウスではない「健康住宅」の作り方を最新の室内環境学における知見を取り入れ、分かりやすく学び、健康・快適な室内環境や居住空間の設計法、さらには自然環境との共生を図る建築物における基礎的設計手法とその関連知識の習得を目標とする。</p>		<p>講義開始から20分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻2回で欠席1回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>定期試験：50 [%]、レポート：30 [%]、小テスト：20 [%]</p>		<p>この科目では、健康環境コーディネーターをするための基礎的要素を習得する。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		<p>建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、健康に配慮したインテリアについて実例を交えながら講義する。</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	野崎 淳夫	健康な住まいと空気：健康住宅/シックハウス/換気	教科書、配布資料で「健康な住まいと空気」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
2	野崎 淳夫	健康な住まいと熱：風通し/日当たり/断熱	教科書、配布資料で「健康な住まいと熱」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
3	野崎 淳夫	健康な住まいと光：視環境/日照/照明	教科書、配布資料で「健康な住まいと光」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
4	野崎 淳夫	健康な住まいと水：家庭の中の水/水資源/給排水	教科書、配布資料で「健康な住まいと水」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
5	野崎 淳夫	健康な住まいと音・振動：室内の音環境/騒音/遮音	教科書、配布資料で「健康な住まいと音」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
6	野崎 淳夫	安全・安心の住宅(1)：暮らしの安全/行為空間	教科書、配布資料で「安全・安心の住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
7	野崎 淳夫	安全・安心の住宅(2)：バリアフリーデザイン/ユニバーサルデザイン	教科書、配布資料で「安全・安心の住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
8	野崎 淳夫	安全・安心の住宅(3)：コレクションハウス/グループホーム	教科書、配布資料で「安全・安心の住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
9	野崎 淳夫	安全・安心のまちづくり：地域ケア/コンパクトシティー	教科書、配布資料で「安全・安心のまちづくり」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
10	野崎 淳夫	環境共生住宅(1)：省エネルギー/ソーラー/高耐久/性能表示	教科書、配布資料で「環境共生住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
11	野崎 淳夫	環境共生住宅(2)：エコ/ビオトープ/屋上緑化/雨水利用	教科書、配布資料で「環境共生住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
12	野崎 淳夫	環境共生住宅(3)：廃棄物/リサイクル/CO2排出	教科書、配布資料で「環境共生住宅」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
13	野崎 淳夫	地域の自然再生：エコロジカルランドスケープ/外構計画	教科書、配布資料で「地域の自然再生」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
14	野崎 淳夫	まとめ/筆記試験	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する。	4時間
教科書	「健康に住まう家づくり」空気調和・衛生工学会 編 オーム社			
参考書	適宜資料を配布する。			
備考	問い合わせ先：野崎淳夫(1311教員研究室)			

科目名	健康インテリア設計			担当者	一條 佑介
科目ナンバリング	1100342067				常勤
D P	1,3			教員研究室	1313
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>建築物において、健康的な室内環境の創造は重要なテーマであるが、現代の建築設計者にはこの概念を実現する設計思想と理論が必要となっている。</p> <p>ここでは、健康的なインテリア設計に必要な事項を学ぶ。例えば、温熱環境、空気環境、光環境などが如何にして構成されるかを学び、これらの環境要素やその目標値を達成する建築設計プロセスについて、設計課題を通して修得する。具体的には室内温度、換気量、空気質、日照・日射、色彩などについて、具体的な設計目標を定め、これらを設計プラン、建築工法、使用建材、環境設備機器等の検討により実現するプロセスと設計図面等の形で表現する手法を学ぶ。</p>		<p>最終講義で全体に対するフィードバックを行う。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>問題に対し、建築的な解決方法を用いて論理的にまとめ上げる能力と、その内容を他者に情報伝達するためのプレゼンテーション手法を習得する。</p>		<p>授業時間のみで成果物が完成しない場合は、自習により補う必要がある。原則として、受講者は建築環境工学やインテリア関連科目の単位修得者を対象とする。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>成果物：50 [%]、レポート：30 [%]、小テスト：20 [%]</p>		<p>建築物において温熱環境、空気環境、および光環境が如何に構成されるかを学び、これらの環境要素の目標を達成する建築設計プロセスについて設計課題を通して修得することができる。</p>			
【実務家教員担当科目】		該当なし。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一條 佑介	人体の熱収支と温熱環境構成要素	教科書、配布資料で「人体の熱収支と温熱環境構成要素」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
2	一條 佑介	温熱環境指標と快適環境条件	教科書、配布資料で「温熱環境指標と快適環境条件」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
3	一條 佑介	日照・日射 (1) 太陽位置、日影、日射受熱	教科書、配布資料で「日照・日射」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
4	一條 佑介	日照・日射 (2) 建築における日射の利用と遮蔽のデザイン	教科書、配布資料で「日照・日射」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
5	一條 佑介	壁体温度と熱移動	教科書、配布資料で「壁体温度と熱移動」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
6	一條 佑介	建築伝熱と室内熱環境形成プロセス (1) 窓、開口部	教科書、配布資料で「建築伝熱と室内熱環境形成プロセス」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
7	一條 佑介	建築伝熱と室内熱環境形成プロセス (2) 断熱、熱容量	教科書、配布資料で「建築伝熱と室内熱環境形成プロセス」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
8	一條 佑介	室温と熱負荷	教科書、配布資料で「室温と熱負荷」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
9	一條 佑介	湿気と結露	教科書、配布資料で「湿気と結露」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
10	一條 佑介	空気環境計画の目的、目標、基本計画	教科書、配布資料で「空気環境計画の目的、目標、基本計画」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
11	一條 佑介	室内空気汚染 (シックハウスの対策)	教科書、配布資料で「室内空気汚染」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
12	一條 佑介	換気と通風 (1) 換気力学	教科書、配布資料で「換気と通風」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
13	一條 佑介	換気と通風 (2) 換気量の算定、通風のデザイン	教科書、配布資料で「換気と通風」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
14	一條 佑介	総括	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		4時間
教科書	健康に暮らす住まい9つのキーワード—設計ガイドマップ (健康維持増進住宅研究委員会 他)				
参考書	特に指定しない。				
備考	問い合わせ先：一條佑介 (1313 教員研究室)				

科目名	建築構造設計			担当者	○山本 和恵・佐藤秀一郎
科目ナンバリング	1100342068				常勤・非常勤
D P	1,3			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>建築物はこれに加わるさまざまな荷重・外力に対して安全であるとともに、その機能が損なわれないようにしなければならない。この講義では、鉄筋コンクリート構造および鉄骨構造のそれぞれについて、荷重・外力に対する挙動の特性とこれに基づく部材設計法を学ぶ。</p> <p>【学習の到達目標】</p> <p>鉄筋コンクリート構造および鉄骨構造の荷重・外力に対する力学的挙動に関する基礎知識を理解したうえで、それぞれの部材設計法に関する専門知識を身につける。</p> <p>【成績評価方法】</p> <p>毎回のレポート課題を提出し、その都度提出物を評価する。成績はその累計とする。</p>		<p>・講義内での質疑</p> <p>・演習問題の解説</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>演習課題を解くことが多い。授業内容を理解すれば課題の回答は容易であるから、予習・復習を行い、授業の進行から遅れないよう努める。課題の提出は几帳面に行う。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>生活空間を構成する建築要素の物理的感覚が身につく。安全についての理解が深まり、これを数値で評価することができるようになる。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>佐藤秀一郎：建築構造設計事務所所長</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山本 和恵	講義のガイダンス／建築耐震設計について	教科書の通読		4時間
2	山本 和恵	建築構造設計家の巨匠 1	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
3	山本 和恵	建築構造設計家の巨匠 1	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
4	山本 和恵	建築構造の崩壊のメカニズムと実例	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
5	佐藤秀一郎	構造計画と構造設計	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
6	佐藤秀一郎	鉄筋コンクリート構造(材料の力学的性質)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
7	佐藤秀一郎	家の巨匠 2 鉄筋コンクリート構造(材料の許容応力度)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
8	佐藤秀一郎	鉄筋コンクリート構造(曲げモーメントに対する部材の挙動)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
9	佐藤秀一郎	鉄筋コンクリート構造(曲げモーメントに対する部材設計法)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
10	佐藤秀一郎	鉄筋コンクリート構造(せん断力に対する部材設計法)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
11	佐藤秀一郎	鉄骨構造(鋼材の種類、形状、強度)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
12	佐藤秀一郎	鉄骨構造(部材の接合)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
13	佐藤秀一郎	鉄骨構造(引張り材の設計)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
14	佐藤秀一郎	鉄骨構造(圧縮材の設計)	前回の講義内容について教科書とプリント資料の復習		4時間
教科書	「最新建築構造設計入門」和田章他 実教出版				
参考書	適宜紹介する				
備考	問い合わせ等の受付は山本まで				

科目名	建築デザイン I			担当者	○梅岡 恒治・富山 正幸 未定
科目ナンバリング	1100342069				常勤
D P	2,3			教員研究室	1315
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>公共建築の基礎的な設計力とプレゼンテーション手法を習得する。具体的な設計課題については、時代毎の社会的なニーズを把握した上で、どのような公共的建築空間が求められているのかを探りながら、新たな都市機能を提案できるものを設定する。さらに、環境問題を踏まえながら、21世紀に相応しい環境共生建築のあり方を探り、その設計技術を学ぶ授業でもある。</p> <p>【学習の到達目標】 社会的な問題に対し、建築的な解決方法を論理的にまとめ上げる能力と、その提案を他者に情報伝達するためのプレゼンテーション手法を習得する。成果品として、プレゼンテーションパネルを制作する。</p> <p>【成績評価方法】 課題提出：20% 最終成果物の提出内容：80%</p>		<p>毎回、授業において課題の進捗状況と内容を確認し、指導を行う。講義終了後、質問を受け付け回答する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 設計演習以外にレポート課題等を実施する。未提出者は欠席扱いとする。授業計画を参考に、演習作業が遅れている場合は、授業時間外に作業を行い授業に臨む。私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来建築設計の仕事を目指す者にとって、就職活動等に備えるために、自分のポートフォリオに加えることができるようなクオリティの高い作品制作を実施する機会が与えられる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 建築設計事務所において公共建築等の設計・監理業務経験のある教員が、公共建築等の設計・プレゼン手法について演習を中心に講義する。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	梅岡・富山	課題出題：課題説明／課題の建築計画解説／課題のテーマ選択等	どのような設計テーマを設定するのか検討	1時間	
2	梅岡・富山	課題調査研究：情報収集／施設分析／機能分析／敷地分析／敷地調査等	施設建設敷地の調査及び施設機能の検討提案	1時間	
3	梅岡・富山	建築計画：設計趣旨／建築機能図／企画書	施設建設敷地の調査及び施設機能の検討提案	1時間	
4	梅岡・富山	プランニングエスキース(1)：建築設計／構造設計／設備設計	施設機能を反映した空間構成の検討提案	1時間	
5	梅岡・富山	プランニングエスキース(2)：建築設計／構造設計／設備設計	施設機能を反映した具体的な平面・構造計画の検討提案	1時間	
6	梅岡・富山	プランニングエスキース(3)：環境負荷低減設計(CASBEE)	環境負荷低減に配慮した施設計画の検討提案	1時間	
7	梅岡・富山	プランニングエスキース(4)：外構設計／造園設計	施設の意匠・インテリア・エクステリアの検討提案	1時間	
8	梅岡・富山	プランニングエスキース(5)：各設計まとめ	最終的な総合デザインの検討提案	1時間	
9	梅岡・富山	プレゼンテーション図面・CG作成(1)：敷地／平面	パソコンによる作品制作	1時間	
10	梅岡・富山	プレゼンテーション図面・CG作成(2)：断面／立面	制作作業遅延者は時間外個別作業を実施	1時間	
11	梅岡・富山	プレゼンテーション図面・CG作成(3)：インテリア／家具等	制作作業遅延者は時間外個別作業を実施	1時間	
12	梅岡・富山	プレゼンテーション図面・CG作成(4)：外構／造園／ランドスケープ	制作作業遅延者は時間外個別作業を実施	1時間	
13	梅岡・富山	プレゼンテーションパネル作成：レイアウト／プレゼン補足／印刷	講評会のためのプレゼン資料の準備	1時間	
14	梅岡・富山	作品発表講評会	自分の設計作品を発表し、指導教員からの指摘事項をまとめ作品を修正	1時間	
教科書	特になし。適宜、教材資料を配布する。				
参考書	「コンパクト版建築設計資料集成」丸善				
備考	問い合わせ先：常勤教員 未定				

科目名	電気設備			担当者	○須藤 諭・佐々木 亨
科目ナンバリング	1100342070				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1318
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】			【課題等のフィードバック方法】		
建築物の内外において行われる人間活動を、快適かつ安全に行うことができるように環境を整えるのが各種の建築設備の役割である。それらの建築設備が効果的に機能を果たすために必要なほとんどのエネルギーを供給したり、維持、運用を制御したりする役割を担うのが電気設備である。その意味において電気設備は建築設備の重要な基幹システムである。また、震災・火災をはじめとする災害から建物を守るための防災設備はますます重要性を増している。 本講義では、建築電気設備、防災設備の基礎となる理論と電気設備システム的全貌を理解するための基本事項を学ぶ。			毎回の課題については、次回講義において解説する。ユニバーサルパスポートの課題管理を活用して、課題の提出・フィードバックを行う。		
【学習の到達目標】			【履修上の注意・予習・復習について】		
電気設備・防災設備の用語やその仕組みについて全体像を理解すること。			建築設備全般との関係をよく理解することが重要であり、予習復習は教科書および講義内容について繰り返し考察して欲しい。		
【成績評価方法】			【受講して得られる効果・メリット、その他】		
1) 講義内課題・予復習レポート30%、2) 小テスト20% 3) 定期試験の結果60%を総合的に判断して評価する。			電気設備の専門家を目指す者のみならず、関連する設備設計者・設備施工管理者として必要な知識を得ることができる。		
【実務家教員担当科目】			【実務家教員担当科目】		
			建築・設備設計事務所を主宰する実務家教員(非常勤)が、電気設備に関する実際の業務経験を活かした、設計実務・施工管理に関する講義を行う。		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	須藤 諭	電気設備の役割と種類	予習：事前に教科書第1章「電気設備の役割と種類」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
2	須藤 諭	電源設備1 (供給、引込み、契約と料金、電気方式)	予習：事前に教科書第2章「電源設備1節～8節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
3	須藤 諭	電源設備2 (受変電設備、分電盤、防災電源、自家用発電機、各種電源設備)	予習：事前に教科書第2章「電源設備9節～17節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
4	須藤 諭	幹線・分岐回路設備1 (幹線、配線、ケーブル選定法、分岐回路)	予習：事前に教科書第3章「幹線・分岐回路設備1節～5節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
5	須藤 諭	幹線・分岐回路2 (区画貫通、地震対策、電線保護、配管・配線工事)	予習：事前に教科書第3章「幹線・分岐回路設備6節～10節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
6	須藤 諭	動力設備1 (動力設備、動力盤、動力配線、電動機)	予習：事前に教科書第4章「動力設備1節～4節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
7	須藤 諭	動力設備2 (動力制御、監視設備、エレベータ、エスカレータ)	予習：事前に教科書第4章「動力設備5節～8節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
8	須藤 諭	電灯設備1 (電灯設備、コンセント、照明、照度ランプ種類)	予習：事前に教科書第5章「電灯設備1節～6節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
9	須藤 諭	電灯設備2 (照明方式、照度計算、電灯分電盤、外灯設備)	予習：事前に教科書第5章「電灯設備7節～11節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
10	佐々木 亨	情報通信設備1 (電話設備、交換機、IP電話機、構内電話設備)	予習：事前に教科書を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
11	佐々木 亨	情報通信設備2 (放送設備、共同視聴設備、車路管制、LAN)	予習：事前に教科書を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
12	佐々木 亨	防災・防犯設備1 (消火設備、警報設備、避難設備、非常照明)	予習：事前に教科書第7章「防災・防犯設備 1節～2節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
13	佐々木 亨	防災・防犯設備2 (防犯設備、ビル管理システム、雷保護設備、防災センター)	予習：事前に教科書第7章「防災・防犯設備 3節～9節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
14	佐々木 亨	電気設備に関する仕事・講義のまとめ (発注者、設計、工事管理、維持管理)	予習：事前に教科書第8章「電気設備の仕事 1節～8節」を熟読しておくこと。 復習：講義内容に関する課題を次回までにレポートとして完成させる。		4時間
教科書	本田嘉弘・前田英二・与曾井孝雄(著)「図解 電気設備の基礎」ナツメ社				
参考書	石福明編・須藤諭他著「大学課程 建築設備(第5版)」オーム社 その他適宜、授業中に紹介する。				
備考	問合せ先：須藤諭				

科目名	設備製図		担当者	〇八十川 淳・須藤 諭
科目ナンバリング	1100342071			常勤
D P	1,3		教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	3年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位
単位	選択 2単位			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
建築設備技術者であるためには、設備図面を正しく理解し、また正しく描けることが要求される。すなわち、企画段階や設計段階において、作図は一定の規約に基づいて行い、正しく伝達される必要がある。積算段階や施工段階などにおいては、読図によって設計者の意図を正しく理解することが不可欠となる。そこで、建築設備(給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備)の設計図書の作成方法について、専門別にトレースを主体とした作図実習を通して、図示記号等の表記法、配管図、系統図、配線図、設備図等の各種図面の製図方法を学習する。		各課題の提出時において、図面表記の理解などについて確認を行う。		
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】		
(1) 建築設備図面を読む(図面を見て記号や系統図などの意味が理解できる)能力を養う。 (2) 1/100程度 of 設備設計図書が作成できる基礎知識及び作成技法を修得する。		図面の持ち帰りは認めない。授業時間終了時に図面を提出し、次回授業で製図作業を継続すること。正規提出期限に提出できなかった場合には、持ち帰ることを許可し、次週授業時間に製図室にて提出する。(評価は1ランクダウンとなる)		
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】		
給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備についてそれぞれ3課題、合計9課題の評価等を総合的に判断する。全ての課題を提出しなければ、成績評価を行わない。		設備システム全体の理解が深まり、建築図面との関係性が理解できる。		
【実務家教員担当科目】		八十川淳、高松市の戸建て住宅の空調設備、水環境システムを設計。		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川 淳 須藤 諭	ガイダンス(全体説明)	復習 授業内容の確認	1時間
2	八十川 淳 須藤 諭	第1課題: 給排水衛生設備の設計図書に使用する図示記号表の作成	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
3	八十川 淳 須藤 諭	第2課題: 給排水衛生設備の配管系統図の作成	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
4	八十川 淳 須藤 諭	第3課題: 給排水衛生設備の配管平面図の作成(1)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
5	八十川 淳 須藤 諭	第3課題: 給排水衛生設備の配管平面図の作成(2)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
6	八十川 淳 須藤 諭	第4課題: 空気調和設備の図示記号表の作成	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
7	八十川 淳 須藤 諭	第5課題: 空気調和設備のダクト・配管系統図の作成(1)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
8	八十川 淳 須藤 諭	第5課題: 空気調和設備のダクト・配管系統図の作成(2)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
9	八十川 淳 須藤 諭	第6課題: 空気調和設備のダクト・配管平面図の作成(1)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
10	八十川 淳 須藤 諭	第6課題: 空気調和設備のダクト・配管平面図の作成(2)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
11	八十川 淳 須藤 諭	第7課題: 電気設備の図示記号表の作成	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
12	八十川 淳 須藤 諭	第8課題: 事務所ビルの電気設備幹線系統図の作成	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
13	八十川 淳 須藤 諭	第9課題: 事務所ビルの電気設備平面図の作成(1)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
14	八十川 淳 須藤 諭	第9課題: 事務所ビルの電気設備平面図の作成(2)	予習 該当範囲についての参考書の確認 復習 授業課題の確認	1時間
教科書	教員側で作成した教本を配布する。			
参考書	建築設備Ⅰと空気調和設備、および、建築設備Ⅱと給排水設備Ⅰ、電気設備で使用した教科書を参考書とします。			
備考	特になし。			

科目名	環境設備演習			担当者	○川村 広則・須藤 論 八十川 淳
科目ナンバリング	1100342072				常勤
D P	1,4			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>本演習科目は、建築設備系科目の講義内容について、体験的に学習する実験・演習科目である。各種の課題を通して、本分野に関する学術・技術的理解が深まるものである。設定されるテーマは、熱源設備・受変電設備の調査及び建物の断熱・蓄熱に関する基礎実験、給排水衛生設備システム調査及び大便器の洗浄特性の実験演習、室内音環境評価に関する基礎演習及び教室内の設備機器騒音に関する実測演習等である。将来建築設備に関連する分野のエンジニアになろうとする学生は、是非履修しておくべき科目である。</p> <p>【学習の到達目標】 各種設備システムの調査や実験演習を基にしたレポート作成を通して、建築設備を体験的に理解すること。</p> <p>【成績評価方法】 授業に取り組む姿勢20%、レポート・課題など成果を80%として評価する。</p>		<p>各演習についてはレポート等として提出させ、添削を行い、修正すべき点を指摘する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 演習テーマごとに行った内容を整理しておくこと。全ての実験演習、見学演習に参加し、レポートを提出すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備の基礎知識を実験演習により確認することが出来る。</p> <p>【実務家教員担当科目】 該当なし</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村、須藤、八十川	ガイダンス、授業の進め方に関する説明	説明された演習内容を復習する。シラバスや配布プリント等で演習概要を予習する。		1時間
2	川村、須藤、八十川	演習準備・グループの編成	配布プリント等で演習内容を復習する。次回演習「室内音環境評価に関する基礎演習Ⅰ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
3	川村	室内音環境評価に関する基礎演習Ⅰ	配布プリント等で演習内容を復習する。次回演習「室内音環境評価に関する基礎演習Ⅱ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
4	川村	室内音環境評価に関する基礎演習Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。次回演習「教室内の設備機器騒音に関する実測演習Ⅰ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
5	川村	教室内の設備機器騒音に関する実測演習Ⅰ	今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。次回演習の関連キーワードなどを調べて予習する。配布プリント等で演習内容を復習する。		1時間
6	川村	教室内の設備機器騒音に関する実測演習Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。次回演習「給排水衛生設備システム調査Ⅰ」今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。		1時間
7	八十川	給排水衛生設備システム調査Ⅰ	今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。次回演習「給排水衛生設備システム調査Ⅱ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
8	八十川	給排水衛生設備システム調査Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。次回演習「大便器の洗浄特性の実験Ⅰ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
9	八十川	大便器の洗浄特性の実験Ⅰ	今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。次回演習「大便器の洗浄特性の実験Ⅱ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
10	八十川	大便器の洗浄特性の実験Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。次回演習「熱源設備・受変電設備の調査」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
11	須藤	熱源設備・受変電設備の調査Ⅰ	今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。次回演習「熱源設備・受変電設備の調査Ⅱ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
12	須藤	熱源設備・受変電設備の調査Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。次回演習「建物の断熱・蓄熱に関する基礎実験Ⅰ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
13	須藤	建物の断熱・蓄熱に関する基礎実験Ⅰ	今回行った演習内容を配布プリント等で確認して復習する。次回演習「建物の断熱・蓄熱に関する基礎実験Ⅱ」について、関連キーワードなどを調べて予習する。		1時間
14	須藤	建物の断熱・蓄熱に関する基礎実験Ⅱ	提出した演習レポートの内容を確認する。必要があれば追加・訂正して再度提出する。これまで行った全ての演習について、関連キーワードなどを整理して復習する。		1時間
教科書	各テーマごとに指導書を配布する				
参考書	随時指示する				
備考	問合せ先：川村広則、八十川淳、須藤論				

科目名	健康リフォーム演習			担当者	○二科 妃里・野崎 淳夫 村上 佳穂
科目ナンバリング	1100342073				常勤・非常勤
D P	1,3			教員研究室	1317 教員研究室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
住宅においてはライフスタイルに応じた適切なリフォームが求められ、このような行為を実践することにより、環境配慮の永続使用ができる建築物が実現する。 本講義では、住宅を健康・快適な室内環境に再構築する手法を履修するが、インテリア、家具、設備などの要件を絡めながら時代が求めるリフォーム設計技術について、演習を通して学ぶものである。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
リフォームの基礎知識と基本的な設計力と建築プレゼン力を養うことを、学習の目標とする。		講義に対する姿勢を重要視する。 使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
演習授業への出席状況と、提出された「作品やレポート」の内容等を総合的に評価する。作品・レポート：80[%]。毎回の小テスト：20[%]		住宅改善の意義とその具体的手法が習得できる。			
		【実務家教員担当科目】			
		建築設計事務所において設計・監理、施工管理業務経験のある教員が、健康に配慮したリフォームについて実例を交えながら講義する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	二科 妃里	オリエンテーション：住宅・住生活の変遷	教科書、参考書、配布資料で「住宅・住生活の変遷」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
2	二科、野崎、村上	リフォーム計画の基礎：リフォームの定義・計画手法	教科書、参考書、配布資料で「リフォーム計画の基礎」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
3	二科、野崎、村上	マンションリフォーム(1)：関連法規・平面計画 居室・水廻り	教科書、参考書、配布資料で「関連法規・平面計画 居室・水廻り」に関する部分を読んで作成手順を予習する。各作図方法を復習する。		1時間
4	二科、野崎、村上	マンションリフォーム(2)：インテリア計画 居室	教科書、参考書、配布資料で「インテリア計画 居室」に関する部分を読んで作成手順を予習する。各作図方法を復習する。		1時間
5	二科、野崎、村上	マンションリフォーム(3)：プレゼンボード制作 平面・断面・展開	教科書、参考書、配布資料で「プレゼンボード制作 平面・断面・展開」に関する部分を読んで作成手順を予習する。デザインやコンセプトをあらためて確認し復習する。		1時間
6	二科、野崎、村上	マンションリフォーム(4)：プレゼンボード制作 インテリア・設備	教科書、参考書、配布資料で「プレゼンボード制作 平面・断面・展開」に関する部分を読んで作成手順を予習する。復習はデザインやコンセプトでの指摘を踏まえて次週に向けての作業を行う。		1時間
7	二科、野崎、村上	マンションリフォーム(5)：プレゼンボード制作 レイアウト・出力	教科書、参考書、配布資料で「プレゼンボード制作 平面・断面・展開」に関する部分を読んで作成手順を予習する。復習はデザインやコンセプトでの指摘を踏まえて次週に向けての作業を行う。		1時間
8	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(1)：関連法規・住宅性能	教科書、参考書、配布資料で「関連法規・住宅性能」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
9	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(2)：安全構造 地震・火災	教科書、参考書、配布資料で「安全構造 地震・火災」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
10	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(3)：快適環境 シックハウス・換気	教科書、参考書、配布資料で「快適環境 シックハウス・換気」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
11	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(4)：快適環境 省エネルギー・明るさ・音・その他	教科書、参考書、配布資料で「快適環境 省エネルギー・明るさ・音」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
12	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(5)：平面計画 バリアフリー	教科書、参考書、配布資料で「平面計画 バリアフリー」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
13	二科、野崎、村上	戸建住宅リフォーム(6)：インテリア・設備計画	教科書、参考書、配布資料で「インテリア・設備計画」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
14	二科、野崎、村上	総合演習	「リフォーム」に関するデザインの基本を予習し、成果物の不確実な部分を復習する。		1時間
教科書	実践につながるインテリアデザインの基本、橋口新一郎 編著、学芸出版社				
参考書	「住宅リフォーム計画」沖田富美子 他 著 学芸出版社 刊 「インテリアの計画と設計」小原二郎・加藤力・安藤正雄編 彰国社 刊 「高齢化対応リフォーム」(財)住宅リフォーム・紛争処理センター 刊				
備考	問い合わせ先：二科研究室 (1317 教員研究室)				

科目名	建築デザインⅡ			担当者	○山本 和恵・渋谷 達郎
科目ナンバリング	1100342074				常勤・非常勤
D P	2,3			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 建築設計・製図に関わる一連の科目を総合化する設計課題に取り組む総仕上げの科目である。設計コンセプトの立案にあたっては、地域の社会情勢や環境保全、文化継承など、現代的課題を考察することも重要となる。			【課題等のフィードバック方法】 エスキスはその都度、学生1人対教員1人で対話しながら作品を修正していく過程である。設計はオリジナル性を求められるため、その過程では幾度となく個別指導が行う。最終的には講評会を行い、全員が1人1人発表し、質疑応答により議論を重ねる。		
【学習の到達目標】 多数の条件をまとめあげる構想力、製図スキルを身につけるとともに、条件設定の背景となる法規や地域都市の基本事項を体系的知識として身につける。			【履修上の注意・予習・復習について】 授業時間だけで成果物の作成が間に合わない場合は、自習により進行に合わせていくことが求められる。原則として健康インテリア設計、建築デザインⅠを履修していることが望ましい。		
【成績評価方法】 成果物と発表の内容により評価する。成果物が未提出の場合は単位そのものを付与しない。第一課題は8/14、第二課題は6/14で配点を合算して最終成績とする。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 多種多様な課題の一つのものにまとめあげる総合力が身につく。またその過程を通して、断片的な専門知識を体系化して体得することができる。		
			【実務家教員担当科目】 渋谷達郎：建築設計事務所所長		

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	渋谷 達郎	講義のガイダンス/課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】課題出題：条件整理とプログラミング(建築計画)	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
2	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プログラミングとプランニング(計画から設へ)	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
3	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プランニングエスキース・スタディ模型	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
4	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プランニング・製図(平面・断面)	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
5	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プランニング・製図(配置・立面図)	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
6	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プレゼンテーション図面・模型作成	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
7	渋谷 達郎	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～プレゼンテーション図面・模型作成	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
8	渋谷 達郎・山本	課題1【地方都市に建つエコロジカルな複合福祉施設】～講評会	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
9	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所～設計条件の整理と設計手順	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
10	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所】～エスキス1	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
11	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所】～エスキス2	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
12	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所】～製図	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
13	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所】～製図	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
14	山本 和恵	課題2【都市防火地域の高層事務所】～講評会	講義時間内におさまらない調査、思考、作業	1時間
教科書	「コンパクト版建築設計資料集」丸善			
参考書	適宜紹介する			
備考	問い合わせ等の受付は山本まで			

科目名	設備施工			担当者	○八十川 淳・川村 広則 佐竹 正行
科目ナンバリング	1100342075				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		<p>設備施工は建築施工との関係が深く、建築施工における設備施工の位置づけや概略に関する統合的な理解が必要である。また設備施工管理に際して、関連法規の理解も不可欠である。そこで前半は設備施工管理と関連法規の諸要素について、また後半は設備施工に必要な設備計画の関連知識を学習する。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 毎回授業において、例題についての解説実施時に受講生の質疑を受ける。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 毎回授業の復習として演習問題を課す</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 設備施工管理技術者として必要な知識を得ることができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て住宅の空調設備や水環境システムを設計、施工管理。</p>			
【学習の到達目標】		建築設備の施工に必要な基礎知識、ならびに施工関連法規に関する知識の習得。			
【成績評価方法】		定期試験成績 60%、提出課題等の評価 40% を目安として総合的に評価する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	八十川	科目オリエンテーション～建築工事と設備施工	復習	配布プリントの通読確認	4時間
2	佐竹	設備機器1(共通機材・空調換気機材1)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
3	佐竹	設備機器2(共通機材・空調換気機材2)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
4	佐竹	施工管理1(請負契約約款、施工計画、工程管理)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
5	佐竹	施工管理2(品質管理、安全管理)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
6	佐竹	施工管理3(設備施工)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
7	佐竹	関連法規1(労働安全衛生法、労働基準法)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
8	佐竹	関連法規2(建築基準法、建設業法)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
9	佐竹	関連法規3(消防法、その他関連法規)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
10	八十川	給排水衛生設備1(上下水道、給水設備、給湯設備、排水通気設備、浄化槽)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
11	八十川	給排水衛生設備2(消火設備、ガス設備)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
12	川村	電気・空調設備1(電気設備、空気調和方式)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
13	川村	電気・空調設備2(暖房設備、配管・ダクト)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
14	川村	電気・空調設備3(換気設備、排煙設備)	予習 復習	プリントの該当範囲の確認 当日実施演習問題の確認	4時間
教科書	指定しない。 配布プリントによって授業を行う。				
参考書	指定しない。				
備考	質問や問い合わせは八十川教員室で受け付けます				

科目名	設備設計演習			担当者	○川村 広則・須藤 諭 赤井 仁志・佐々木 亨 山崎 悟
科目ナンバリング	1100342076				常勤・非常勤
D P	1,3			教員研究室	1210
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 建築環境システムにおいて設備工学的に重要な要素である建築設備システムの基本的な考え方を学習する。現代社会では省エネルギー、地球環境問題を考慮せずには建築設備システムの計画が進まなくなっている。 本講義・演習では、建築設備の設計や施工に携わる者にとって最も基礎となる設備システムの理論と演習について具体的な建物を想定して、設備計画及び設計プロセスを実践的に行なう。				【課題等のフィードバック方法】 提出課題や図面等は成果物として提出させ、添削や修正点などを指摘して指導する。	
【学習の到達目標】 設備計画の考え方や設計プロセスを理解し、これを設計図書に表現していく方法を習得する。環境設備の基本原理に関わる物理的諸現象を体験的に理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 設計演習が主となるため、予習復習を行い理解を深めることが重要である。	
【成績評価方法】 授業に取り組む姿勢 20%、レポート提出 30%、設計演習課題(図面) 50%の結果を総合的に判断して評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 設計演習を通して設備システムの計画・設計方法を理解する。設備設計一級建築士の資格を有し、建築設備設計及び設備施工管理業務の経験も豊富な教員が、最新の設備設計手法の解説を交えて講義を進める。	
				【実務家教員担当科目】 給排水設備分野に関しては、建築設備設計・設備施工管理実務および研究業務に精通した教員が講義を行う。空気調和設備分野に関しては、設備設計一級建築士の資格を有し、建築設備設計及び設備施工管理業務の経験も豊富な教員が、最新の設備設計手法の解説を交えて講義を進める。電気設備分野に関しては建築設備設計事務所の代表者として、実際の建築設備設計・設備施工管理実務を行っている教員が、電気設備及び防災設備の仕組みについて具体的事例を題材として講義を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川村、赤井	ガイダンス、授業の進め方、給湯システムの設計と演習	次回演習「給水系の設計と演習(1)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや提出レポート等で復習する。		1時間
2	川村、赤井	給水系の設計と演習(1)	次回演習「給水系の設計と演習(2)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
3	川村、赤井	給水系の設計と演習(2)	次回演習「排水系の設計と演習(1)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや提出レポート等で復習する。		1時間
4	川村、赤井	排水系の設計と演習(1)	次回演習「排水系の設計と演習(2)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
5	川村、赤井	排水系の設計と演習(2)(製図課題:給排水設備系統図及び平面図)	次回演習「空気調和設備システムの設計製図演習」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや作成した図面や提出レポート等で復習する。		1時間
6	川村、山崎	空気調和設備システムの設計製図演習	次回演習「冷暖房熱負荷計算の理論と演習」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
7	川村、山崎	冷暖房熱負荷計算の理論と演習	次回演習「熱源設備・熱搬送及び空気搬送設備の設計と演習」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや提出レポート等で復習する。		1時間
8	川村、山崎	熱源設備・熱搬送及び空気搬送設備の設計と演習	次回演習「空気調和設備システムの種類と選定」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
9	川村、山崎	空気調和設備システムの種類と選定	次回演習「空気調和設備設計の総合化と設計図書の作成」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや提出レポート等で復習する。		1時間
10	川村、山崎	空気調和設備設計の総合化と設計図書の完成(製図課題:空調設備系統図及び平面図)	次回演習「照明・コンセント設備の設計と演習(1)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや作成した図面等で復習する。		1時間
11	須藤、佐々木	照明・コンセント設備の設計と演習:照明計算、コンセント負荷、機器選定、配置検討	次回演習「受変電・幹線設備の設計と演習(1)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
12	須藤、佐々木	受変電・幹線設備の設計と演習(1)電灯負荷、動力負荷	次回演習「受変電・幹線設備の設計と演習(2)」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリントや提出レポート等で復習する。		1時間
13	須藤、佐々木	受変電・幹線設備の設計と演習(2)制御盤、配線設計	次回演習「電気設備設計の総合化と設計図書の作成」について、関連キーワードなどを調べて予習する。今回行った演習を配布プリント等で復習する。		1時間
14	須藤、佐々木	設計の総合化と設計図書の完成(製図課題:電気設備系統図及び平面図)	これまでの演習内容の疑問点や関連キーワードをまとめて予習する。配布されたプリントや作成した設計図面及び提出レポート等の内容を復習する。		1時間
教科書	適宜、必要な資料を配布する。				
参考書	給排水衛生設備計画設計の実務の知識 空気調和設備計画設計の実務の知識				
備考	質問または問合せ先:川村広則				

科目名	居住福祉計画			担当者	○山本 和恵・田川 浩司 豊嶋 純一
科目ナンバリング	1100342077			常勤・非常勤	
D P	2,4			教員研究室	1213
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない

<p>【授業内容】 少子高齢化や人口減少などにより人口構成の変化にともない、家族のあり方も大きく近年変容する中で、のすまいやまちづくりのあり方を先駆的な取り組みを取り上げながら考えていく。特に本講義では、医療・福祉・居住の視点からあるべき空間創造について掘り下げる。</p> <p>【学習の到達目標】 医療・福祉・居住施設の計画の考え方と基本手法を習得する。また家族のあり方や、人々の価値観が大きく揺らいでいる中で、根本からすまいやまちのあり方を考え直す機会とするものである。</p> <p>【成績評価方法】 山本担当分については基本的に毎回、小テストか小論文を課す。開講回数2/3以上の提出物を持って、期末試験の受験資格とする。山本担当分の範囲の試験を行い、その素点を基本として成績をつける。なお優秀な日常的な提出物がある場合は加点对象とする。 田川・豊嶋担当分については毎回の小テスト1/4、最終レポート3/4の比率で評価する。山本分9/14、後半5/14の比重で最終成績とする。</p>	<p>【課題等のフィードバック方法】 ・毎週行う確認テストとその解説 ・講義内での質疑</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、講義の初めに行う小テストに備えて復習をして講義に臨むこと。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療・福祉・居住施設の今日的課題を知ることができる。また、将来に向けてどのような建築をつくるのが持続可能な社会の建設に貢献するのか、福祉的視点から考える機会となる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 田川浩司・豊嶋純一：まちづくりNPOの主催者ならびに構成員 フィールドワークも交えてまちづくりの現場の話題を扱える</p>
---	---

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	山本 和恵	講義の進め方・ガイダンス/ 居住福祉の今日的課題	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
2	山本 和恵	集住1—集合住宅の変遷	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
3	山本 和恵	集住2—まちに開く集合住宅	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
4	山本 和恵	集住3—コレクティブハウス	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
5	山本 和恵	福祉施設1—特別養護老人ホーム・ケアハウス等	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
6	山本 和恵	福祉施設2—在宅介護を支える地域施設	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
7	山本 和恵	病院建築1—病棟計画	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
8	山本 和恵	病院建築2—近年の医療事情と病院建築	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
9	山本 和恵	中間考査	前半8回分の講義内容の復習	4時間
10	田川 浩司	都市計画・まちづくり1	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
11	田川 浩司	都市計画・まちづくり2	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
12	田川 浩司	都市計画・まちづくり3	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
13	豊嶋 純一	まちづくりフィールドワーク1	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
14	豊嶋 純一	まちづくりフィールドワーク2	関連文献を読み、各自の見解が述べられるように準備	4時間
教科書	特に指定しない			
参考書	「図説やさしい建築計画」深水浩 学芸出版			
備考	問い合わせ等の受付は山本まで			

科目名	地域環境とまちづくり			担当者	○八十川 淳・萱沼 俊一
科目ナンバリング	1100342078				常勤・非常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>地域の問題と向き合う実学的テーマに取り組み、関連講義の聴講に加え、グループ実習により、問題の発見と解決方法提案を行う。実社会では、震災復興や今後の防災、エネルギー問題、少子高齢化など様々な問題がある。近年の温暖化に伴う激甚災害の多発により、暮らしや市街地成立そのものを見直す必要性が高まっている。本講義では特に都市と水、暮らしのかかわりについて分析的にとらえて、具体的な市街地空間を観察しながら考察をすすめる。</p> <p>【学習の到達目標】 観察力と考察力を養い、目前の問題と向き合う技術者・計画者の基本的精神を身につける。また、対象空間を客観的に計測・把握する記録分析法の基礎を身につける。</p> <p>【成績評価方法】 毎回授業の提出課題等の評価をもとに総合的に評価する。</p>		<p>提出レポートについて、適宜、ディスカッションを用意している。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 身の回りの地域環境に対する関心を深めておくこと。また、フィールドワークの授業回は、時間割の一部変更・延長して実施することがある。臨時に当該科目の前後時間に余裕が必要になることがある。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 ひろい観点から身の回りの環境を見つめなおし、具体的に問題を発見し解決提案する技術力が身につく。</p> <p>【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て木造軸組み伝統構法の住宅設計において、地域景観まちづくりの視点に配慮したデザインを模索し、実践した。</p>			

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川	まちづくり基礎論	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。	4時間
2	八十川	地域社会の情勢と問題、その背景	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。	4時間
3	萱沼	地域環境の観察：自然と地形、市街の関係の観察	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。	4時間
4	萱沼	空間実測術：空間幾何学と計算法	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。	4時間
5	萱沼	空間実測術：レベルとトランシット1	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
6	萱沼	空間実測術：レベルとトランシット2	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
7	萱沼	環境測量術：レベルとトランシット3	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
8	萱沼	環境測量術：レベルとトランシット4	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
9	萱沼	環境測量術：計測・記録・縮尺・製図	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
10	萱沼	環境測量術：調査結果の図化	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
11	八十川	地域空間分析術：地理情報の現在および時系列的変遷の把握1	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
12	八十川	地域空間分析術：地理情報の現在および時系列的変遷の把握2	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
13	八十川	地域空間分析術：地理情報の現在および時系列的変遷の把握3	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。 レポートを作成する。	4時間
14	八十川	まとめ～グループ実習報告会	復習：配布資料を確認し、講義内容を確認する。	4時間
教科書	適宜資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する			
備考	質問や問い合わせは八十川教員室で受け付けます			

科目名	基礎セミナー IV			担当者	○野崎 淳夫・一條 佑介 二科 紀里
科目ナンバリング	1100432082				常勤
D P	2,3			教員研究室	1311, 1313, 1317
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
基礎力を養成し、これまで履修した環境構成要素の中で、特に重要なものについて受講生自らが考え、実験的検証を加えながら理解を深める。 具体的には、理数的基礎力を養成する座学の他に、実験作業を通して得られる心理、ならびに物理環境情報を取り出し、それぞれの特徴を把握・整理し、かつ両者の関係についての考察を行う能力を身に付ける。これにより、建築環境工学で重要な実験技術が習得でき、実験値から環境の特徴把握を行う能力を習得する。 また、演習報告書の作成・提出により、メールの送受信方法、Webでの情報の検索・収集法を身につける。		最終講義で全体に対するフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 基礎力を養成する基礎演習10回については、それ以外の演習とは異なる曜日に実施する予定である。また、講義開始から20分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとなり、遅刻2回で欠席1回とする。なお、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 建築環境学を学ぶ学生としての理数的基礎力が身に付き、また健康的な環境の特性を実験的に評価する手法が習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。			
【学習の到達目標】		【成績評価方法】			
建築環境学を学ぶ学生としての理数的基礎力を身に付けることや、室内環境に関わるテーマについて実験・演習を行い、実験手法と測定データの処理法を習得する。		提出された「演習報告書」の内容やプレゼンテーション等を総合的に評価する。基礎演習30%、実験・調査課題レポート40%、発表・プレゼンテーション30%			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	野崎 淳夫、 一條 佑介、 二科 紀里	授業ガイダンス（演習授業の進め方、各演習テーマの概要、他）+ 教員面談1	教科書、配布資料で「室内環境の概要」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。		1時間
2	二科 紀里	換気制御技術（その1）	教科書、配布資料で「換気制御技術」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
3	二科 紀里	換気制御技術（その2）	教科書、配布資料で「換気制御技術」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
4	二科 紀里	換気制御技術（その3）	教科書、配布資料で「換気制御技術」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
5	野崎 淳夫、 一條 佑介、 二科 紀里	教員面談2、レポート作成	教科書、配布資料で「室内空気環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
6	一條 佑介	室内空気環境（その1）	教科書、配布資料で「室内空気環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
7	一條 佑介	室内空気環境（その2）	教科書、配布資料で「室内空気環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
8	一條 佑介	室内空気環境（その3）	教科書、配布資料で「室内空気環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
9	野崎 淳夫、 一條 佑介、 二科 紀里	教員面談3、レポート作成	教科書、配布資料で「室内空気環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
10	野崎 淳夫	室内温熱環境（その1）	教科書、配布資料で「室内温熱環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
11	野崎 淳夫	室内温熱環境（その2）	教科書、配布資料で「室内温熱環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
12	野崎 淳夫	室内温熱環境（その3）	教科書、配布資料で「室内温熱環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
13	野崎 淳夫、 一條 佑介、 二科 紀里	教員面談4、レポート作成	教科書、配布資料で「室内温熱環境」に関する部分を読んで予習する。演習内容を整理しながら復習する。		1時間
14	野崎 淳夫、 一條 佑介、 二科 紀里	「演習報告書」最終受付（個別指導を含む）	教科書、配布資料、各自のノートなどで予習する。学習内容を整理し、指導された内容を復習する。		1時間
教科書	特に指定しない				
参考書	「健康・快適な住宅づくりのチェックポイント」（日本建築学会編）オーム社 および、授業ごとにプリント等を提供する。				
備考	問い合わせ先：野崎淳夫、一條佑介、二科紀里（1311、1313、1317 教員研究室）				

科目名	特定実習 D		担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸	
科目ナンバリング	1100432086			常勤・非常勤	
D P	4		教員研究室	1212	
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1・2・3・4年次	
授業形式	実習	授業時間	45時間	単位	選択 1単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域や社会と連携して、「住」環境または「人間」環境にかかわる体験的な学習を通じて、実践的な知識と技能を自発的・自主的に修得する。 例えば ・関連資格の取得活動（ならびにその成果） ・論文募集や設計競技などへの応募（ならびにその成果） ・インターンシップ活動（オープンデスクを含む） などをはじめ、社会との接点をもった自発的・自主的な活動が期待される。 学科で随時開講される資格講座などを当授業として位置づけることもある。		【課題等のフィードバック方法】 関連資格の取得活動に関しては、模擬問題の添削や指導を行う。報告書の提出を求める場合は優れたまとめ方等について指導する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ガイダンスや単位申請のための説明会などで、単位申請に必要な情報を逃さず収集すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 課外活動の活性化とその評価 【実務家教員担当科目】 該当なし			
【学習の到達目標】 多様な活動を自主的に展開することによって、専門的経験及び技能を高める。		【成績評価方法】 学科内に設置される「特定実習委員会」が単位認定の審査にあたる。受講生は、 Semester 終盤に資格取得状況、成果品などの実習活動の成果報告を委員会に対して行う。			
授 業 計 画					
本学科で開設している資格取得講座を受講して資格を取得する、本学科の専門に関連する資格を独自に取得する自主的資格取得、本学科の専門に関連の深い企業等でのインターンシップ、学外でのボランティア活動、論文等の研究発表や設計作品での受賞など学生の自主的・能動的活動に対して、本人の申請に基づいて、学科での審議の結果、単位を認めるものである。学科としては自主的な学生の取組みを奨励しているので、ぜひ多くの学生がこれを活用して、資格取得や色々な活動を体験してもらいたい。本科目に関する授業計画及び単位認定等については、前学期及び後学期の学科ガイダンスおよび掲示により周知する。					
教科書	プログラムにより指定する場合がある				
参考書	プログラムにより指定する場合がある				
備考	本科目は学科内教務グループが担当窓口となる。				

科目名	キャリアデザイン			担当者	林 修三
科目ナンバリング	1100432087				非常勤
D P	4			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>たった4年間しかない大学時代は「自分の人生をどのように使っていくか?」を決める(決まってしまう)重要な時間であることを認識する必要がある。また、そうでなければ卒業後の進路(=職業)を自分が望むものにしていくことはかなわない。</p> <p>本講では、現在の社会状況や職業で求められる要素、働くことの意味などを総合的に解説・検討する。</p>		<p>講義内容に関する質問は、講義中であれば随時、講義終了直後はその場で、google classroom上で寄せられたものは原則として次回講義時の冒頭で、それぞれ回答する。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>卒業後の進路について、社会・経済の状況と絡めた自分なりの考えを持ち、これからの学生生活をどのように送っていくべきかについて各人が意識できるようにすること。</p>		<p>●各回次毎に設定する google classroom 上での出席確認フォームから必要事項を送信することをもって、当該回次の出席扱いとする。 (ただ単にその場に「いただけ」あるいは「いたという主張だけ」では出席したとは認めない) ●その他講義運営に関する詳細は第1回講義時に解説するので、履修を希望・検討する人は必ず出席すること。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>第7回講義終了後に課すミニレポート(満点10点)と、期末試験(満点90点)の合計100点満点で評価する。 ただし、欠席が5回以上となった場合、単位取得資格を失う場合がある。</p>		<p>将来への目標設定を通し、今後の大学生活を意味あるものに変えていけること。</p>			
【実務家教員担当科目】					
		<p>キャリアコンサルタントおよび採用コンサルタントを事業として行っている教員が、その経験と知見を活かして、就職活動を見据えたキャリア設計の考え方や技術の指導を行う。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	林 修三	オリエンテーション～キャリアとは何か?～	【予習】 あらかじめシラバスを読み込み、当講座の概要を把握しておく。 【復習】 (現時点で)自身の思い描く将来像を、言葉にして記録しておく。	4時間	
2	林 修三	学生時代に身につけるべき大人思考	【予習】 「大人」と「子供」の違いについて、自分なりに考えをまとめておく。 【復習】 自身の過去を振り返り、大人であればどのような対応をすべきだったかを考える	4時間	
3	林 修三	働く姿を知る～実際の社会人の様子を映像教材で学習～	【予習】 興味のある職業一つについて、それが社会にどのように役立っているか調べる。 【復習】 どのような仕事であれば自分が楽しさを感じられる要素がありそうかを考える	4時間	
4	林 修三	雇用システム・環境の変化(1)～1970年代から1990年頃の特長～	【予習】 「終身雇用」「年功序列」の意味についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 この当時に「年功序列」等のシステムが有効だった理由を語れるようにする	4時間	
5	林 修三	雇用システム・環境の変化(2)～2000年頃の特長～	【予習】 「成果主義」「非正規雇用」の意味についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 この当時に「成果主義」等のシステムが有効だった理由を語れるようにする	4時間	
6	林 修三	雇用システム・環境の変化(3)～現代の特長～	【予習】 社会のデジタル化が進んだ場合、どのような世の中になるかを自分なりに考える。 【復習】 AIやRPAとの付き合い方について、自分なりに考える	4時間	
7	林 修三	キャリアプランニングを行うために必要な要素(特に「働くうえで重要視するもの」について)	【予習】 「個人主義」「多様性」の意味についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 google classroomにて提示される課題について、ミニレポートを提出する。	4時間	
8	林 修三	「働くうえで重要視するもの」の再検討	【予習】 前回講義で簡易的に行う価値観分析を、深いレベルまで実施しておく。 【復習】 今回講義の内容を踏まえ、再度価値観分析を行う	4時間	
9	林 修三	社会で求められる人物像	【予習】 「社会人基礎力」についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 様々な「○○力」「○○性」のうち、自分がこれから一番伸ばしていきたいと思うものを検討する	4時間	
10	林 修三	ノンバーバル表現の重要性	【予習】 「ノンバーバル表現」の意味についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 過去の経験上、他者に誤解を与えたノンバーバル表現について振り返る	4時間	
11	林 修三	論理的な話や思考のまとめかた	【予習】 「ロジックツリー」という概念についてあらかじめ調べてくる。 【復習】 任意のテーマで、ロジックツリーを実際に作成してみる	4時間	
12	林 修三	キャリアプランの検討(お金の視点から)	【予習】 現時点での自分の生活費支出状況を表にまとめて把握しておく。 【復習】 将来思い描く生活に必要な支出を計算し、そこから必要収入を割り出す	4時間	
13	林 修三	キャリアプランの検討(時間の視点から)	【予習】 現時点で考える自分のライフプランについて、おぼろげながらも考えてくる。 【復習】 講義内で設定したワークライフバランスを現実にするにはどうすればいいかを考える	4時間	
14	林 修三	国の財政状況や施策が自分のキャリアに与える影響	【予習】 国の予算案および人口構成ピラミッドについて調べておく。 【復習】 自分なりの将来予測に対し、どういう対処をすべきかを考える	4時間	
教科書	なし				
参考書	なし				
備考	<p>●教材・ワークシートは毎回の講義に合わせて google classroom にて都度事前に配信するので、必ず各自でダウンロードまたは印刷し、当日は各自のデバイスまたは印刷した紙にて閲覧すること。ただし、学習効率の観点から、スマホ利用は推奨しません。</p> <p>●講義の運営・管理に関する問い合わせは、原則として google classroom 上にて受け付ける。</p>				

科目名	キャリアサポート			担当者	林 修三
科目ナンバリング	1100432088				非常勤
D P	4			教員研究室	非常勤講師室
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
就職活動の進行のしかたは、その時々 ¹ の社会経済環境や国の施策等によって大きく変化する。 リアルタイムで生じるその変化内容を詳細に解説したうえで、就職活動を成功させるために必要な知識や能力について広く習得することを目指す。特に、選考を含む採用活動全般に関し、“企業側の思考”を理解し、それを前提にした対処の仕方について、実践的なノウハウを身につけていく。		講義内容に関する質問は、講義中であれば随時、講義終了直後はその場で、google classroom上で寄せられたものは次回講義の冒頭で、それぞれ回答・解説する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
就職活動の基本知識と、採用選考を突破するための思考法・表現技法を身につける。		● google classroomを活用した出欠管理を行っていく予定のため、自身の環境に合わせて利用できるよう各自で事前に準備をしておくこと。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
定期試験の点数のみにて評価する。 ただし、全14回中5回以上欠席をした場合、単位取得資格を失う場合がある。		●各回毎に設定する google classroom 上での出席確認フォームから必要事項を送信することをもって、当該回次の出席扱いとする。 (ただ単にその場に「いただけ」あるいは「いたという主張だけ」では出席したとは認めない)			
		【実務家教員担当科目】			
		キャリアコンサルタント兼採用コンサルタントを事業として行っている教員が、その経験と知見を活かして、リアルタイムで進行していく採用選考への対応法について指導を行う。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	林 修三	講座ガイダンス、オリエンテーション	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
2	林 修三	就職活動の想定スケジュールと取るべき基本戦略	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
3	林 修三	筆記試験対策概論	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
4	林 修三	SPI非言語対策特論(1)	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
5	林 修三	SPI非言語対策特論(2)	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
6	林 修三	SPI非言語対策特論(3)	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
7	林 修三	企業情報の効果的な入手・分析方法	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
8	林 修三	エントリーシート文章の絶対原則	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
9	林 修三	自己PRのひな型を作る	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
10	林 修三	評価される志望動機の構成法	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
11	林 修三	エントリーシート文章の修正ワーク	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
12	林 修三	会社説明会などで好印象を残し内定に近づく振る舞い方	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
13	林 修三	グループディスカッション対策の視点	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
14	林 修三	面接の対応ノウハウ解説	企業の採用情報サイトや、インターンシップ受付サイトを常時確認したり、任意のSPI対策本・エントリーシート対策本等を読むなど、「実際の採用選考」を意識した学習を各自で行うこと。		4時間
教科書	特になし。ただし、毎回の講義に合わせて、google classroomにて事前に資料を配信するので、必ず各自でダウンロードまたは印刷し、当日は各自のデバイスまたは印刷した紙にて閲覧すること。				
参考書	任意の就職活動対策本				
備考	講義の運営・管理に関する問い合わせは、原則として google classroom 上にて受け付けます。				

科目名	卒研セミナー I			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸・熊谷 陽介
科目ナンバリング	1100432089				常勤・非常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・前期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 これまでの講義、演習、実習等による学習の成果を踏まえ、室内・建築・都市・環境における諸問題にテーマを求め、各コースの研究室配属を決定する。担当教員の指導の下、自主的学習を通じて専門的知識及び技能を高める。 また、上記の過程を通じて、卒研セミナーⅡ、卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱとして取り組む分野、テーマについて方向性を見出す。</p> <p>【学習の到達目標】 室内・建築・都市・環境における諸問題において、自らテーマを求め、自主的学習を通じて研修レポートをまとめ発表、討議が行えるだけの専門的知識及び技能を高める。</p> <p>【成績評価方法】 研修レポート、成果物、発表・討議等により、総合的に判断する。</p>					
授 業 計 画					
指導は少人数クラス制とし、全教員がこれにあたる。 個別のテーマの自主学习を担当教員がガイド、指導する。学習成果は梗概にまとめ、期末に行われる報告会に発表する。さらに、複数教員との質疑を交わす。					
教科書	担当の指導教員の指示による				
参考書	担当の指導教員の指示による				
備考	なし				

科目名	卒研セミナーⅡ			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸・大泉 浩一
科目ナンバリング	1100432090				常勤・非常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	3年次・後期
授業形式	演習	授業時間	60時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 これまでの講義、演習、実習等による学習の成果を踏まえ、室内・建築・都市・環境における諸問題にテーマを求め、各コースの研究室配属を決定する。担当教員の指導の下、自主的学習を通じて専門的知識及び技能を高める。 また、上記の過程を通じて、卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱとして取り組む分野、テーマについて方向性を見出す。</p> <p>【学習の到達目標】 室内・建築・都市・環境における諸問題において、自らテーマを求め、自主的学習を通じて研修レポートをまとめ発表、討議が行えるだけの専門的知識及び技能を高める。</p> <p>【成績評価方法】 研修レポート、成果物、発表・討議等により、総合的に判断する。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 随時実施。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 担当の指導教員の指示による</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 卒研セミナーⅡならびに卒業研修Ⅰ、卒業研修Ⅱに連なる知識と技能を得る。</p> <p>【実務家教員担当科目】 一部該当。</p>					
授 業 計 画					
指導は少人数クラス制とし、全教員がこれにあたる。 個別のテーマの自主学习を担当教員がガイド、指導する。学習成果は梗概にまとめ、期末に行われる報告会に発表する。さらに、複数教員との質疑を交わす。					
教科書	担当の指導教員の指示による				
参考書	担当の指導教員の指示による				
備考	なし				

科目名	卒業研修 I			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸
科目ナンバリング	1100442091				常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・前期
授業形式	実験	授業時間	180時間	単位	必修 4単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 指導教員と協議の上、専攻テーマを選択する。最終年次の総合的学習として位置づけ、問題の発見、方法の学習、問題の解決のプロセスを通じて、主体的な学習能力と創造的な発想能力の涵養を目指す。		【課題等のフィードバック方法】 随時実施。			
【学習の到達目標】 専攻テーマを定め、問題解決のプロセスを通じて主体的な学習能力と創造的な発想能力を養う。		【履修上の注意・予習・復習について】 担当の指導教員の指示による			
【成績評価方法】 研修レポート、成果物、発表・討議等により、総合的に判断する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 卒業研修Ⅱと合わせて、本学科の学習成果を総合的にまとめる講義として位置づけられる重要科目である。			
		【実務家教員担当科目】 一部該当。			
授 業 計 画					
<p>指導は少人数クラス制とし、全教員がこれにあたる。 卒業研修としてふさわしい個別のテーマを担当教員の指導のもと決定する。学習成果は卒業研修Ⅱに続く中間の成果として、梗概にまとめ、期末に行われる報告会に発表する。さらに、複数教員との質疑を交わす。</p>					
教科書	担当の指導教員の指示による				
参考書	担当の指導教員の指示による				
備考	なし				

科目名	卒業研修Ⅱ			担当者	○八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・梅岡 恒治 富山 正幸
科目ナンバリング	1100442092				常勤
D P	2,4			教員研究室	1212
学科(専攻)	建築環境学科			配当年次	4年次・後期
授業形式	実験	授業時間	180時間	単位	必修 4単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
<p>【授業内容】 専攻テーマについて主体的、創造的な学習を進め、調査報告、論文作成、企画・計画、設計作品など様々な形態により、学習成果をまとめ発表する。</p> <p>【学習の到達目標】 設定したテーマの解決に向けて、自主的に調査・研究・制作に取り組み、論文または設計作品等の成果品としてまとめる。</p> <p>【成績評価方法】 成果をまとめた梗概ならびに卒業研修発表会の内容を、評価は指導にあたった主査ならびに2名の副査により評価する。</p> <p>【課題等のフィードバック方法】 随時実施。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 担当の指導教員の指示による</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 専攻テーマについて主体的、創造的な学習を進め、調査報告、論文作成、企画・計画、設計作品など様々な形態により、学習成果をまとめ発表する能力が身につく。</p> <p>【実務家教員担当科目】 一部該当。</p>					
授 業 計 画					
<p>専攻テーマについて、担当教員の指導により、主体的、創造的な研究・調査・制作活動を進める。その成果を調査報告、論文作成、企画・計画、設計作品など様々な形態によりまとめ、発表、質疑を交換する。</p>					
教科書	担当の指導教員の指示による				
参考書	担当の指導教員の指示による				
備考	なし				

東北文化学園大学

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

教務課

981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-6116 FAX 022-233-6419
教務課 kyomu@office.tbgu.ac.jp